

茨城県教育財団文化財調査報告第182集

上野陣場遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

上 卷

平成14年3月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第182集

うえ の じん ば
上野陣場遺跡

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

上 巻

平成 14 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団



上野陣場遺跡遠景



古墳時代出土遺物

序

つくば市は、国際交流の拠点にふさわしい町づくりを進めております。この町づくりの一環として、つくば市と都市基盤整備公団茨城地域支社は、市と東京圏を直結する「つくばエクスプレス」の開発と同時に、沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

財団法人茨城県教育財団は、都市基盤整備公団茨城地域支社から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成8年4月から平成9年7月までは中谷津遺跡を、平成9年8月からは中原遺跡の発掘調査を実施してまいりました。その成果はすでに当財団の文化財調査報告第139集、第155集、第159集、第170集として報告したところであります。

本書は、上野陣場遺跡の平成12年度における調査の成果を取録したものであります。本書が、研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である都市基盤整備公団茨城地域支社から賜りました多大なるご協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導・御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成14年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、都市基盤整備公団茨城地域支社の委託により財団法人茨城県教育財団が平成12年6月から平成13年3月まで発掘調査を実施した、つくば市大字上野字陣場851番地ほかに所在する上野陣場遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。
調 査 平成12年6月1日～平成13年3月31日
整 理 平成13年4月1日～平成14年3月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第二課長鈴木美治の指揮のもと、調査第二課第1班長瓦吹堅、主任調査員村上和彦、同小竹茂美、同長谷川聡、副主任調査員荒崎克一郎が平成12年4月から平成13年3月まで担当し、副主任調査員宮田和男が平成12年7月から平成13年3月まで、副主任調査員大塚雅昭が平成12年6月及び平成13年10月から平成13年3月まで、主任調査員高野節夫が平成13年2月から平成13年3月まで、主任調査員原信田正夫が平成13年3月に加わった。
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長瓦吹堅の指揮のもと、主任調査員川上直登、同長谷川聡、副主任調査員大塚雅昭が担当した。執筆分担は、以下のとおりである。
川上 例言 凡例 抄録 第1章から第3章第2節
長谷川 第3章第3節 縄文時代、弥生時代、奈良時代、平安時代
大塚 第3章第3節 古墳時代 まとめ
- 5 発掘調査及び整理に際し、御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅷ系座標を用いて区画し、上野陣場遺跡はX軸 = +12880.00m、Y軸 = +26080.00mの交点を(A1 a1)とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

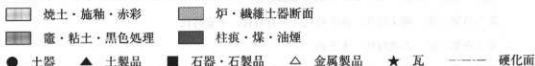
大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1 a1区」、「B2 b2区」のように呼称した。

- 2 土層の観察と遺物の観察における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研地業株式会社)を使用した。

- 3 遺構、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 掘立柱建物跡-SB 溝-SD 土坑-SK 横列・ピット列-SA
土層 攪乱-K

- 4 遺構及び遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



- 5 遺構・遺物実測図の記載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は300分の1、各遺構の平面図は60分の1の縮尺で掲載することを原則とした。
- (2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで示した。
- 6 「主軸」は、炉・竈を持つ壁穴住居跡については炉・竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例「N-10°-E」)。

なお、推定値は[]を付して示した。

- 7 遺物観察表の作成方法については次のとおりである。

- (1) 土器の計測値は、口径、器高、底径とし単位はcmである。
- (2) 備考の欄は、土器の残存率、及びその他必要と思われる事項を記した。

抄 録

ふりがな	うえのじんばいせき							
書名	上野陣場遺跡							
調査名	中根・金田台特定土地地区図整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	V							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第182集							
著者名	川上 直登 長谷川 聡 大塚 雅昭							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2							
発行日	2002年(平成14年)3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
上野陣場遺跡	茨城県つくば市 大字上野字陣場 851番地ほか	509	36° 6' 50"	140° 7' 26"	23.9m ～ 26.5m	20000601 ～ 20010331	13,809㎡	中根・金田台特定土地地区図整理事業 に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
上野陣場遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴住居跡	8軒	縄文土器(花袋下層, ニツ木, 関山, 加曾利EⅡ), 石器・石製品(球状耳飾, 石鏃, 石匙, 敲石, 凹石, 剥片)	縄文時代から近世までの複合遺跡で, 6世紀から11世紀にかけて隆盛した集落跡。古墳時代後期の集落跡からは土師器・須恵器など良好な資料が出土している。また, 奈良時代の水丞と考えられる大型円形土坑が検出されている。		
			土坑	8基	縄文土器(花袋下層, ニツ木, 関山, 踏碇り, 加曾利EⅡ, 畑ノ内)			
	弥生時代	堅穴住居跡	5軒	弥生土器(上層古式期), 土製品(紡錘車)				
		土坑	1基	弥生土器(上層古式期)				
	古墳時代	堅穴住居跡	80軒	土師器(坏, 高坏, 碗, 鉢, 甕, 瓶, 手捏, ミニチュア土器), 須恵器(坏, 蓋, 長頸瓶, フラスコ瓶, 鉢, 控鉢), 土製品(紡錘車, 土玉, 管状土鏃), 石器・石製品(勾玉, 紡錘車, 双孔円盤), 鉄製品(鉄鏃, 鉄鏃, 刀子)				
			掘立柱建物跡	3棟	土師器(坏), 須恵器(高台付坏)			
		土坑	2基	土師器(坏, 甕)				
		奈良時代	堅穴住居跡	15軒	土師器(坏, 碗, 鉢, 台付甕, 甕, 瓶, 手捏), 須恵器(坏, 高台付坏, 高坏, 蓋, 鉢, 甕, 円面碗), 灰釉陶器(坏, 甕, 甕), 石製品(砥石), 鉄製品(刀子, 鏃, 鏃), 銅製品(耳環)			
	大型円形土坑			3基	土師器(坏, 高台付坏, 鉢, 甕, 器台), 須恵器(高台付坏, 鉢, 甕, 小形甕), 灰釉陶器(甕, 長頸甕, 水注), 緑釉陶器(輪花瓶, 輪花皿), 石製品(勾玉), 鉄製品(鏃), 銅製品(耳環)			
	平安時代	堅穴住居跡	55軒	土師器(坏, 高台付坏, 高台付甕, 皿, 小皿, 碗, 鉢, 小形甕, 甕, 瓶), 須恵器(坏, 皿, 蓋, 鉢, 控鉢, 小形甕, 短頸甕, 瓶), 灰釉陶器(甕, 長頸甕), 土製品(管状土鏃, 紡錘車), 石製品(甕, 紡錘車), 鉄製品(刀子, 斧, 鏃, 鏃先, 飯具), 銅製品(鈍尾)				
			掘立柱建物跡	11棟	土師器(坏, 高台付坏, 皿), 須恵器(坏, 甕), 石製品(紡錘車)			
		土坑	8基	土師器(坏, 高台付坏), 須恵器(坏), 灰釉陶器(坏), 鉄製品(刀子)				
中・近世		火葬施設	1基					
	墓塚	4基	ガラス製品(数珠玉), 煙管, 古銭(寛水通宝)					
時期不明	堅穴住居跡	12軒	縄文土器(ニツ木式), 弥生土器, 土師器(坏, 高坏, ミニチュア土器), 須恵器(坏)					
		掘立柱建物跡	7棟	土師器(坏)				
		土坑	344基	土師器(甕), 石製品(紡錘車), 鉄製品(鏃)				
	ピット列	3か所						

目 次

— 上 卷 —

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 土坑	29
2 弥生時代	35
(1) 竪穴住居跡	35
(2) 土坑	44
3 古墳時代の遺構と遺物	45
(1) 竪穴住居跡	45
(2) 掘立柱建物跡	264
(3) 土坑	268
4 奈良時代の遺構と遺物	269
(1) 竪穴住居跡	269
(2) 大型円形土坑	311

— 下 卷 —

5	平安時代の遺構と遺物	323
(1)	竪穴住居跡	323
(2)	掘立柱建物跡	429
(3)	土坑	446
6	中・近世の遺構と遺物	453
(1)	火葬施設	453
(2)	墓塚	454
7	その他の遺構と遺物	460
(1)	竪穴住居跡	460
(2)	掘立柱建物跡	471
(3)	溝	480
(4)	土坑	488
(5)	その他の土坑	493
(6)	ピット列	523
(7)	遺構外出土遺物	525
第4節	まとめ	550

写真図版

付 図

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市は、国際交流の中心、科学技術をリードする研究開発の拠点として新しい町づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが、つくば市と東京圏を直結する「つくばエクスプレス」の建設とそれに伴う沿線開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局(平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更)を事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局は茨城県教育委員会あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は平成7年5月15日から6月8日にかけて現地踏査を、平成11年10月28日、29日、12月15日に試掘・確認調査を実施し、事業地内において上野陣場遺跡の所在を確認し、12月22日に都市基盤整備公団茨城地域支社及びつくば市教育委員会あてに、その旨を回答した。平成12年3月21日に都市基盤整備公団茨城地域支社は茨城県教育委員会と、事業地内に所在する上野陣場遺跡(13,809㎡)の取り扱いについて協議した。その結果、3月21日、茨城県教育委員会は、都市基盤整備公団茨城地域支社あてに記録保存とする旨を回答し、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。そこで、都市基盤整備公団茨城地域支社は財団法人茨城県教育財団と上野陣場遺跡の発掘調査に関する委託契約を結び、財団法人茨城県教育財団は、平成12年6月1日から発掘調査を開始した。

第2節 調査経過

項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備	■									
伐開作業		■								
重機による表土除去			■							
遺構確認				■						
遺構調査					■	■	■	■	■	■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

上野陣場遺跡は、茨城県つくば市大字上野字陣場851番地ほかに所在する。

つくば市は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた標高が25～27mのほぼ平坦な台地からなり、つくば市の東方約5kmには霞ヶ浦が、北端には筑波山が位置している。この台地の両端を流れる桜川と小貝川によって大きく開析された流域には、標高約5mほどの沖積低地が形成され、台地との標高差は約20mである。また、花室川、蓮沼川、東谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁部を浅く開析している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積する。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、その上に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている。関東ローム層は、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ロームに比定され、軽石層の分布をみると、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

当遺跡は、つくば市の東部、桜川右岸の標高25～27mの台地縁部に立地し、東側と南側に幅の狭い谷津が入り込み、その低位面との比高差は約10mである。

当遺跡とその周辺の土地利用の現状は、台地上は、縁辺部の一部が雑木林のほか主として畑地で、遺跡を挟む谷津と桜川流域の低地は水田として利用されている。

第2節 歴史的環境

上野陣場遺跡は、古墳時代を中心とした縄文時代から、中・近世にかけての複合遺跡である。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に、分布の概要について述べる。

旧石器時代の石器は数多く出土している。ナイフ形石器や尖頭器は桜川左岸のつくば市中台遺跡、東谷田川右岸の前野遺跡、花室川左岸の同市柴崎遺跡、東関中原遺跡(20)、蓮沼川左岸の荻間神田遺跡(27)から出土している。特に、中原遺跡では10か所の石器集中地点が確認されている。平成11年度の調査では、3か所の石器集中地点から、ナイフ形石器、掻器、楔形石器、尖頭器、石核、石刃、剥片などが多数出土している。

縄文時代になると、最も高揚した中期の当流域では天神遺跡(7)、中台遺跡、下広岡遺跡など、多くの遺跡が存在し、また、貝塚も見られ、下流域では国指定史跡の土浦市上高津貝塚(59)がその一つである。

弥生時代の遺跡は10遺跡以上が確認されている。特に、堅穴住居跡183軒が調査された土浦市原出口遺跡をはじめとする原田北遺跡群は後期の集落跡として注目される。

古墳時代の遺跡は、当流域では約80遺跡が確認されている。中台遺跡では100軒の堅穴住居跡のほか、65基の古墳と、2基の方形周溝墓が確認され、墓域と居住域の複合地域であったことが判明している。また、小田橋遺跡では、6～7世紀の堅穴住居跡9軒が確認されている。古墳群は、同市玉取古墳群(48)をはじめ、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した同市滝の古墳群(50)、埴輪片・石棺破片が出土している横町古墳群(52)、前方後円墳2基・円墳1基から構成される松塚古墳群(57)などがある。

奈良・平安時代になると、桜地区は河内郡菅田郷に属し、この時代の遺跡は、この流域において32遺跡が確

認されている。なかでも、当遺跡の南々東約2kmに位置する金田西・西坪B遺跡、九重東岡廃寺跡が目目される。九重東岡廃寺跡からは、礎石、瓦塔、蔵骨器などが出土しており、1984年には筑波大学、2000年12月から2001年1月には茨城県教育財団により確認調査が実施され、基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されたほか、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などが瓦溜め土坑から出土した。金田西・西坪B遺跡では、1959年に桜中学校校庭の拡張工事に伴い表土を除去したところ、倉庫跡と考えられる3間×4間で総柱の掘立柱建物跡3棟が確認され、炭化米も多量に出土した。台地下の低地には糸里遺跡も存在することなどから、旧河内郡の郡衙城の一部と推定されている。また、両遺跡に隣接しているつくば市東岡中原遺跡は、これら郡衙城と密接に関係する集落跡と考えられている。また、桜川の上流左岸には、筑波郡衙及び郡寺の平沢官衙遺跡や筑波廃寺(中台廃寺)跡も所在している。他にも、160軒以上の堅穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されたつくば市柴崎遺跡(18)や、九重廃寺系軒平瓦と筑波廃寺系軒丸瓦が出土した同市下大島遺跡などが確認されている。

中世以降の遺跡としては、特に城館跡が多く、桜川左岸の小田氏の居城であった国指定史跡の小田城跡(31)をはじめ、桜川右岸には、方穂故城跡(47)、金田城跡(53)、花室城跡(55)、上ノ室城跡(56)などがある。また、筑波山の南、三村山麓一帯には中世寺院群が位置し、つくば市三村山清冷院極楽寺跡(29)には、13世紀半ば、大和の高僧忍性が来往して、布教に努めたことが伝えられている。戦国期から江戸時代において、当地域は、佐竹氏の支配下を経て、多くが土浦藩に属することになり、金田台地区は明治4年(1871年)の廃藩置県に至るまでその支配下にあった。

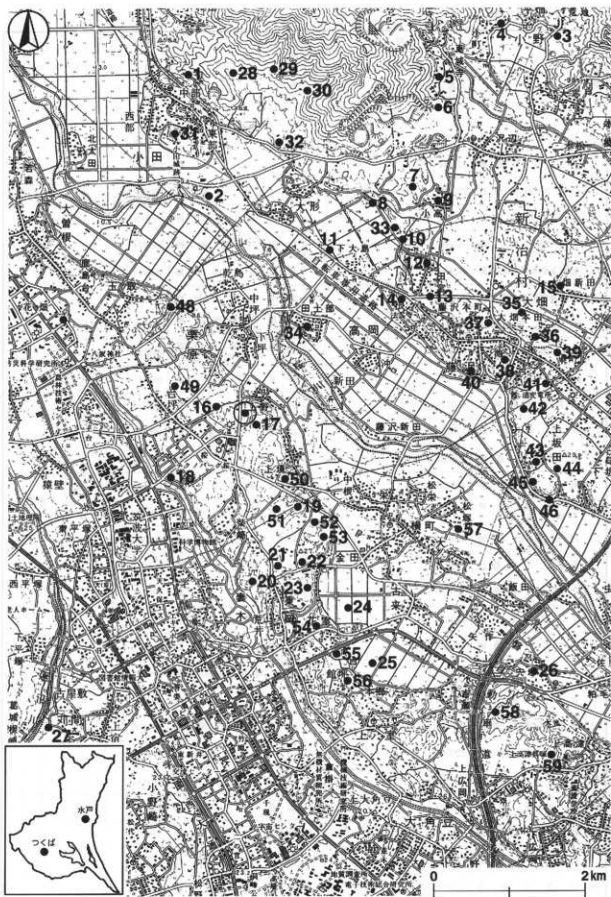
※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び周辺遺跡一覧表中の該当遺跡番号と一致している。

註

- ・ 大山年次、蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 コロナ社 1986年
- ・ 蜂須紀夫、大森昌衛 『茨城の地質をめぐって』 築地書館 1979年
- ・ 茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図(2版)』 茨城県教育委員会 1990年
- ・ 桜村史編さん委員会 『桜村史 上巻』 桜村教育委員会 1982年
- ・ 九重廃寺遺跡調査団 『東岡遺跡-九重廃寺調査報告-』 桜村教育委員会 1984年
- ・ 大穂町史編纂委員会 『大穂町史』 つくば市大穂地区教育事務所 1989年
- ・ 筑波町史編纂専門委員会 『筑波町史 上巻』 つくば市 1988年
- ・ 中山信名 『新編常陸国誌(宮崎報恩会版)』 嵩書房 1969年
- ・ 茨城県史編纂委員会 『茨城県史 原始古代編』 茨城県 1985年
- ・ 茨城県史編さん第一部会 原始古代専門委員会 『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』 茨城県 1979年
- ・ 茨城県史編纂会 茨城県立歴史館 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 茨城県 1995年
- ・ 佐久間好雄 他 『図説 茨城県の歴史』 河出書房新社 1995年
- ・ 茨城県教育財団 『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) 柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ-1区』 『茨城県教育財団文化財調査報告』 第54集 1989年
- ・ 茨城県教育財団 『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 柴崎遺跡Ⅱ区 中塚遺跡』 『茨城県教育財団文化財調査報告』 第63集 1991年
- ・ 茨城県教育財団 『研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 柴崎遺跡Ⅲ区』

【茨城県教育財団文化財調査報告】 第72集 1992年

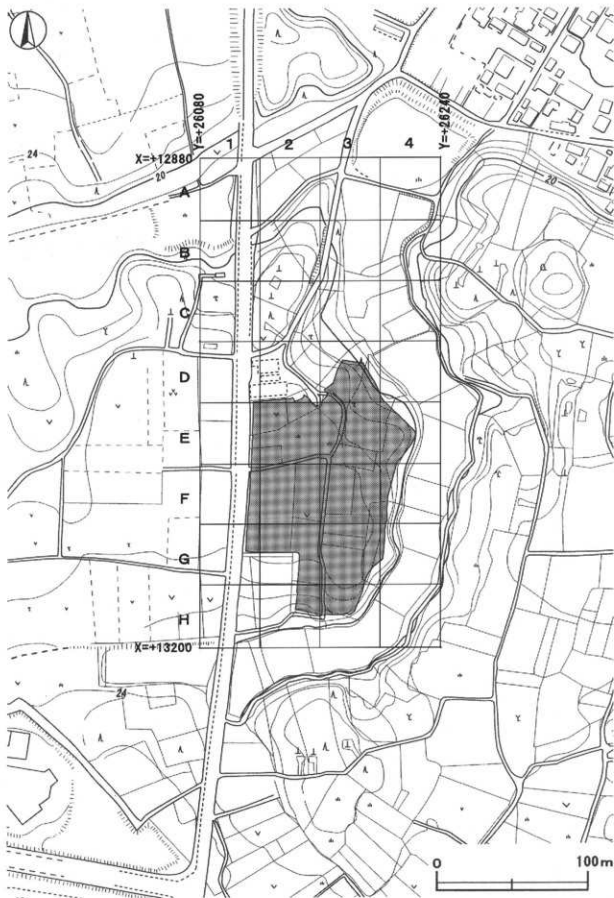
- ・ 茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜葉崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 桜崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」 【茨城県教育財団文化財調査報告】 第93集 1994年
- ・ 茨城県教育財団 「土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 原出口遺跡」 【茨城県教育財団文化財調査報告】 第94集 1995年
- ・ 茨城県教育財団 「(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡」 【茨城県教育財団文化財調査報告】 第102集 1997年
- ・ 茨城県教育財団 「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田遺跡」 【茨城県教育財団文化財調査報告】 第121集 1997年
- ・ 茨城県教育財団 「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田遺跡」 【茨城県教育財団文化財調査報告】 第134集 1998年
- ・ 茨城県教育財団 「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」 【茨城県教育財団文化財調査報告】 第170集 2001年



第1図 上野陣場遺跡周辺遺跡位置図

表1 周辺遺跡一覧表

國中番号	遺跡名	県道番号	時代					國中番号	遺跡名	県道番号	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安				中・近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安
○	上野陣場遺跡	220509	○	○	○	○	○	30	常願寺廃寺	220190						○
1	小田田向遺跡	220200		○			○	31	小田城跡	220139						○
2	小田小田橋遺跡	220207				○	○	32	小田古墳群	220182				○		
3	小野荒城前遺跡	465082				○	○	33	高崎山古墳群	465038				○		
4	小野窯跡	465043					○	34	田土部館跡	465074						○
5	東城寺桑木須恵器窯跡	465073					○	35	大畑本田遺跡	465014	○	○	○	○		
6	東城寺寄居須恵器窯跡	465105					○	36	大畑本田貝塚	465114		○				
7	小高天神遺跡	465039	○	○	○			37	藤沢山後遺跡 (岡の宮遺跡)	465018		○		○	○	
8	小高須恵器窯跡	465100					○	38	藤沢北斗遺跡 (岡の宮遺跡)	465018		○	○			
9	小高村内須恵器窯跡	465106					○	39	東町遺跡	465015		○		○		
10	田宮須恵器窯跡	465115					○	40	藤沢城跡	465019						○
11	下大島遺跡	220203					○	41	南原遺跡	465012					○	○
12	田宮高岡遺跡	465027				○	○	42	北坂田貝塚	465102		○	○			
13	田宮古墳群	465025				○		43	上坂田寺貝塚	465103		○	○			
14	高岡板遺跡 (岡の宮遺跡)	465018		○		○	○	44	武者塚古墳群	465070					○	
15	大畑新田遺跡	465079		○	○	○		45	上坂田古墳群	465009					○	
16	栗原大山西遺跡	220472					○	46	下坂田古墳群	465007					○	
17	上野古屋敷遺跡	220510		○		○	○	47	方穂故城	220016						○
18	柴崎遺跡	220128				○	○	48	玉取古墳群	220003					○	
19	中根中谷津遺跡	220220	○	○			○	49	栗原才十郎遺跡	220107		○				
20	東岡中原遺跡	220222	○	○		○	○	50	上境滝の台古墳群	220099					○	
21	九重東岡廃寺跡	220121					○	51	上境旭台貝塚	220093		○			○	
22	金田西坪B遺跡	220110		○		○	○	52	横町古墳群	220100					○	
23	金田西遺跡	220522		○		○	○	53	金田城跡	220122						○
24	金田本田遺跡	220106					○	54	花室遺跡	220111		○				
25	上ノ室桑里	220127					○	55	花室城跡	220124		○	○	○	○	○
26	般若寺跡	203127					○	56	上ノ室城跡	220123		○				○
27	荷間神田遺跡	220085	○	○	○	○	○	57	松塚古墳群	220103					○	
28	尼寺入庵寺	220191					○	58	穴塚遺跡	203126		○	○			
29	三村山清冷院極楽寺跡	220192					○	59	上高津貝塚	203115		○		○	○	



第2図 上野陣場遺跡調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

上野陣場遺跡は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高25~27mの台地上に立地し、調査区は台地の東部縁辺部に位置している。南北は小支谷に挟まれ、小支谷は休耕田となっており、その低位面との比高差は約10mである。主な遺構は平坦部に集中しているが、大型円形土坑は斜面に近い位置に構築されており、調査前の現況は畑地、平地林である。

当遺跡は、縄文時代前期から中・近世までの複合遺跡であるが、古墳時代後期を中心としている。検出された竪穴住居跡の内訳は縄文時代8軒、弥生時代5軒、古墳時代80軒、奈良時代15軒、平安時代55軒で、時期不明のものを含めて175軒である。その他、掘立柱建物跡21棟、溝跡22条、土坑363基、大型円形土坑3基、墓竈4基、火葬施設1基が検出されている。

遺物は、収納コンテナに約300箱出土し、遺物の大部分は土師器、須恵器である。その他、縄文土器片、弥生土器片、灰粘陶器片、緑粘陶器片、鉄製品、石器、石製品、土製品、古銭、人骨が出土している。

第2節 基本層序

調査区内に土層観察用の試掘を行い、第3図に示すような土層堆積状況を確認した。

第1層は、黒褐色耕作土。

第2層は、暗褐色の腐植土層である。

赤色粒子、黒色粒子を微量含んでいる。

第3層は、暗褐色の腐植化の進んだ

ローム土層で、第2層より色みが強い。

赤色粒子、黒色粒子を微量含んでいる。

第4層は、褐色のローム土層である。

赤色粒子、黒色粒子を微量含んでいる。

第5層は、褐色のローム土層である。

第4層より色みが強く、赤色粒子を微量含んでいる。

第6層は、暗褐色のローム土層である。

黒色粒子を微量含み、第二黒色帯に対応する。

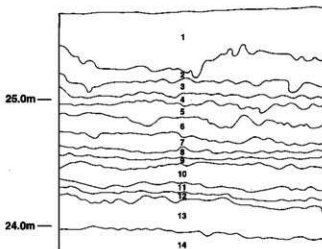
第7層は、褐色のローム土層である。黒色粒子を少量含んでいる。

第8層は、褐色のローム土層である。第7層より色みが強く、黒色粒子、白色粒子を微量含んでいる。

第9層は、にぶい褐色のローム土層である。白色粒子を少量含み、黒色の小ブロックも微量含まれて、粘性が強い。

第10層は、にぶい橙色のローム土層である。赤色粒子、黒色粒子を微量含み、粘性が強い。

第11層は、橙色のローム土層である。白色粒子を含み、黒色粒子を微量含んでいる。粘性が強く、締まって



第3図 基本土層図

いる。

第12層は、にぶい黄褐色の粘土層である。粘土粒子を多量に含んでいる漸移層で、赤色粒子、黒色粒子を微量含んでいる。粘性が強く、締まっている。

第13層は、灰白色の粘土層である。黒色の小ブロック、赤色の小ブロック、赤色粒子を微量含んでいる。

第14層は、浅黄色の粘土層で、砂粒を少量含む砂層への漸移層である。赤色粒子、赤色ブロックを微量含んでいる。

選擧は、第4層の上面で確認できた。

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で、縄文時代の遺構は、竪穴住居跡8軒、土坑8基が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第34号住居跡（第4・5図）

位置 調査区北部のE2g5区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第103号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸3.60m、短軸2.53mの南北方向に長い長方形で、主軸はN-49°-Wであり、壁高は6~8cmで、緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 は平坦で、軟質である。

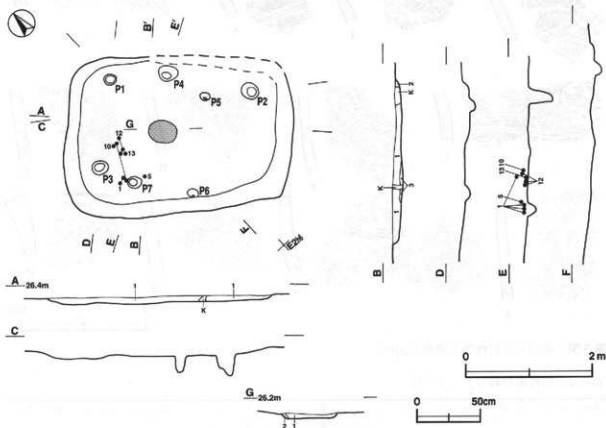
炉 中央部の南西寄りに付設された長径46cm、短径38cmの楕円形で、床面を4cmほど掘り窪めた地床炉であり、炉床は赤変しているが、硬化していない。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量

ピット 7か所。主柱穴はP1~3で、深さ9~36cmである。P4~7の性格は不明である。

覆土 3層からなる。中央部下層の第3層はブロック状の人為堆積の状況を示し、他はレンズ状の自然堆積の



第4図 第34号住居跡実測図

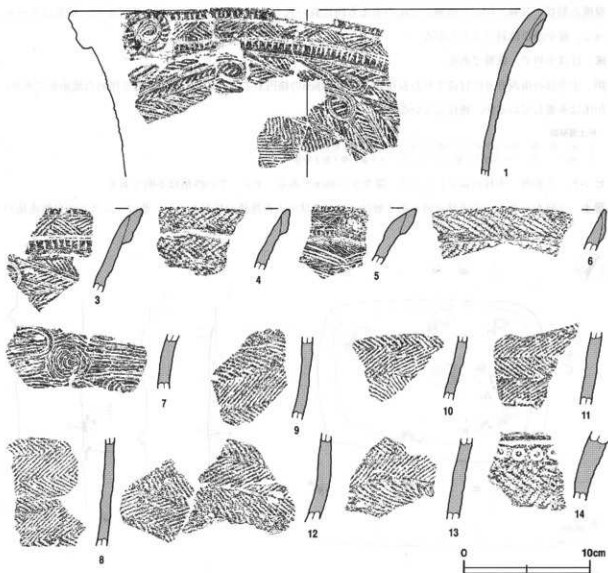
状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片291点、剥片20点が出土している。これらは覆土上層では南部に多く、炉周辺から西コーナー部にかけて多く出土している。このほかには、攪乱によって混入した土師器片17点、須恵器片2点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第5図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色	調	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[36.0]	(19.4)	-	口縁部は平縁の複合口縁で、縄文原体の押圧と沈線及び刻みが施されている。胴部には半節縄文による羽状縄文が施されている。	長石・石英・燧石	普通	に灰黄質	中央部下層	5% PI.75

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
3~14	縄文時代 前期前半	3は1と同一個体片。5も同様の文様構成を有し、ドーナツ状の隆帯が口辺部に貼付けられ、各隆帯上には刻みが施されている。7は手執行管による円文や平行波線が施文されている。4, 6, 8, 10~14はすべて羽状縄文を有する土器で、4, 6は口縁部片で、他はすべて胴部片である。14は羽状縄文の地文に横位の波線と円形管羽突文が施されている。いずれも胎土中に繊維を含んでいる。	5, 10は西部中層, 12, 13は西部下層, 3, 4, 6~9, 11は 覆土中	花横下層式 Pl.75

第103号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区北部西寄りのE1h0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は、北東に第34号住居跡が位置している。

重複関係 南部が第369号土坑を掘り込んでいる。

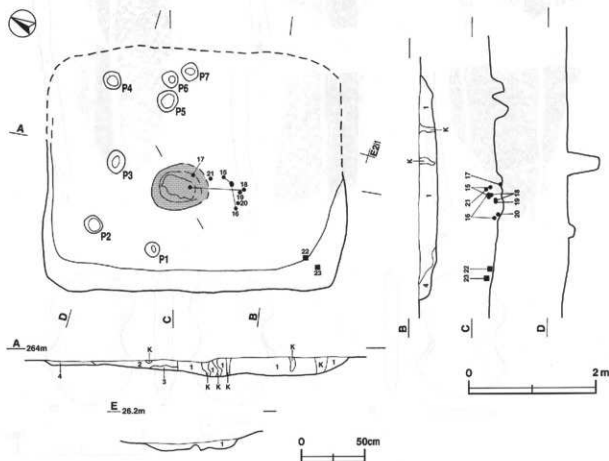
規模と形状 東半分が削平されて、東壁の立ち上がりは確認されなかったが、柱穴の位置や床面の広がりから、確認できた長軸4.82m、短軸3.85mで、形状は南北方向に長い長方形であると推測され、主軸方向はN-16°-Wであり、壁高は4cmほど緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 中央部に向かって緩やかに傾斜し、炉の周囲は軟質である。

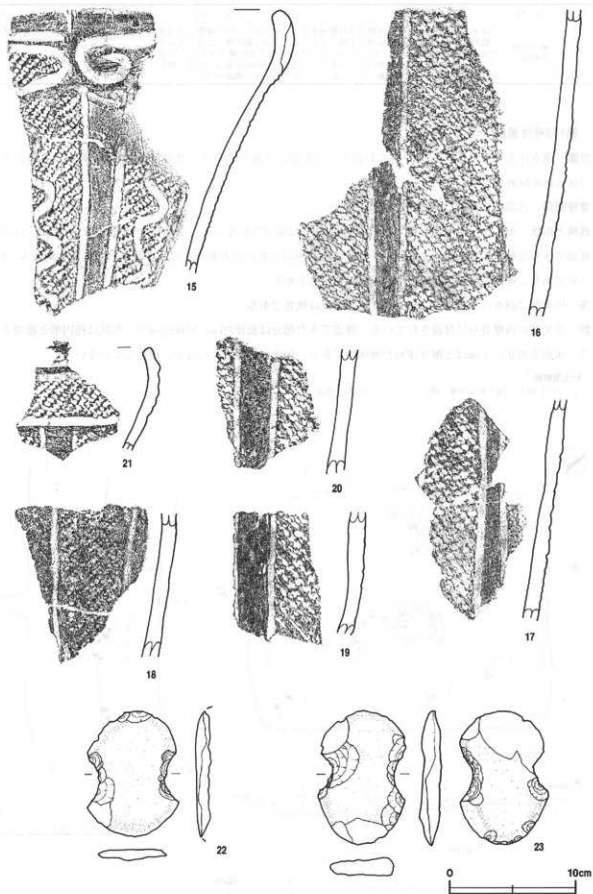
炉 中央部の西壁寄りに付設されている。確認できた部分は長径72cm、短径62cmで、形状は楕円形と推測される。床面を皿状に4cmほど掘り窪めた地床炉であり、炉床は赤変しているが、硬化していない。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量



第6図 第103号住居跡実測図



第7图 第103号住居跡出土遺物実測図

ピット 7か所。主柱穴はP1・2・4～7で、深さは11～21cmであり、P3の性格は不明である。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが、ロームブロックを含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片192点、石器3点（磨石1・打製石斧2）、礫6点が出土している。これらはほとんどが中央部の覆土中層から下層にかけての出土である。出土状況から15～21は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代中期後半と考えられる。

第103号住居跡遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
15	縄文土器	深鉢	[25.0]	(21.6)	-	口辺部にはやや退化した口辺部文様等をもつ。胴部はR Lの縄文地文に沈線による懸垂文区画内は縄文地文に能行沈線が施文されている。	長石・石英	普通	にぶい褐	中央部下層	S 5% PL75

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
16~21	縄文時代後半	16~20は胴部片で、L R Lの縄文地文に懸垂文が施されている。内面は縦方向に磨かれている。21は口縁部片で、R Lの縄文地文に沈線による退化した口辺部文様等がみられる。	16~20は中央部下層、 21は中央部上層	加曾利E II式 PL75

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
22	打製石斧	9.9	7.2	0.9	80.1	安山岩	刃部には使用によると思われる磨痕が認められる。	南部床面	
23	打製石斧	10.6	7.0	1.4	112.7	安山岩	磨削のための磨痕面に一部磨痕が認められる。	南部下層	

第126号住居跡（第8図）

位置 調査区中央部やや南寄りのG2 b8区に位置し、平坦部の南端に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第160号住居跡が位置している。

重複関係 北東コーナー部を第456号土坑が掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.05m、短軸3.75mの方形で、主軸はN-5°-Wであり、壁高は13～26cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 中央部に向かって緩やかに傾斜を示し、炉の東側と西側が、それぞれ踏み固められている。

炉 中央部の西壁寄りに付設されて、長径40cm、短径32cmの楕円形で、床面を4cmほど掘り留めている地床炉であり、炉床は焼土が広がるがそれほど硬化していない。

ピット 9か所。主柱穴はP1～3・5～9で、深さは16～27cmで、各コーナー寄りに位置している。P4は深さ14cmで、南壁際の中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

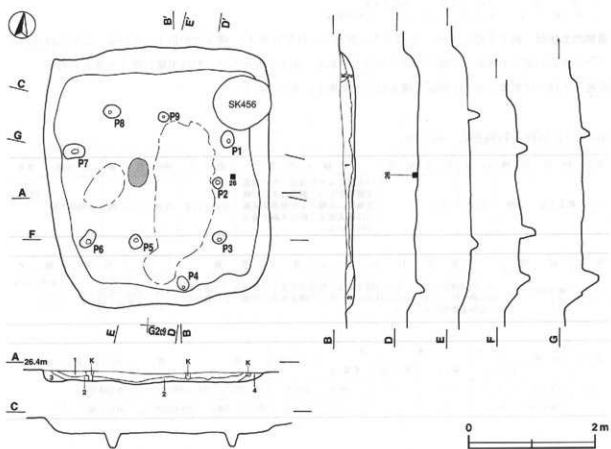
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片72点、石器3点（敲石・磨石・剥片）、礫2点が出土している。これらは北部の覆

土上層から覆土中層にかけて多く出土している。これらのほかには、擾乱によって混入した弥生土器片1点、土師器片4点、須恵器片2点、鉄滓1点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第8図 第126号住居跡・出土遺物実測図

第126号住居跡遺物観察表 (第8図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
24・25	縄文時代前期前半	24は口縁部片で、口唇部及び口縁部は貝殻腹縁の押圧が施文されている。 25は胴部片で、羽状縄文が施されている。いずれも胎土中に繊維を含んでいる。	覆土中	花様下層式 PL75

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
26	麻石	10.7	10.0	4.4	604.0	凝灰岩	上下面及び側縁部を線打面としている。	東部下層	

第160号住居跡 (第9・10図)

位置 調査区中央部のF2h8区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第126号住居跡が位置している。

重複関係 北壁中央部を第427号土坑、西壁中央部を第428号土坑、東壁際中央部を第426・432号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.60m、短軸4.00mの南北に長い長方形で、主軸はN-16°-Wであり、壁高は13~18cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、全体的に踏み固められている。

炉 中央部の南壁寄りに付設された長径66cm、短径46cmの楕円形で、床面を7cmほど掘り窪めている地床炉であり、炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量

ピット 6か所。主柱穴はP1~4で、深さは26~35cmで、各コーナー寄りに位置している。P5・6の性格は不明である。

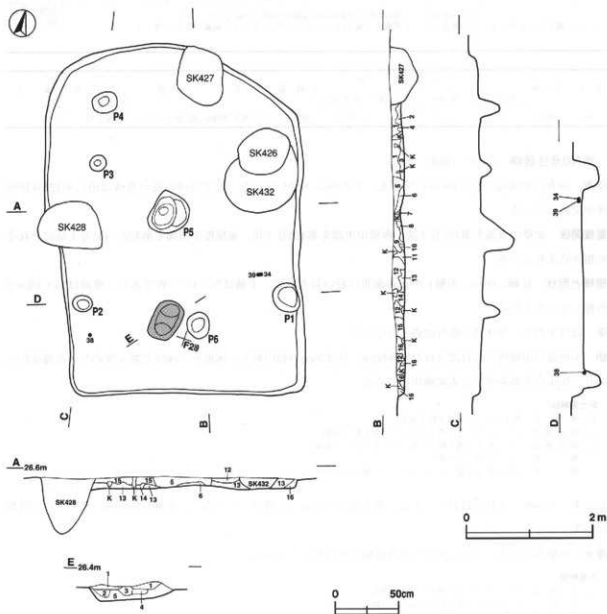
覆土 16層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

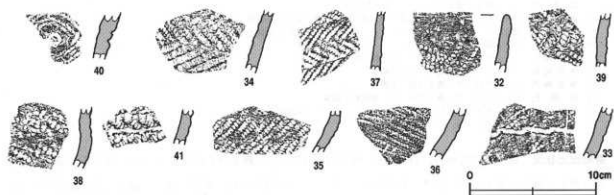
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 11 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 12 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 13 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 14 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 15 極暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片98点、石器3点(磨石1・剥片2)、礫2点が出土している。これらの遺物は北東部の覆土上層から覆土中層にかけて多く出土している。このほかには、攪乱によって混入した土器器片4点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第9図 第160号住居跡実測図



第10図 第160号住居跡出土遺物実測図

第160号住居跡遺物観察表 (第10図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
32-41	縄文時代前期前半	40は原体押圧、34、37は羽状縄文で34は0段多条と思われる。32は口縁部片で、部分的に縦方向の羽状構成を示す。38、39も羽状構成を示すが、明確に原体の太さが異なる。41にはカーブ文が見られる。35はL Rの縄文で、36は増加条縄文の可能性もある。33はL Rの縄文施文に結束痕が見られる。	34、39は東部下層、38は南部下層、32、33、35-37、40、41は覆土中	岡山式 PL75

第175号住居跡 (第11・12図)

位置 調査区中央部のF2e2区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第196号住居跡が位置している。

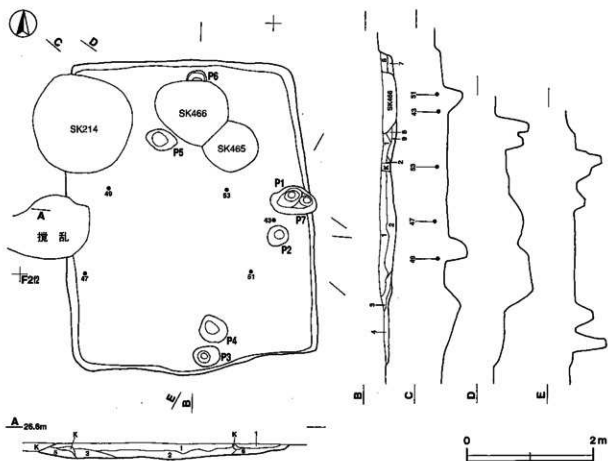
重複関係 北西コーナー部を第214号土坑、中央部の北壁寄り第465・466号土坑にそれぞれ掘り込まれている。
規模と形状 長軸4.87m、短軸3.91mの南北に長い長方形で、主軸はN-0°であり、壁高は7-15cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 ほほ平坦で、全体的に踏み固められている。

炉 炉は明確でないが、中央部の下位の土層に焼土粒子を含み、中央部がわずかに皿状に窪んでいることから、炉が付設されていたと考えられる。

ピット 7か所。主柱穴はP1・2・4・6で、深さは30-35cmである。P3・5・7の性格は不明である。

覆土 9層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。



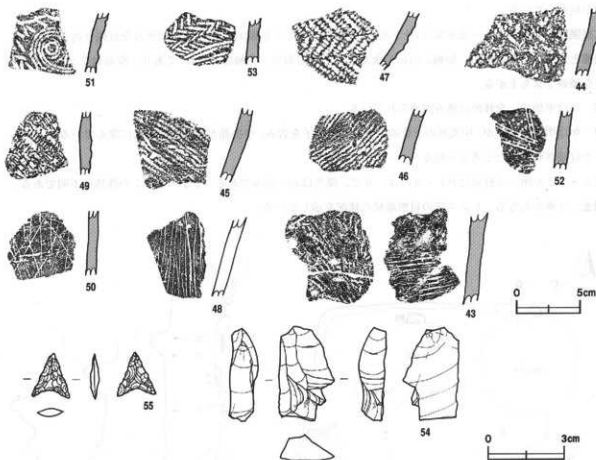
第11図 第175号住居跡実測図

土層解説

1 黒褐色	炭化粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子・砂粒少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、ロームブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 縄文土器片143点、石器2点（石鏃・剥片）、礫7点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から多く出土している。これらのほかには、攪乱によって混入した土師器片3点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第12図 第175号住居跡出土遺物実測図

第175号住居跡遺物観察表(第12図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
43	縄文時代早期末葉	43は胴部片で、表裏に貝殻条痕文が施文されている。胎土中に繊維を含む。	東部中層	茅山下層
44-53	縄文時代前期前半	いずれも胴部片であるが、51, 53は上部に位置し原形押圧文と短沈線による文様帯を有している。47, 49は羽状縄文、44は網状を呈し、45は単脚縄文、46は無節縄文である。52はかすか縄文地文に有節の並行沈線が見られる。48, 50にはやや鈍凸沈線が施文されている。	49は西部中層、51は南東部中層、53は東部中層、44-48, 50, 52, 54, 55は覆土中	PL76

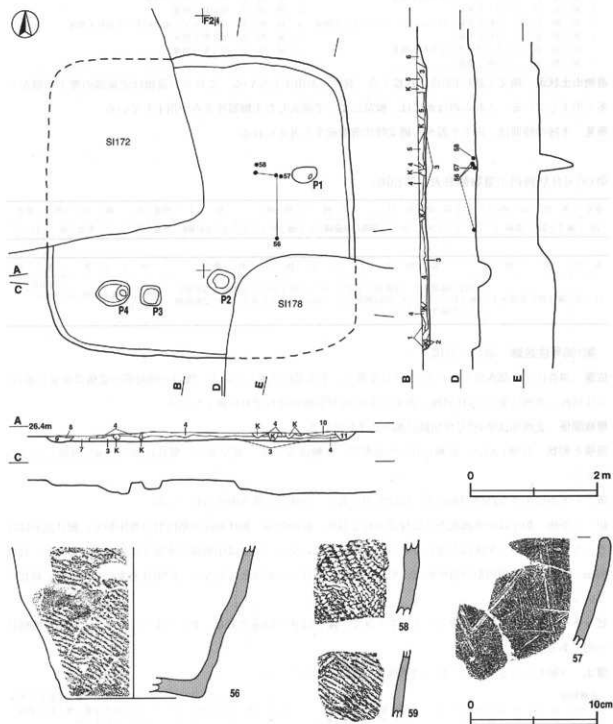
番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
54	剥片	3.6	2.2	1.1	6.15	凝灰岩	背面に礫面を残す縦長剥片。	覆土中	
55	石鏃	1.8	1.5	0.35	0.5	チャート	押圧割離による歯身部調整。	覆土中	

第195号住居跡 (第13図)

位置 調査区中央部西寄りのF2j4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第196号住居跡、北東に第160号住居跡、南西に第126号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 中央部北東コーナー部寄りが第467号土坑を掘り込み、北西部を第172号住居跡、南東部を第178号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.87m、短軸4.76mの方形で、主軸はN-1°-Wであり、壁高は12~14cmで緩やかな傾斜



第13図 第195号住居跡・出土遺物実測図

で立ち上がる。

床 わずかに小さな凸凹があるが、ほぼ平坦である。全体的に踏み固められている。

ピット 4か所。主柱穴はP2・4で深さは30・36cmで、コーナー寄りに位置し、P1・3の性格は不明である。

覆土 11層からなる。南西部の覆土上層の第1・7層と東壁際の第11層はブロック状の人為堆積の状況を示しているが、他の土層はレンズ状の自然堆積の状況を示している。第2層はロームブロックを含む褐色土で、壁際であることから、壁の崩落と考えられる。本跡は自然堆積し、上部の窪みに投棄され、埋め戻されたと考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色 ロームブロック微量
2 褐色 ロームブロック少量	8 黒褐色 炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子少量	10 暗褐色 炭化粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色 焼土粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子微量	

遺物出土状況 縄文土器片130点、石器1点(剥片)が出土している。これらの遺物は北東部の覆土下層から多く出土している。これらのほかには、攪乱によって混入した土師器片5点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。

第195号住居跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成色	調	出土位置	備考
56	縄文土器	深鉢	-	(11.9)	[10.6]	胴部は無節縄文rが施されている。	長石・石英・燧石	普通	褐色	東部下層	PL75

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
57-59	縄文時代前期前半	57は口縁部片で、切断面が不ぞろいのヘラ状工具による沈線が部分的に施されている。58、59は胴部片で、58は単純縄文LRが、59には無節縄文rが施されている。	57,58は北東部下層,59は覆土中	岡山式PL76

第196号住居跡(第14~17図)

位置 調査区中央部西寄りのF2i3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第195号住居跡、北西に第175号住居跡、北東に第160号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西部は第182号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.81m、短軸4.45mの方形で、主軸はN-30°-Wであり、壁高は16~32cmで外傾して立ち上がる。

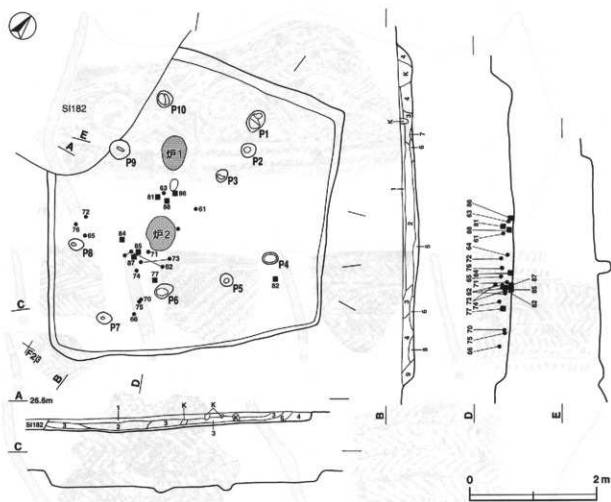
床 わずかに小さな凸凹があるが、ほぼ平坦である。全体的に踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部北寄りに付設されており、長径52cm、短径40cmの楕円形の地床炉で、掘り込みはほとんど見られない。炉床は赤変しているが、硬化していない。炉2は中央部の南寄りに付設されており、長径60cm、短径48cmの楕円形の地床炉で、炉1と同様に掘り込みがほとんどない。炉床は赤変しているが、硬化していない。

ピット 10か所。主柱穴はP1・4・7・9で、深さは10~14cmである。P2・3・5・6・8・10の性格は不明である。

覆土 9層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

1 暗褐色 ロームブロック・ローム粒子少量	5 褐色 ロームブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 褐色 ロームブロック・ローム粒子少量	7 褐色 ロームブロック・ローム粒子少量
4 黒暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	8 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック少量
	9 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック少量



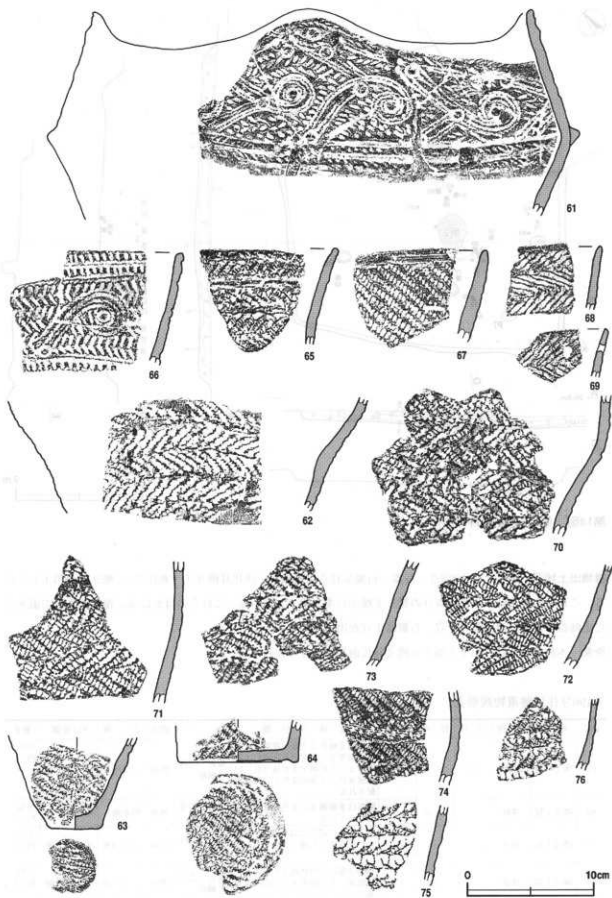
第14図 第196号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片379点, 石器・石製品17点(石鏃1・球状耳飾り1・剥片15), 礫9点が出土している。これらの遺物は中央部南寄りの覆土下層から多く出土している。これらのほかには、攪乱によって混入した土器器片15点, 須恵器片7点, 石製品1点が出土している。

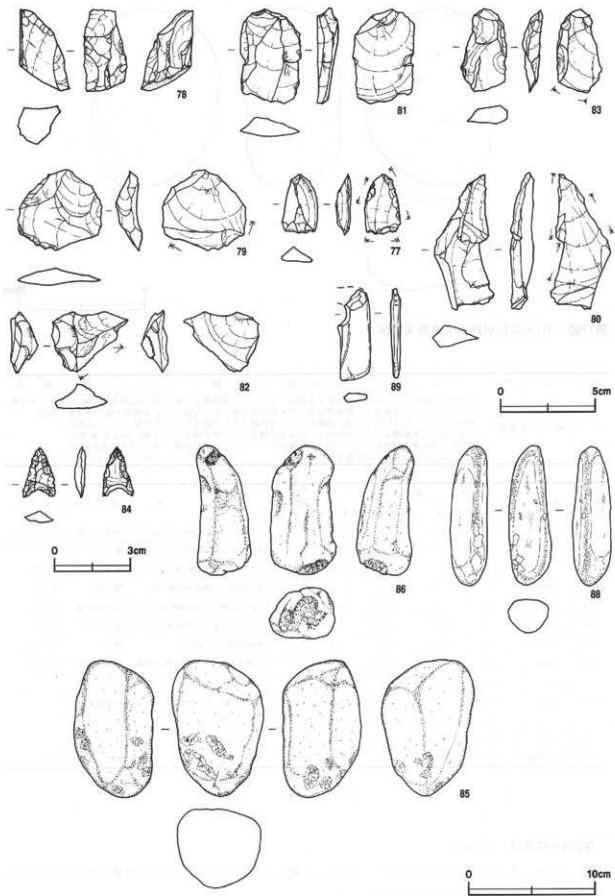
所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。

第196号住居跡遺物観察表 (第15・16・17図)

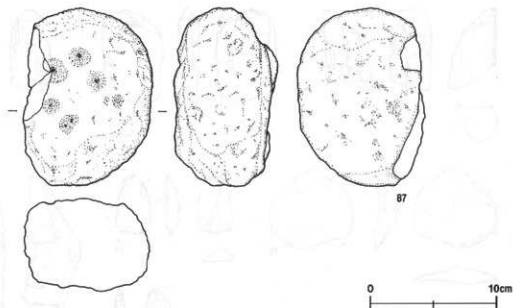
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
61	縄文土器	深鉢	[34.4]	(16.4)	-	口辺部文様帯は下帯を隆帯で区画し、刺突文と縄文原体印痕による底手文に円形刺突文が施され、口辺部及び、下帯の隆帯上に粘帯が配される。	長石・雲母・繊維	普通	にぶい黄帯	中央部中期	10% PL75
62	縄文土器	深鉢	-	(9.0)	-	胴部は単筋縄文による羽状縄文が施されている。	長石・雲母・繊維	普通	明赤褐	中央部下層	5% PL75
63	縄文土器	深鉢	-	-	4.5	胴下部及び底部は羽状縄文が施され、底部面にも縄文が施文されている。	長石・雲母・繊維	普通	にぶい黄帯	中央部下層	5% PL75
64	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	9.4	胴部下帯には羽状縄文が施され、底部面にも9段多糸による縄文が施文されている。	長石・雲母・繊維	普通	にぶい褐	中央部下層	5% PL75



第15图 第196号住居跡出土遺物実測図(1)



第16图 第196号住居跡出土遺物実測図(2)



第17図 第196号住居跡出土遺物実測図(3)

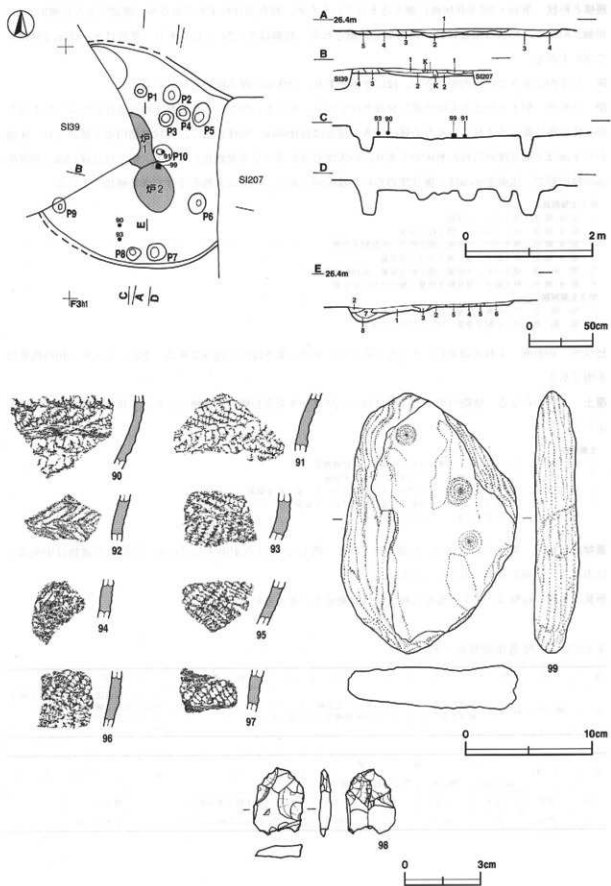
番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
65~76	縄文時代前期後半	65~69は口縁部片で、65には隆帯が1条走り、その上下に羽状縄文が施されている。66には刺突文と原体押圧及び円形刺突文が施され、内面は磨かれている。67は口辺部上端に沈線が走り、単節縄文R.L.が施されている。68には無節縄文による羽状縄文、69は単節縄文による羽状縄文が施され、変成後の補修孔がある。70~76は胴部片で、70~74には羽状縄文が、75、76にはループ文が施されている。	65、76は南西部中層、72は南西部下層、66は南西部中層、70、75は南西部下層、71は中央部下層、73は中央部中層、67~69、74は覆土中	二ツ木式期 PL76

番号	器種	計 画 値				材質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
77	割片	3.1	1.9	0.8	3.4	チャート	窪面に遺物土質が認められ、断面に土質が認められる。	南西部下層	PL116
78	割片	4.2	2.7	2.1	23.1	チャート	厚手の割片で、窪面に遺物土質が認められる。	覆土中	
79	割片	4.2	4.4	0.9	18.2	チャート	厚手の割片で、窪面に遺物土質が認められる。	覆土中	PL116
80	割片	7.1	3.2	1.4	15.5	チャート	厚手の割片で、窪面に遺物土質が認められる。	覆土中	PL116
81	割片	4.9	3.1	1.2	16.2	チャート	窪面に主要割断面と両方向の割断面が認められる。	中央部中層	PL116
82	割片	3.2	4.0	1.4	9.7	チャート	多方向からの割断面があり、断面割断面がある。	東部下層	PL116
83	割片	4.4	2.3	1.0	8.7	チャート	微細割断面のある割片。	覆土中	PL116
84	石鏃	2.0	1.3	0.4	0.7	チャート	主要割断面を一部残す押圧割断面。	南西部下層	PL116
85	燧石	10.8	7.3	6.3	661.0	凝灰岩	敲打面は1か所。	中央部下層	
86	燧石	10.1	5.3	4.4	279.0	石英珪岩	敲打面は上下2か所。	中央部下層	
87	凹石	14.1	10.3	8.2	980.0	安山岩	凹部は上面に5か所以上。	中央部下層	
88	砥石	11.0	3.6	3.0	146.0	砂岩	砥面3面。	中央部下層	
89	球状耳飾	(4.7)	(1.6)	0.5	(5.1)	滑石	両面からの穿孔。	覆土中	PL116

第208号住居跡（第18図）

位置 調査区中央部のF 3g1区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第160号住居跡、南西に第126号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西部は第39号住居跡・第491号土坑、東部は第207号住居跡に掘り込まれている。



第18图 第208号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 第39・207号住居跡に掘り込まれているため、残存部はわずかであるが、確認できた長軸3.20m、短軸2.84mで、形状は南北に長い楕円形と推測される。長軸はN-20°-Eであり、壁高は8~16cmで外傾して立ち上がる。

床 わずかに小さな凸凹があるが、ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

炉 2か所。炉1と炉2とも中央部に付設されており、炉1から炉2への作り替えの可能性がある。炉1は第39号住居跡に掘り込まれているため確認できた部分は長径88cm、短径40cmで、形状は楕円形と推測され、床面から4cmほど掘り窪められた地床炉であり、炉床は火熱を受けて赤変硬化している。炉2は長径72cm、短径60cmの楕円形で、床面を8cmほど掘り窪められた地床炉であり、炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量
- 5 黒褐色 焼土ブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、焼土ブロック少量

炉2土層解説

- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、ロームブロック少量

ピット 10か所。主柱穴はP1・2・5・6・7・9で、深さは17~42cmである。P3・4・8・10の性格は不明である。

覆土 5層からなる。壁際の第4・5層はロームブロックを含む壁の崩落層で、レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片18点、石器2点(剥片・凹石)、礫2点が出土している。これらの遺物は中央部及び南部覆土下層から多く出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。

第208号住居跡遺物観察表(第18図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
90~97	縄文時代前期前半	原部片。90, 91, 93にはループ文が施されている。92, 94~96には羽状縄文が施されている。97は単節縄文LRが施されている。	90, 93は南西部下層、91は中央部下層、92, 94, 95~97は覆土中	花横下層式 PL76

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
98	剥片	2.6	2.0	0.7	2.6	チャート	加工痕のある剥片。	覆土中	
99	凹石	20.7	14.0	3.4	1180.0	雲母片岩	凹部は上面に3か所。	中央部下層	

(2) 土坑

第218号土坑 (第19図)

位置 調査区西部のG 2 e 1 区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径0.45m、短径0.44mの円形で、深さ29cmであり、主軸はN-0°である。底面は皿状で、壁面はほぼ直立する。

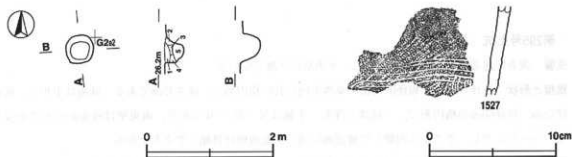
覆土 5層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片1点が出土している。これは覆土中から出土している。攪乱による混入した土師器片1点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、時期は縄文時代後期前半と考えられる。



第19図 第218号土坑・出土遺物実測図

第218号土坑遺物観察表 (第19図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1527	縄文時代後期前半	胴部片。単節縄文地に平行沈線が施されている。	覆土中	堀之内Ⅱ式 PL.76

第279号土坑 (第20図)

位置 調査区中央部のF 2 c 7 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第496号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.75m、短径2.58mの方形で、深さ16cmである。底面はほぼ平坦で、主軸はN-81°-Eであり、壁面は外傾して立ち上がる。南壁中央部に径32cmの円形で、深さ35cmのピットがあり、性格は不明である。

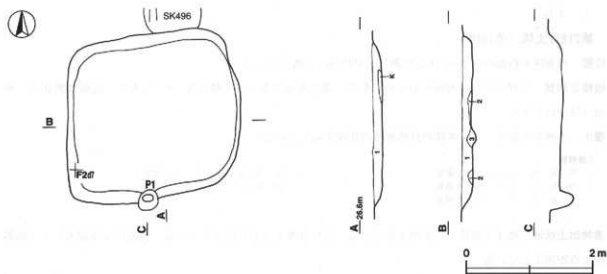
覆土 3層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- | |
|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片34点が覆土中から出土している。このほかには、攪乱によって混入した土師器片41点、須恵器片1点、礫1点が出土している。

所見 本跡の性格及び時期は不明であるが、縄文土器を多数出土していることと、当遺跡で同様の形状である第369・381・475号土坑は縄文時代の土坑であることから、本跡も縄文時代の土坑と考えられる。



第20図 第279号土坑実測図

第295号土坑 (第21図)

位置 調査区北部のF2f9区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.97m、短径0.71mの東西方向に長い楕円形で、深さ47cmである。底面は平坦で、底面を長径72cm、短径60cmの楕円形で、一段深く窪む。主軸はN-33°-Wであり、南東壁は底面からわずかな高さでオーバーハングし、そこから内傾して確認面に達し、北西壁は外傾して立ち上がる。

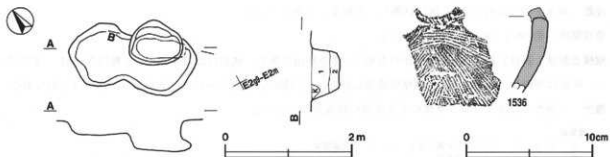
覆土 2層からなる。ロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片12点が出土している。これらの遺物は覆土中から多く出土している。このほかには、攪乱によって混入した土師器片1点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、時期は出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。



第21図 第295号土坑・出土遺物実測図

第295号土坑遺物観察表 (第21図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1536	縄文時代前期	口縁部で、口唇部には罫みが施され、口辺部には集合沈線が施文されている。	覆土中	PL76

第369号土坑（第22図）

位置 調査区北部のE1h0区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第103号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.71m、短径2.49mの円形で、深さ69cmである。主軸はN-35°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁面はほぼ直立する。

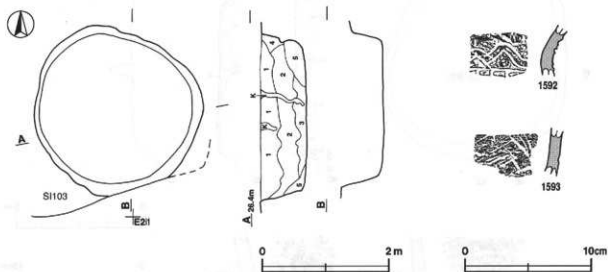
覆土 5層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・凝土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・凝土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片72点が出土している。これらの遺物は覆土下層から多く出土している。このほかに、擾乱によって混入した土師器片1点が出土している。

所見 貯蔵穴と考えられたが出土土器は破片が多く、性格は不明で、時期は縄文時代中期の第103号住居跡に掘り込まれ、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第22図 第369号土坑・出土遺物実測図

第369号土坑遺物観察表（第22図）

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1592	縄文時代前期	早期縄文を地文とし、手載竹管による有筋沈線文と波状文が施文されている。	覆土中	PL76
1593	縄文時代前期	斜な短沈線による波杉状の文様が施文されている。	覆土中	PL76

第381号土坑（第23図）

位置 調査区北部のE 2 h 1 区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径3.00m、短径2.94mの円形で、深さ35cmである。中央部に径20cmの円形で、深さ36cmのピットがある。主軸はN-0°で、底部は平坦で、壁は底面から外傾して立ち上がる。

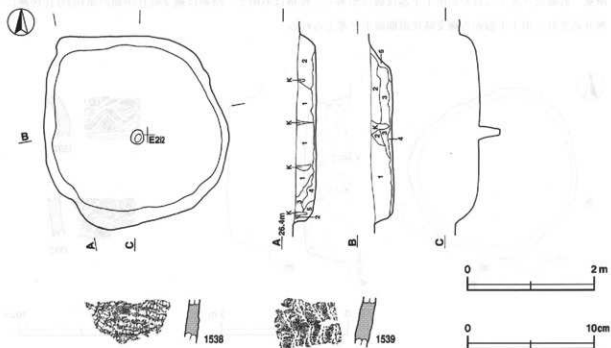
覆土 5層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、洗土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片27点が出土している。これらの遺物は覆土の各層から出土している。このほかには、視乱によって混入した土師器片3点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第23図 第381号土坑・出土遺物実測図

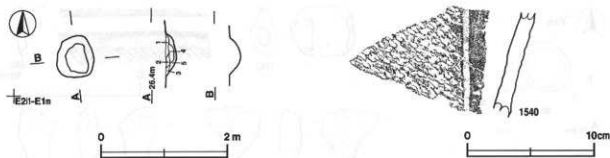
第381号土坑遺物観察表（第23図）

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1538	縄文時代前期	胴部には羽状縄文が施されている。	覆土中	PL76
1539	縄文時代前期	胴部には貝殻線粒の押圧文が施されている。	覆土中	浮島Ⅱ式 PL76

第382号土坑（第24図）

位置 調査区北部のE 2 h 1 区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径0.65m、短径0.58mの南北に長い楕円形で、深さ18cmである。主軸はN-0°で、底面は皿状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がる。



第24図 第382号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片3点が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。このほかには、撿乱によって混入した土師器片1点、須恵器片5点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、時期は出土土器から縄文時代中期中葉と考えられる。

第382号土坑遺物観察表（第24図）

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1540	縄文時代中期	割部片で、沈堀による懸垂区画内に複数縄文LRLが施文されている。	覆土中	加曾利EⅡ式 PL76

第426号土坑（第25図）

位置 調査区中央部のF2h9区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第160号住居跡を掘り込み、第432号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.86m、短径0.74mの東西方向に長い楕円形で、深さ60cmである。主軸はN-50°-Eで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

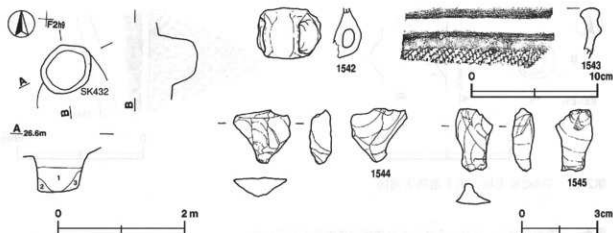
覆土 2層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片67点、石器3点（剥片）、礫1点が出土している。これらの遺物は覆土中から多く出土している。このほかには、撿乱によって混入した土師器片1点が出土している。

所見 本跡の性格は不明で、時期は出土土器から縄文時代中期中葉と考えられる。



第25図 第426号土坑・出土遺物実測図

第426号土坑遺物観察表 (第25図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1542	縄文時代中期	楕円状把手。	覆土中	加曾利EⅣ式 PL.76
1543	縄文時代中期	口縁部片で、複雑縄文が施文されている。	覆土中	加曾利EⅡ式 PL.76

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
1544	剥片	2.2	2.0	0.9	3.1	チャート	傷縁に加工痕のある剥片。	覆土中	
1545	剥片	2.4	1.4	0.8	2.2	黒曜石	先端に土粒付着した剥片の可能性がある。	覆土中	

第475号土坑 (第26図)

位置 調査区北部のE2i3区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 本跡の西部が第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.71m、短径2.57mの円形で、深さ39cmである。主軸はN-49°-Wであり、底面は平坦で、緩やかな傾斜で立ち上がる。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

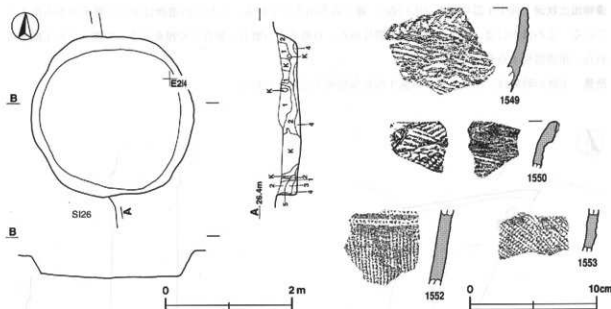
- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| | 5 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片124点が出土している。これらの遺物は北部の覆土上層から下層にかけて多く出土している。このほかには、掘削によって混入した土器器片8点、須恵器片2点が出土している。

所見 本跡の性格は不明であるが、規模と形状から第381号土坑と類似していると考えられる。時期は出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。

第475号土坑遺物観察表 (第26図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1549	縄文時代前期	1549、1550は口縁部片で、1549には無部の縄文が施され、1550の複合口縁上には沈線と貼着が施され、頸部は半筋縄文が施文されている。1552には半筋縄文が施され、上端には半截竹管による押し引き文が施されている。1553には附加糸縄文が施文されている。	1549は北東部中層から、他は覆土中。	PL.76
1550				
1552				
1553				
1553				



第26図 第475号土坑・出土遺物実測図

2 弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で、弥生時代の遺構は竪穴住居跡5軒、土坑1基が確認されている。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第10号住居跡 (第27図)

位置 調査区北部西寄りのE2b5区に位置し、台地縁辺部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第38号住居跡、第40号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部は第8号住居跡、西部は第11号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 西壁・東壁が第8号住居跡・第11号住居跡に掘り込まれているが、確認できたのは長軸6.18m、短軸4.77mで、形状は南北に長い長方形で、主軸はN-16°-Eである。壁高は6~8cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。

床 ほは平坦で、外の周辺が部分的に踏み固められている。

炉 中央部に位置する。第11号住居跡に掘り込まれているため、確認されたのは長径98cm、短径82cmの楕円形である。床面は3cmほど掘り窪められた地床炉で、炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼上ブロック中量、ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

ピット 7か所。主柱穴はP1で深さは58cmである。P2~7は深さ10~29cmで、壁際に位置している壁柱穴である。

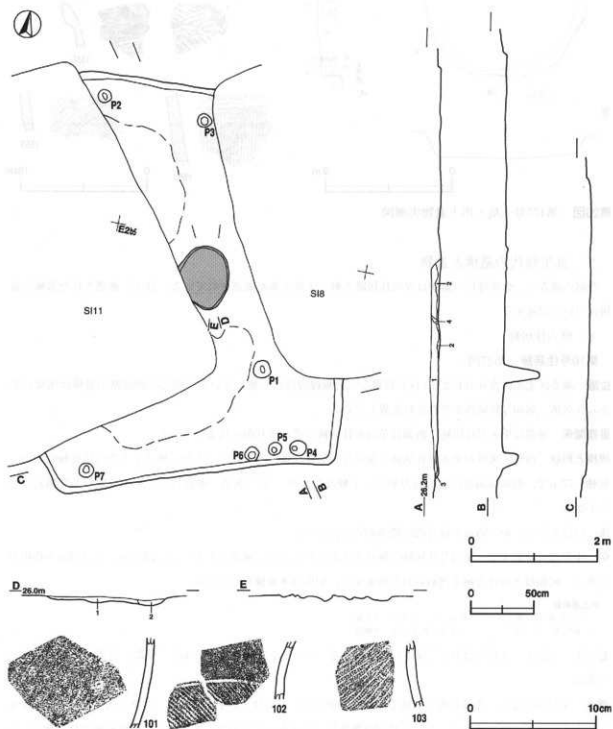
覆土 4層からなる。北部の覆土下層である第2層はロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示し、上部の第1・3・4層は、レンズ状の自然堆積の状況を示しており、人為的に一部埋め戻された後に、自然堆積したと考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック・ローム粒子中量 | 4 暗褐色 ロームブロック・焼上ブロック少量 |

遺物出土状況 弥生土器片23点（広口壺），鏝2点が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。このほかには，混入した縄文土器片38点，石器2点（磨石・剥片）や擾乱によって混入した土師器片41点，須恵器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



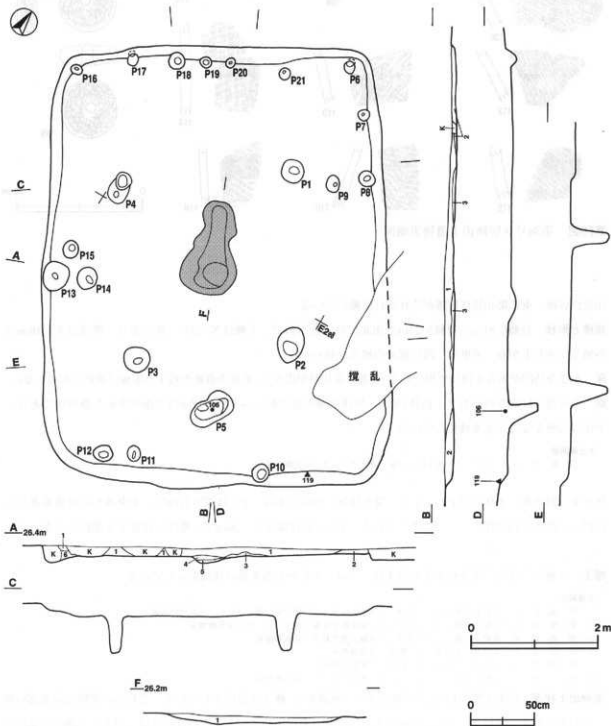
第27図 第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡遺物観察表 (第27図)

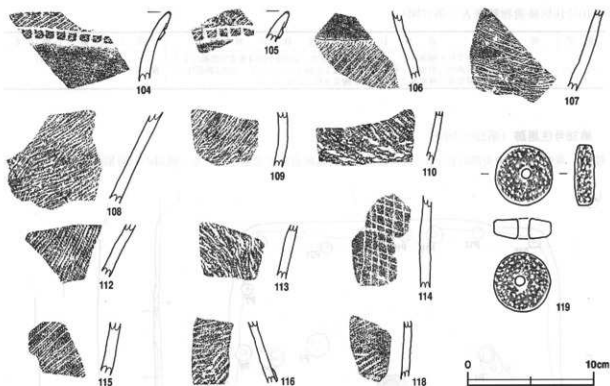
番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
101~103	弥生時代後期	いずれも胴部片で、101は縄文が施され、102は上部は無文で沈線による区画内に附加条一種附加2条の縄文が施文されている。103は胴部片で、附加条一種附加2条の縄文が施文されている。	覆土中	PL77

第38号住居跡 (第28・29図)

位置 調査区北部中央部のE 2 d 7 区に位置し、台地縁辺部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第



第28図 第38号住居跡実測図



第29図 第38号住居跡出土遺物実測図

10号住居跡，東に第40号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 長軸6.81m，短軸5.24mの南北に長い長方形で，主軸はN-34°-Wであり，壁高は8~16cmで外傾して立ち上がる。東壁の一部に後世の攪乱が見られる。

床 小さな凸凹があるがほぼ平坦である。南部に炭化材が広がり，火災の痕跡を残すが床面は被熱されていない。

炉 中央部に付設されており，長径140cm，短径88cmの楕円形で，床面を12cmほど掘り窪めた地床炉であり，炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量

ピット 21か所。主柱穴はP1~4で，深さは58~62cmである。P5は深さ47cmで，中央部から南東部寄りに位置し，出入り口に伴うピットと考えられる。P6~21は深さ6~26cmで，壁際に位置する壁柱穴と考えられる。

覆土 6層からなる。炭化材が多く含まれ，ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量，焼土ブロック・炭化材微量
 2 黒褐色 ローム粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
 3 黒褐色 ローム粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
 4 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
 5 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
 6 褐色 ローム粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 弥生土器片143点，土製品1点（紡錘車），鏝2点が出土している。これらの遺物は南東部の覆土下層から出土している。また，床面直上には炭化材が出土している。このほかには，混入した縄文土器片50点，剃片2点や攪乱によって混入した土師器片18点，須恵器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。南東部の床面直上に広がる炭化材は、床面が火熱を受けた痕跡はなく、住居が廃絶間もない時期に焼失したものと考えられる。

第38号住居跡遺物観察表 (第29図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
104~110 112~116 118	弥生時代後期	104, 105の口縁部片は複合口縁で、口唇部には縄文が施され、口辺部には附加条一種附加2条の縄文が施され、口辺部下端には横位の沈線と類みが施されている。106の頸部は無文で、114の頸部には格子状の沈線が施されている。107~110, 112, 113, 115, 116, 118はいずれも胴部片で、附加条一種附加2条の縄文が施文されている。	覆土中	PL77

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
119	紡錘車	4.8	1.7	1.1	38.3	土製	全面に刺突文が施されている。	覆土中	

第40号住居跡 (第30図)

位置 調査区北部のE 2 d0 区に位置し、台地縁辺部の南から北への斜面地に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第38号住居跡、北西に第10号住居跡がそれぞれ立地している。

重複関係 北壁中央部から南東コーナー部にかけては第12号溝、南西コーナー付近を第397号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 西部及び中央部が攪乱を受け、確認できたのは長軸7.00m、短軸4.40mだけで、形状は南北方向に長い長方形と推測される。主軸はN-13°-Eで、標高は8~10cmで南西部は緩やかな傾斜で立ち上がり、北東部は外傾している。

床 ほほ平坦で、踏み固められた痕跡は明確ではない。

炉 中央部に付設されている。炉南部が攪乱を受けているため、確認できたのは長径95cm、短径78cmで、形状は楕円形と推測される地床炉で、床面を8cm掘り窪められ、炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

ピット 5か所。主柱穴はP1・2で、深さは23・57cmで、北東・北西コーナー寄りに位置している。P3~5の性格は不明である。

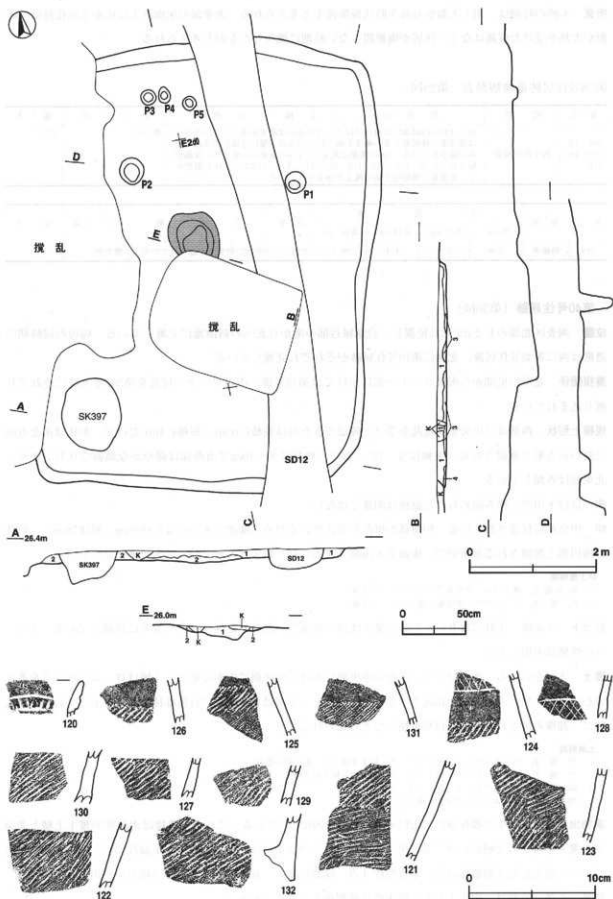
覆土 4層からなる。北西コーナー部から中央部にかけての床面に広がる第3・4層はロームブロックを多く含むブロック状の人為堆積の状況を示し、上部の第1・2層はレンズ状に自然堆積の状況を示しており、人為の一部埋め戻された後に、自然堆積したと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 弥生土器片58点(広口壺)、礫1点が出土している。これらの遺物は南西部の覆土上層と北東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片53点、剥片1点や攪乱によって混入した土器器片35点、須恵器片3点、陶器片1点、瓦1点、石器1点(砥石)が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第30图 第40号住居跡・出土遺物実測図

第40号住居跡遺物観察表 (第30図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
120~132	弥生時代後期	120は複合口縁で、下端は横位の沈線と刻みが施されている。125, 126, 131は頸部が無文で、胴部には附加条一種附加2条の縄文が施文されている。124, 128の頸部には格子状の沈線が施され、胴部には附加条一種附加2条の縄文が施されている。121~123, 127, 129, 130, 132の胴部片には縄文が施文されている。いずれも附加条一種附加2条の縄文であり、同一胴体と考えられる。	覆土中	PL77

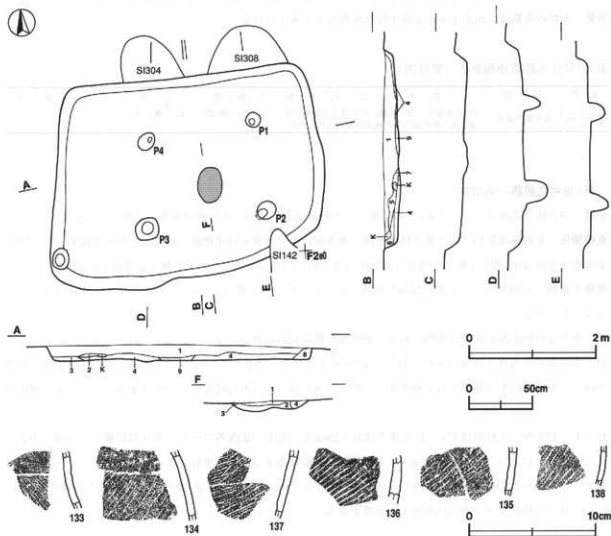
第107号住居跡 (第31図)

位置 調査区中央部のF2d9区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第38号住居跡、北に第40号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北壁中央部は第304号土坑、北東コーナー部は第308号土坑、南東コーナー部は第142号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.30m、短軸3.25mの東西に長い長方形で、主軸はN-90°-Wであり、壁高は14~23cmで外傾して立ち上がる。

床 小さな凸凹があるが、ほぼ平坦である。全体的によく踏み固められている。



第31図 第107号住居跡・出土遺物実測図

炉 中央部やや南寄りに付設されており、長径54cm、短径40cmの楕円形で、床面を10cmほど掘り窪めた地床炉で、炉床は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 4か所。主柱穴はP1～P4で、深さは26～39cmで、各コーナー部寄りに位置している。

覆土 9層からなる。東部の壁際の第8層や床面上の第4層がレンズ状に、それぞれ堆積していることを示し、自然堆積と考えられる。しかし、西部の下位の第2層と中央部下位の第7・9層は、それぞれロームブロックを多く含む、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積と考えられ、西側から人為的に一部埋め戻された後に東側からの流れ込んだ自然堆積をしたと考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 8 暗褐色 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 弥生土器片30点(広口壺)、礫1点が出土している。これらの遺物は南東部から出土している。このほかには混入した縄文土器片33点や攪乱によって混入した土師器片17点、須恵器片8点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第107号住居跡遺物観察表 (第31図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
133~138	弥生時代後期	133の胴部片には、沈線による格子文が描かれ、134~138の胴部片には、附加条一種附加2条の縄文が描文されている。	覆土中	

第139号住居跡 (第32図)

位置 調査区西部南寄りのG2d3区に位置し、台地縁辺部の北から南への斜面地に立地している。

重複関係 北西部は第19・20号掘立柱建物跡、南東部は第21号掘立柱建物跡、南東コーナー部は第221号土坑、東壁際中央部は第192号土坑、中央部は第190・191・242・243号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

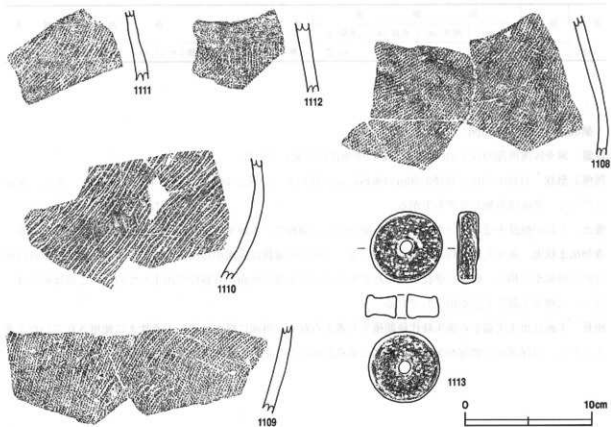
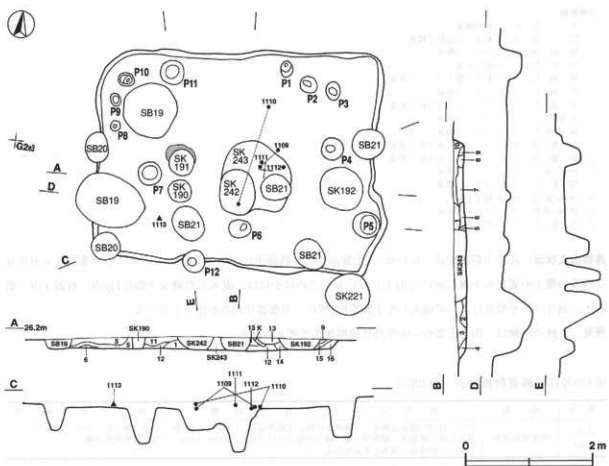
規模と形状 長軸4.51m、短軸3.33mの東西に長い長方形で、主軸はN-84°-Eであり、壁高は14cmで外傾して立ち上がる。

床 小さな凸凹があるがほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

炉 中央部やや西寄りに付設されており、第191号土坑に掘り込まれているので、確認できた長径50cm、短径40cmで、形状は円形と推測される地床炉で、掘り込みがほとんどみられない。炉床は赤変しているが、硬化していない。

ピット 12か所。主柱穴はP3・11で深さは31・29cmで、北東・北西各コーナー寄りに位置している。P1・2・4~10・12は深さ9~21cmと深さに差があるが壁際に並ぶことから壁柱穴と考えられる。

覆土 16層からなる。掘立柱建物跡や土坑に掘り込まれているため、残存部分が少なく、判断が困難であるが、レンズ状の堆積状況を示す自然堆積の可能性がある。



第32图 第139号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1	黒色	ローム粒子微量
2	黒色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック微量
7	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
8	極暗褐色	ロームブロック微量
9	極暗褐色	ロームブロック微量
10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
11	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
12	極暗褐色	ロームブロック微量
13	黒褐色	ロームブロック微量
14	極暗褐色	ローム粒子少量
15	極暗褐色	ロームブロック微量
16	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 弥生土器片37点(広口壺), 土製品1点(紡錘車)が出土している。これらの遺物は中央部及び西部の覆土中層から下層にかけて出土している。このほかには, 混入した縄文土器片110点, 石器4点(磨石1, 剥片3)や攪乱によって混入した土師器片117点, 須恵器片14点が出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。

第139号住居跡遺物観察表(第32図)

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
1108~1112	弥生時代後期	1111, 1112の腹部は黒文で, 胴部との境に比線が通る。1108~1110の胴部片には, 附加条一種附加1条の縄文が施文されている。1108, 1109, 1111, 1112は同一個体と考えられる。	1108は覆土中, 1109~1112は中央部下層。	PL77

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1113	紡錘車	5.6	2.0	0.9	63.4	土製	全面に刺突文が施されている。	南西部下層	

(2) 土坑

第492号土坑(第33図)

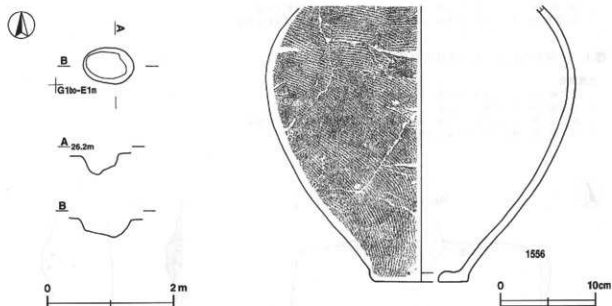
位置 調査区南西部のG1a0区に位置し, 平坦部に立地している。

規模と形状 長径0.79m, 短径0.56mの東西に長い楕円形で, 深さ38cmである。主軸はN-84°-Wで, 底面は凸凹で, 壁面は外傾して立ち上がる。

覆土 上部が攪乱を受けていたため, 取り除いていく過程で, 本跡を確認したため, 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 弥生土器片45点が出土している。これらの遺物は底面から出土している。1556は広口壺の口縁部から頸部が欠損し, 底部に穿孔が見られるもので, 中央部の底面から斜位で出土している。このほかには, 混入した縄文土器片2点が出土している。

所見 本跡は出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。外面に煤が付着し, 煮炊きに使用されていたと考えられる。口縁部から頸部が欠損し, 底部に穿孔があることから土器棺墓の可能性も考えられる。



第33図 第492号土坑・出土遺物実測図

第492号土坑遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
1556	弥生土器	壺	-	(29.1)	10.0	胴部から底縁の破片で、胴部には附加条一種附加2条の縄文が施され、底部中央は焼成後、外面から穿孔されている。	長石・石英	普通	にぶい程	中央部床面	PL77

3 古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で、古墳時代の遺構は竪穴住居跡80軒、掘立柱建物跡3棟、土坑2基が確認されている。以下確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡（第34図）

位置 調査区北部のD3i5区に位置し、台地縁辺部の南西から北東への斜面地に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第11号住居跡、南に第65号住居跡がそれぞれ立地している。

重複関係 第95・97号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 東壁と南東コーナー部が削平されているが、長軸4.06m、短軸3.60mで、形状は長方形と推測され、主軸はN-14°-Wであり、壁高は12cmでほぼ直立する。

床 平坦で、特に踏み固められた部分は認められない。

竪 北壁の中央部に付設されている。掘削のため遺存状態が悪く、焚口部と火床部の一部が残存しているだけであり、確認できた規模は壁外への掘り込み70cm、壁の掘り込み幅105cmで、推定できる焚口部から煙道までの長さ142cmである。

竪土層解説

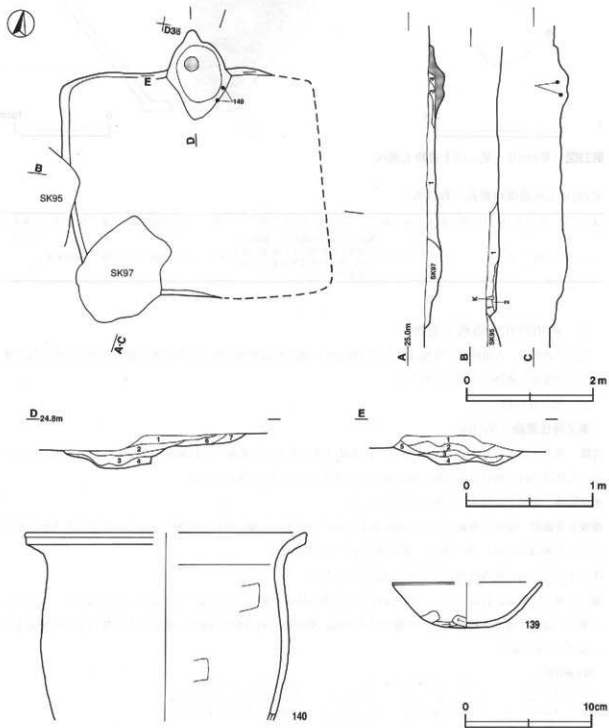
- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・白色粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック・白色粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物・白色粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

- 6 黒 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子・白色粒子少量
 7 暗赤褐色 ロームブロック多量, 白色粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

覆土 4層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
 2 暗 褐色 ロームブロック中量
 3 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
 4 黒 褐色 焼土ブロック多量, 炭化物・粘土ブロック微量



第34図 第2号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片40点(埴22, 甕18), 礫1点が出土している。これらの遺物は全体的に覆土下層を中心に多く出土しているが, 特に竈周辺の覆土中層から下層にかけて出土している。このほかには, 攪乱によって混入した瓦片1点が出土している。出土状況から140は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀代と考えられる。同時期の住居跡は南西へ29m, 南へ65mとやや離れて位置するが, 主軸方向がこれらと異なることから, 本跡は単独で存在したか, または調査区域北側の台地の縁辺部に広がることも考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表(第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土師器	埴	[11.8]	3.5	-	灰・赤・粘質	橙	普通	口縁部両面横ナデ, 底部外面ヘラ削り。	覆土中	20%
140	土師器	甕	[22.2]	14.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。	覆土下層	30%

第3号住居跡(第35・36図)

位置 調査区北部のD3 j2区に位置し, 平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第4号住居跡が位置している。

重複関係 西コーナー部が第269号土坑を掘り込み, 北東壁を第266号土坑, 北東壁の中央部と北西壁の中央部を結ぶ線上を第20号溝, 東コーナー付近を第21号溝, 南コーナー付近を第198・367号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 北東壁と北西壁の大部分が削平されているため, 壁の立ち上がりは不明であるが, 長軸6.56m, 短軸6.24mが確認できたので, 形状は方形と推測される。主軸はN-38°-Wであり, 壁高は10~20cmで緩やかな傾斜で立ち上がっている。

床 攪乱のため床面にはわずかな起伏があるが, ほぼ平坦であり, あまり硬化は認められていない。壁溝は深さ4~6cmで, 西コーナー部から東コーナー付近の壁下で検出されている。

竈・炉 本跡の大部分が削平されて, 残存状態は不良で, 竈・炉ともに確認されていないが, 確認された主柱穴が各コーナー付近に位置していることや出土土器から, 中央部付近に炉が付設されていた可能性がある。

ピット 3か所。主柱穴はP1~3で, 深さは55~75cmであり, 各コーナー寄りに位置している。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量

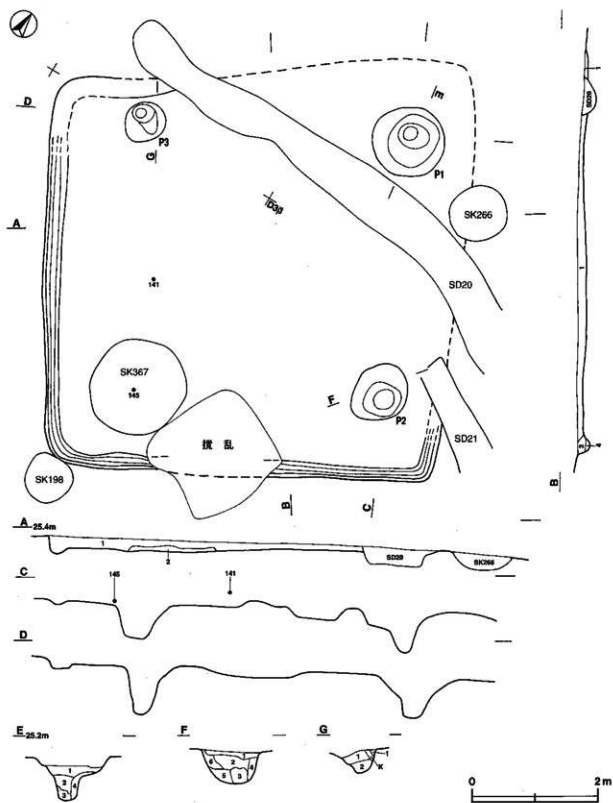
P3土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量

覆土 4層からなる。覆土がわずかで判断は困難であるが, 第1~3層は覆土中にロームブロックを含む人為堆積と考えられるが, 壁溝内はしまりの弱い自然堆積と考えられる。このような状況から, 住居の放棄後に自然堆積し, その後, 住居が埋まり始めると, 投棄による埋め戻しが行われたと考えられる。

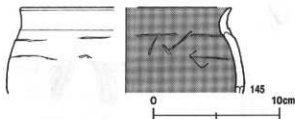
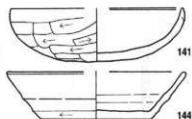
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土中ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量



第35図 第3号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片628点(坏381・碗5・甕242), 須恵器片4点(坏), 土製品2点(支脚), 礫3点が出土している。これらの遺物は南西部の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片32点, 弥生土器片2点や, 攪乱によって混入した磁器片2点, 瓦片1点がそれぞれ出土している。出土状況から



第36図 第3号住居跡出土遺物実測図

141・145は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
141	土師器	坏	[13.6]	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ、口縁部下縁に輪襷痕。	西部中層	25%
144	須恵器	坏	[14.0]	3.8	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	覆土中	50% PL78
145	土師器	甕	[16.8]	(6.8)	-	長石・赤土	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ、体部内面ヘラナデ。	南部下層	5%

第4号住居跡（第37・38図）

位置 調査区北部のE2 b9区に位置し、台地縁部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第3号住居跡、西に第11号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 P2付近が第81号土坑、南東コーナー付近が第12号溝にそれぞれ掘り込まれている。

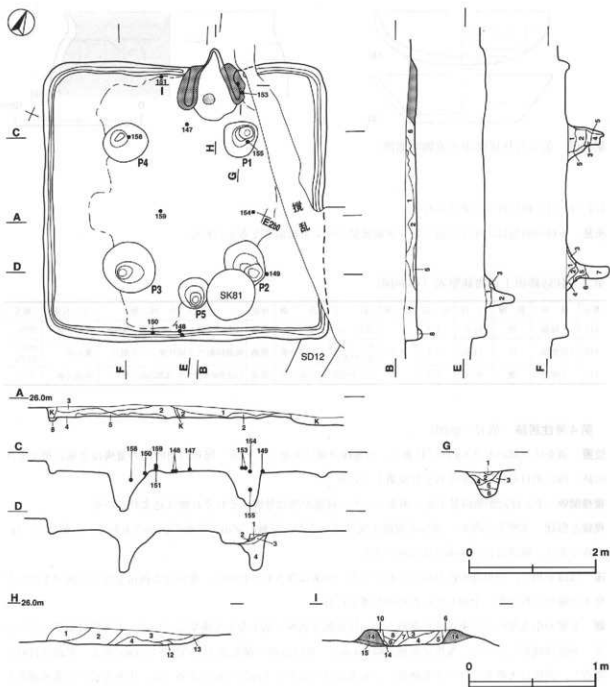
規模と形状 東壁と北壁の一部が攪乱を受けているが、長軸6.56m、短軸6.24mの方形で、主軸はN-18°-Wであり、壁高は20-26cmではほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6-12cmで、竈部分と攪乱を受けた部分を除いた壁下で検出されたが、全周していたものと考えられる。

竈 北壁の中央部のやや東寄りを壁外へ30cmほど掘り込み、粘土などで構築している。天井部は崩落しているが、袖部は残存している。規模は両袖部幅104cmで、焚口部から煙道部までの長さ112cmである。袖部は良好に遺存し、内壁は火熱を受けて赤変硬化し、火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化しており、煙道は外傾して立ち上がる。

甍土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、白色粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 6 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
- 7 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 8 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土ブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 11 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 12 褐色 ロームブロック中量
- 13 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 14 灰褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土ブロック少量
- 15 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

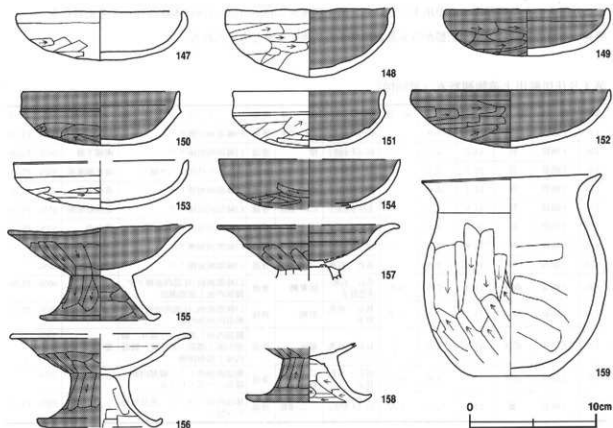


第37図 第4号住居跡実測図

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さ56～68cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ46cmで、南西壁際の中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1 土層解説

- | | | |
|---|-----|------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック中量 |



第38図 第4号住居跡出土遺物実測図

P2 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

P3 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量・ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量・焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量・ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量

P4 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・繊維量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量・粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

P5 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

覆土 8層からなる。まず、壁溝の三角状の自然堆積後、第2・4・5・7層のロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示し、覆土上層の第1・3層ではロームブロックを含むが、しまりの弱いレンズ状の自然堆積の状況を示している。第6層は竈の構築材が流れ込んだものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量・粘土ブロック・焼土粒子少量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片138点（坏98・甕40）土製品8点（支脚1・不明7），礫2点が出土している。これらの遺物は竈前面と南部の覆土下層を中心に多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片51点や攪乱

により混入した須恵器片1点が出土している。出土状況からI53・I55・I58は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表(第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
147	土師器	環	13.2	3.8	-	灰赤色粘子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部床面	95% PL78
148	土師器	環	13.2	5.3	-	灰赤色粘子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	90% PL78
149	土師器	環	12.8	3.7	-	灰赤色粘子	にぶい橙	普通	外面ハケ目状のヘウ削り。	南東部床面	95% PL78
150	土師器	環	12.4	4.3	-	長石・赤色粘子	黒	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	95% PL78
151	土師器	環	11.9	4.5	-	長石・赤色粘子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部床面	95% PL78
152	土師器	環	15.6	4.6	-	長石・赤色粘子	灰黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	60% PL78
153	土師器	環	[13.8]	3.7	-	灰赤色粘子	灰黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	35%
154	土師器	環	[14.4]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	東部下層	30%
155	土師器	高環	14.4	7.5	9.6	長石・石英・赤色粘子	灰黄褐	普通	口縁部両面、環部内面横ナデ。脚部内面上部指痕痕。	P1中層	80% PL78
156	土師器	高環	[14.2]	7.3	[9.8]	長石・赤色粘子	黒褐	普通	口縁部両面、環部内面横ナデ。脚部内面指痕痕。	覆土中	60% PL78
157	土師器	高環	[14.4]	(4.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	脚部内面上端部ヘウ削り。脚部内面上端部工具圧痕。脚部内面上部指痕痕。	覆土中	30%
158	土師器	高環	-	(4.6)	10.0	長石・赤色粘子	にぶい黄橙	普通	裾部両面横ナデ。脚部内面上端部ヘウ状工具圧痕。	P4上層	30%
159	土師器	甕	14.2	16.0	6.0	灰赤色粘子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘウナデ。底部外面ヘウ削り。	中央部下層	90% PL78

第11号住居跡(第39・40図)

位置 調査区北部のE2b4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第2号住居跡が位置している。

重複関係 北東壁が第10号住居跡、南コーナー部が第13号住居跡をそれぞれ掘り込み、西コーナー部が第12号住居跡、北西壁中央部が第226号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.20m、短軸5.74mの方形で、主軸はN-34°-Wであり、壁高は42~66cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ7~12cmで、第226号土坑を除いて全周している。北コーナー部・中央部の北東壁寄り・南東壁際中央部の床面から炭化材と焼土が検出されて、焼失家屋と考えられる。

竈 北西壁の中央部は第226号土坑に掘り込まれているため、竈は確認できなかったが、北西壁際の覆土中に竈材に使用されたと思われる粘土ブロックが含まれており、北西壁に付設されていたが規模などについては不明である。

ピット 5か所。主柱穴はP1~4で、深さは51~57cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ50cmで南東壁際の中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。土層断面図中、P1・2・4・5の第1層、P3の第1・2・3層は柱の抜き取り痕で、他は埋土と考えられる。また、P5の南壁寄りに、浅い円形の掘り込みも確認されている。

P1 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

P3 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック微量

P5 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物粒子微量

P2 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

P4 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 褐色 ロームブロック中量

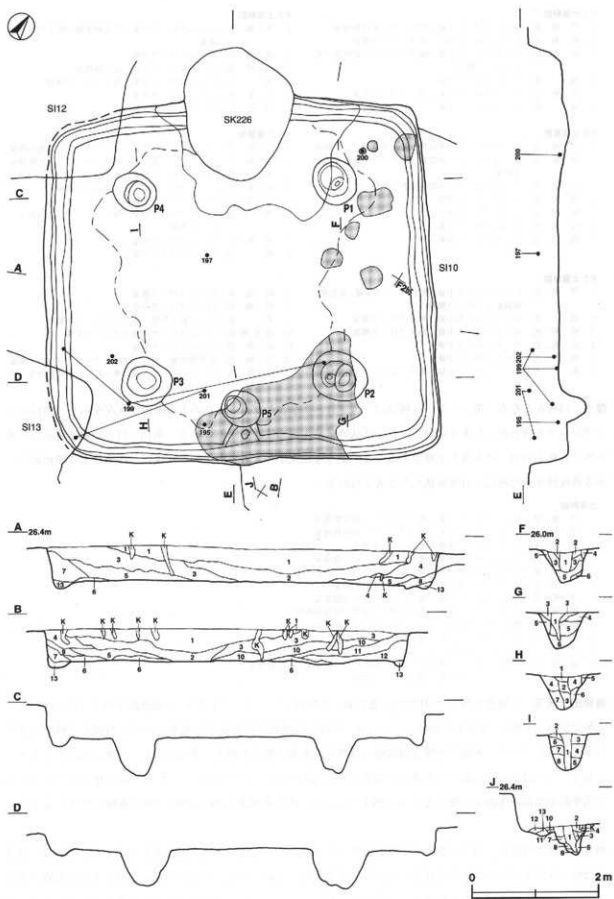
覆土 13層からなる。第2・5・6層はロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示し、他はロームブロックを含むが、しまりは弱く、レンズ状の自然堆積の状況を示している。第10・11・12層は甕からの流れ出した粘土ブロックを含む土層である。このような状況から、家屋が焼失した後に、投棄により埋め戻し、ある程度埋まった後に、自然堆積したと考えられる。

土層解説

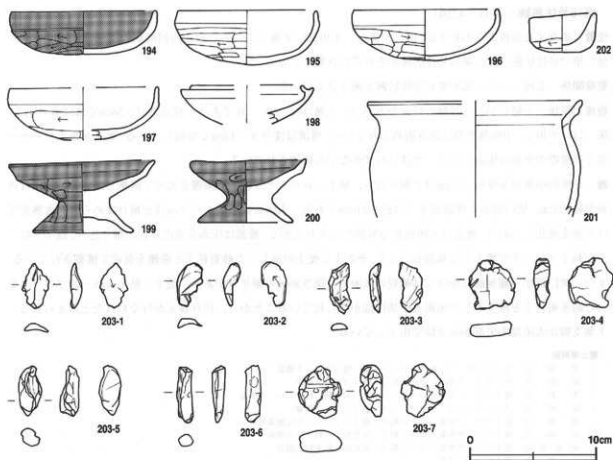
- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
- 10 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
- 11 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 13 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片2832点(坏1771・甕1048・高坏12・ミニチュア土器1)、須恵器片13点(坏9・甕4)、土製品36点(不明)、鉄針1点が出土している。これらの遺物は中央部から北壁にかけての覆土中層から下層に多く出土している。本跡の時期と同時期の遺物も中央部の覆土中層から多く出土し、投棄されたものと考えられる。このほかには、混入した縄文土器片140点、弥生土器片2点が出土している。炭化材が北コーナー部と南壁際中央部の床面から焼土とともに出土している。出土状況から195・199・200は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。炭化材や焼土が床面から出土し、特にP5周辺には壁に立てかけられたような状態で出土し、焼失家屋である。また、中央部の覆土下層に多数の遺物が出土しているのは、焼失後ある程度埋没した後にできた窪みに周辺の住居で使用された不必要な土器が投棄されたものと考えられる。



第39图 第11号住居跡実測図



第40図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
194	土師器	坏	11.6	3.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部下層	95% PL78
195	土師器	坏	11.0	4.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	95% PL78
196	土師器	坏	11.4	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	覆土中	95% PL78
197	土師器	坏	[11.6]	4.2	-	炭石・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	中央部中層	45%
199	土師器	高坏	11.5	5.8	8.0	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部内面、脚部内面上部ナデ。	南部中層	85% PL78
200	土師器	高坏	9.3	5.0	7.6	長石・石英	橙	普通	坏部内面、脚部両面ナデ。	北部床面	90% PL78
201	土師器	薬	[16.8]	(9.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部両面横ナデ。	南部上層	20%
202	土師器	鉢	5.4	3.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	底部外面へツ削り。	南西部下層	98%
198	須臾器	坏	10.6	3.1	-	長石	黄灰	良好	内外面口口ロナデ。	覆土中	20%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
203①	不明土製品	3.6	2.3	0.7	2.5	土製	へら削り痕及び指頭痕。	覆土中	PL115
203②	不明土製品	3.4	2.0	0.8	2.5	土製	へら削り痕及び棒状工具痕。	覆土中	PL115
203③	不明土製品	4.0	1.8	0.5	2.6	土製	へら削り痕。	覆土中	PL115
203④	不明土製品	3.9	3.6	1.2	12.1	土製	へら削り痕及び指頭痕。	覆土中	PL115
203⑤	不明土製品	3.9	1.8	1.4	5.7	土製	ナデ及び棒状工具痕。	覆土中	PL115
203⑥	不明土製品	4.4	1.3	1.0	3.9	土製	ナデ及び指頭痕。	覆土中	PL115
203⑦	不明土製品	4.1	3.4	1.7	14.6	土製	棒状工具痕。	覆土中	PL115

第16号住居跡 (第41・42図)

位置 調査区北部西寄りのE2 a1区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西コーナー部に第17号住居跡、南に第18号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西コーナー部が第17号住居跡を掘り込んでいる。

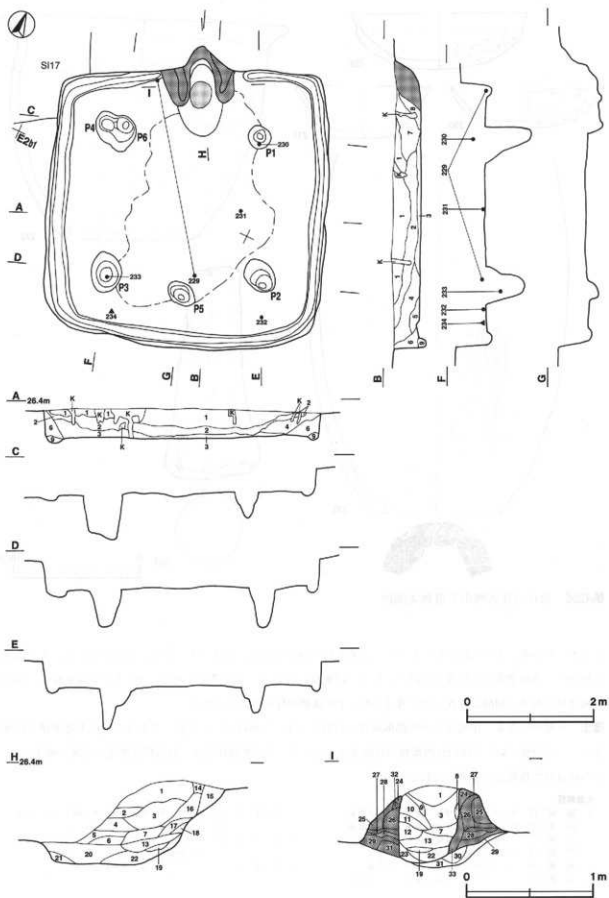
規模と形状 長軸4.40m、短軸4.11mの方形で、主軸はN-20°-Wであり、壁高は47~56cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ9~13cmで全周している。焼土が南東コーナー部と南壁際中央部の床面にブロック状にわずかながら確認されている。

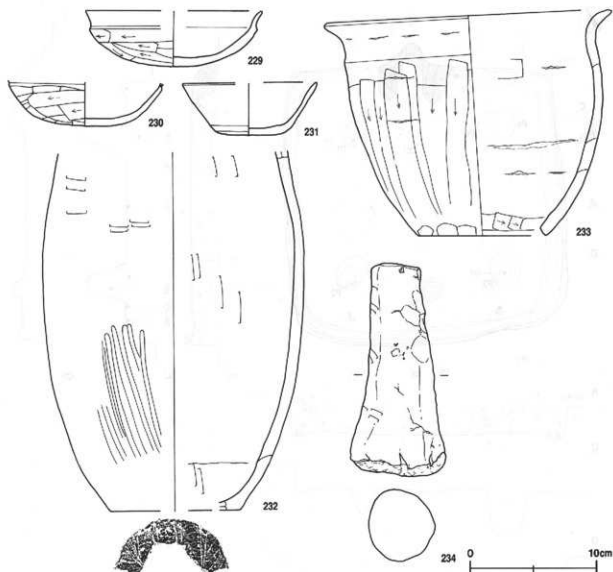
竈 北壁の中央部を壁外へ37cmほど掘り込み、粘土・ロームと豆粒状の微礫を混ぜて構築している。規模は両袖部幅123cm、焚口部から煙道部までの長さ146cmである。火床面は床面から7cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化しており、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は床面を逆円錐状に掘り込み、焼土ブロックや粘土ブロックで埋土して基部をつくり、その上に焼土の混じった砂質粘土と微礫を混ぜて構築されている。また、焚口部から竈前面にかけては軟質の床面で、深さ30cmの掘り方があり、焼土・粘土・ロームブロックを含む暗赤褐色土を埋土として床面及び焚口部が作られていることから、作り替えが行なわれたと考えられる。土製支脚が火床部中央部から立位で出土している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 romeブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック中量、rome粒子・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量、romeブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 romeブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 焼土ブロック少量、rome粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 6 暗褐色 焼土ブロック中量、rome粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量、rome粒子・炭化物・粘土粒子微量
- 8 赤褐色 焼土ブロック多量
- 9 暗褐色 焼土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 10 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、rome粒子微量
- 11 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、rome粒子微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック少量、rome粒子・粘土ブロック微量
- 13 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土ブロック微量
- 14 暗赤褐色 rome粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 15 暗赤褐色 romeブロック中量、焼土ブロック少量
- 16 暗赤褐色 romeブロック・焼土ブロック中量、粘土ブロック少量
- 17 暗褐色 romeブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 18 暗赤褐色 romeブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 20 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、romeブロック少量、炭化粒子微量
- 21 黒褐色 romeブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 22 暗赤褐色 romeブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 23 暗赤褐色 romeブロック中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
- 24 黒褐色 romeブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物・微礫微量
- 25 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・微礫
- 26 褐色 焼土ブロック多量、焼土ブロック少量、礫微量
- 27 暗褐色 焼土ブロック少量、romeブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 28 灰黄褐色 白色粘土ブロック中量、romeブロック・焼土粒子微量
- 29 褐色 romeブロック中量
- 30 黒褐色 romeブロック中量
- 31 褐色 romeブロック多量、粘土粒子微量
- 32 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子少量、romeブロック・微礫
- 33 暗赤褐色 焼土ブロック中量



第41图 第16号住居跡实测图



第42図 第16号住居跡出土遺物実測図

ピット 6か所。主柱穴はP1～4・6で、深さ43～73cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ18cmで、南東壁際の中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6とP4は重複し、新旧関係は見られず、同時に存在したと考えられ、P6は補助柱穴と考えられる。

覆土 9層からなる。中央部と中央部南東寄りの第2・4・5層はロームブロックを多く含む人為堆積の状況を示し、その後、レンズ状の自然堆積の状況を示している。この堆積状況は、ある程度埋没した後に廃土され、その後は自然堆積したと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片467点(坯246・堯221),須恵器片21点(坯16・蓋1・堯4),土製品4点(支脚2・不明2),礫1点が出土している。これらの遺物は竈前と南部の覆土下層から多く出土している。このほかには,混入した縄文土器片60点が出土している。出土状況から229・232・233は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は,出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表(第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
229	土師器	坏	[14.0]	4.4	-	灰石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り。	中央部下層	30%
230	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り。	北東部下層	30%
231	須恵器	坏	[10.6]	4.1	5.2	長石・雲母	灰黄	普通	底面面転ヘラ切り後,ヘラ削り。	中央部下層	40% PL78
232	土師器	堯	-	(28.4)	[10.2]	灰石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面,外面上部ヘラナデ。	南東部下層	30%
233	土師器	瓶	22.6	17.9	10.0	灰石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ,体部外面下端に指痕。	P3中層	90% PL79

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	最大径(m)	最小径(m)	重量(g)				
234	支脚	16.8	7.5	3.9	546.0	土製	外面ヘラナデ。指痕。	南部下層	PL115

第17号住居跡(第43・44図)

位置 調査区北部西寄りのE1a0区に位置し,平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東部に第16号住居跡,南に第18号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南東コーナー部が第16号住居跡に掘り込まれている。

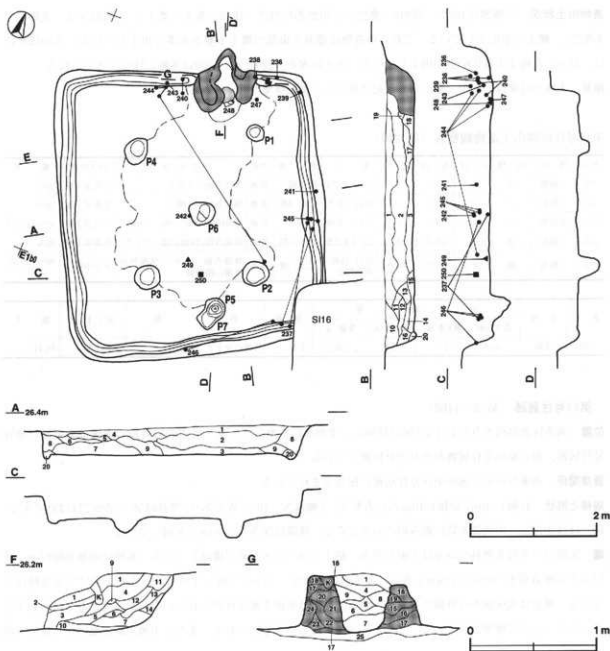
規模と形状 長軸4.60m,短軸4.10mの長方形で,主軸はN-19°-Wであり,壁高は36~52cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で,中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで全周している。

竈 北壁の中央部を壁外へ38cmほど掘り込み,粘土とロームを混ぜて構築している。規模は両袖幅97cm,焚口部から煙道部までの長さ116cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ,火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は床面を掘り窪められていないが,焼土混じりの粘土とロームブロックで構築されていることから作り替えたものと考えられる。また,土製支脚が竈内から横位で出土している。

竈土層解説

- 暗褐色 粘土ブロック少量,ロームブロック・焼土ブロック微量
- 暗褐色 粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,ロームブロック微量
- 暗褐色 焼土ブロック少量,ロームブロック・粘土ブロック微量
- 暗褐色 粘土ブロック多量,焼土ブロック少量,ローム粒子微量
- 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量,ローム粒子・炭化物微量
- 暗褐色 粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,ローム粒子・炭化物微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック中量,粘土ブロック少量,ローム粒子・礫微量
- 暗褐色 粘土ブロック多量,粘土ブロック中量,ローム粒子・焼土粒子中量
- 暗褐色 焼土粒子・粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,ローム粒子微量
- 黒褐色 灰中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 黒褐色 焼土ブロック少量,ロームブロック少量
- 黒褐色 焼土ブロック中量,ロームブロック・炭化物粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 暗赤褐色 粘土粒子多量,粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,礫微量
- 灰黄褐色 粘土粒子多量,粘土ブロック中量,焼土ブロック・礫微量
- 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量,焼土ブロック・炭化物微量
- 暗褐色 粘土粒子多量,粘土ブロック中量,ロームブロック・焼土粒子微量

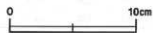
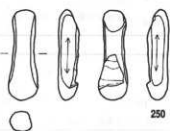
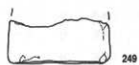
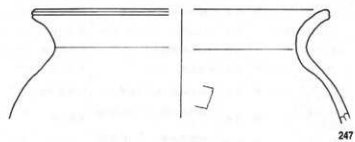
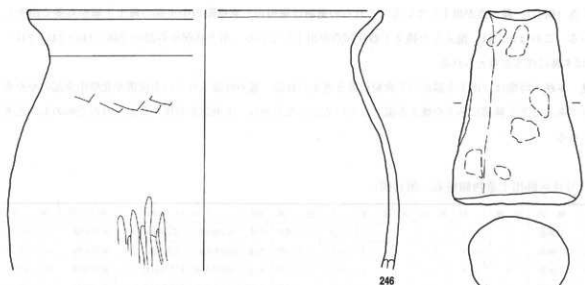
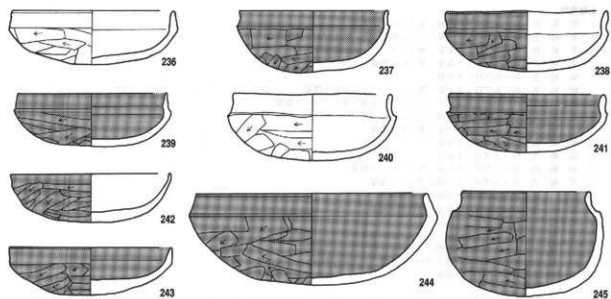


第43図 第17号住居跡実測図

- 19 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子・流土粒子・粘土ブロック微量
- 20 暗褐色 粘土粒子中量、粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・礫微量
- 21 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 22 暗赤褐色 流土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック微量
- 23 暗褐色 粘土ブロック中量、流土ブロック・炭化物微量
- 24 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・礫微量
- 25 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量、焼土粒子微量

ピット 7か所。主柱穴はP1～4で、深さ21～34cmで、各コーナー部寄りに位置している。P5・7は深さ34・18cmで、中央部南壁寄りに位置し、南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ51cmで、補助柱穴である。

覆土 20層からなる。第3・4・6・7・9・11～15層はロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。他はレンズ状の自然堆積の状況を示している。



第44图 第17号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
4	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子多量, ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
8	黒褐色	ロームブロック少量, ローム粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
10	黒褐色	ロームブロック少量
11	暗褐色	ロームブロック中量
12	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
14	褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
15	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
16	黒褐色	ロームブロック少量
17	暗褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
18	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
19	暗褐色	粘土粒子多量, 粘土ブロック中量, 焼土粒子微量
20	黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片279点(坏166・碗5・甕108), 須恵器片4点(坏3・甕1), 土製品2点(支脚), 石器1点(砥石), 礫3点が出土している。これらの遺物は竈周辺と東壁際の中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片76点が出土している。出土状況から236・238・240・243・247・248は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。竈の付設されている位置が北壁中央部のやや東寄りであることと袖部に粘土や焼土が混じっていることなどから, 中央部から作り替えられたためのものと考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
236	土師器	坏	12.9	4.3	-	灰赤-赤褐色	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ, 底部外側ヘラ削り。	北部中層	95% PL78
237	土師器	坏	11.8	4.9	-	灰赤-赤褐色	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ, 底部外側ヘラ削り。	東部中層	100% PL79
238	土師器	坏	12.8	4.8	-	灰赤-赤褐色	にぶい橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	北部中層	95% PL79
239	土師器	坏	11.8	4.2	-	灰赤-赤褐色	にぶい黄橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	北部中層	85% PL79
240	土師器	坏	12.6	5.3	-	灰赤-赤褐色	にぶい橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	北部中層	80% PL79
241	土師器	坏	12.4	4.6	-	灰赤-赤褐色	濁灰	普通	口縁部両面横ナデ, 体部上縁に輪状痕。	東部中層	60% PL79
242	土師器	坏	12.8	3.9	-	石英-雲母	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	50% PL79
243	土師器	坏	13.0	3.7	-	灰赤-赤褐色	にぶい橙	普通	底部外面ヘラ削り。	北部中層	50%
244	土師器	坏	18.2	7.3	-	灰石-石英-雲母-赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	中央部中層	85%
245	土師器	碗	10.0	8.3	-	長石-石英-赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ, 底部内面ヘラナデ。	東部中層	85% PL81
246	土師器	甕	[28.0]	(20.5)	-	長石-石英-雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ, 体部外面上部ヘラナデ。	東部中層	30%
247	土師器	甕	[23.2]	(8.6)	-	長石-石英-雲母	にぶい濁	普通	口縁部両面横ナデ, 体部内面ヘラナデ。	北部下層	15% 外面炭化物付着。

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	最大径(m)	最小径(m)	重量(g)				
248	支脚	15.4	7.9	4.8	1000.0	土製	外面ナデ。	竈下層	PL115
249	支脚	(3.5)	8.1	-	(264.0)	土製	底部に木葉痕, 外面ナデ。	中央部下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
250	磁石	7.1	2.4	1.6	37.5	鉄釘跡	砥石2面。	南部中層	

第18号住居跡 (第45～47図)

位置 調査区北部西寄りのE1c0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第16・17号住居跡、南東に第32号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北東壁が第228号土坑、南コーナー部が第489・490号土坑をそれぞれ掘り込み、南コーナー部が第23号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 一辺6.50mの方形で、主軸はN-39°-Wであり、壁高は50～61cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8～10cmで全周している。

竈 北西壁の中央部を壁外へ38cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土で構築している。規模は両袖部幅124cm、笑口部から煙道部までの長さ148cmである。袖部の遺存状態は良好で、火床面は床面とほぼ同じ高さで火熱を受けて赤変硬化している。また、煙道部は火床面から外傾して立ち上がり、袖部内壁及び煙道部も火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・白色粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 6 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 7 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 8 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
- 9 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 10 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化物微量
- 11 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 12 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 13 暗褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 14 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・礫微量
- 16 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子微量
- 17 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・礫微量
- 18 暗赤褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土ブロック少量
- 20 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・礫微量
- 21 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・礫微量
- 22 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 23 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 24 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量

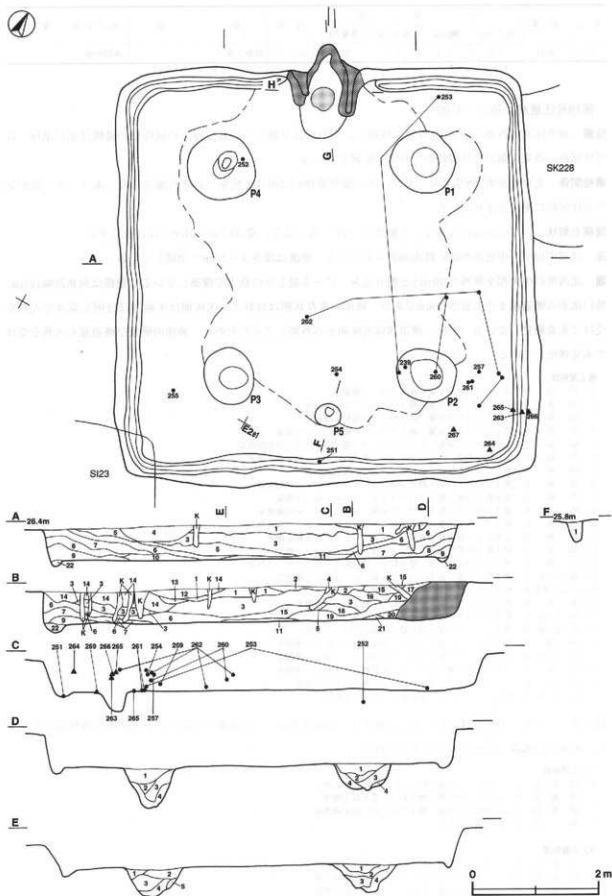
ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さ41～65cmである。P5は深さ35cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

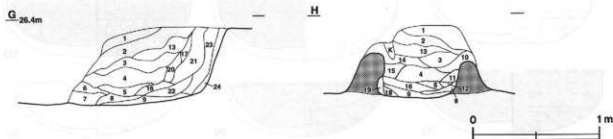
- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量



第45图 第18号住居跡実測图(1)



第46図 第18号住居跡実測図(2)

P3 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

P4 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

P5 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量

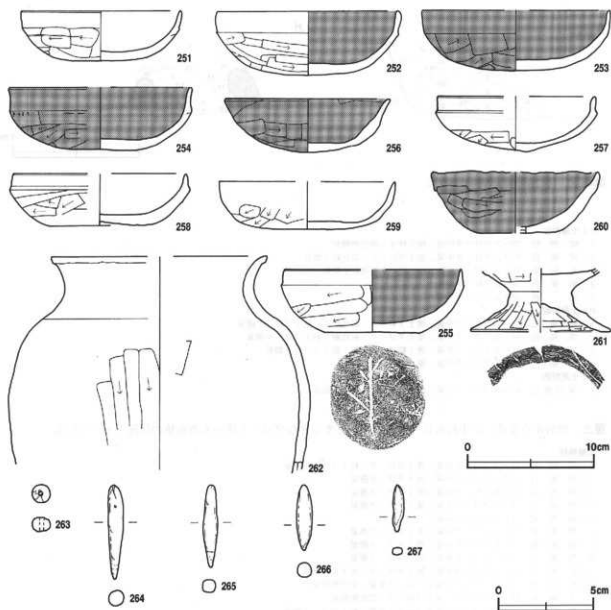
覆土 22層からなる。いずれもロームブロックを多く含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量
- 13 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 14 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 15 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 16 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 17 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 18 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 19 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量
- 20 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・糠炭
- 21 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック・糠炭
- 22 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2428点(坯1150・甕1278), 須恵器片10点(坯3・甕7), 土製品13点(支脚8, 土玉1, 不明4), 鏝12点が出土している。これらの遺物は中央部の南東寄りと東コーナー付近の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片214点, 弥生土器片4点や攪乱により混入した灰軸陶器片1点がそれぞれ出土している。灰軸陶器片は細片である。出土状況から251~253・255・259~261は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第47図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	土師器	坏	12.7	4.0	-	長石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ、底部木葉状。	南東部下層	90% PL79
252	土師器	坏	14.4	5.2	-	長石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	P4中層	80% PL79
253	土師器	坏	[15.0]	4.7	-	長石・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ。	東部下層	70% PL79
254	土師器	坏	[14.3]	4.9	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部木葉状を残し、周縁部ヘリ削り。	南東部中層	50% PL79
255	土師器	坏	[14.0]	5.0	7.5	長石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部木葉状を残し、周縁部ヘリ削り。	南部床面	60% PL79
256	土師器	坏	13.0	4.2	-	長石・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ、体部内面ナデ。	覆土中	70% PL79
257	土師器	坏	[12.4]	4.4	-	長石・赤色粘土	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部上半部ナデ。	東部中層	50% PL79
258	土師器	坏	[13.6]	4.1	7.8	長石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘリ削り。	覆土中	45% 内面炭化物付着。
259	土師器	坏	[14.0]	3.8	8.4	長石・赤色粘土	橙	普通	体部上半部ナデ。底部外面ヘリ削り。	東部中層	45%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
260	土師器	坏	[13.0]	4.8	[6.0]	石英・赤色 粒子	にぶい焼	普通	口縁部、底部内面ナデ。底部 外面へラ削り。	東部中層	50%
261	土師器	高坏	-	(5.0)	[11.0]	灰石・石英	橙	普通	坏部内面ナデ。肩部接合面に木炭痕。	東部下層	40%
262	土師器	甕	[16.9]	[16.8]	-	長石・石英・赤色	橙	普通	L層部両面ナデ、底部内面へラナデ。	東部中層	30%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
263	土玉	0.7	1.0	0.3	0.65	土製	焼成前穿孔。羽痕なし。	東部中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
264	不明土製品	5.1	0.8	-	2.8	土製	穿孔1か所。方向からの焼成前穿孔。	東部上層	PL115
265	不明土製品	4.3	0.7	-	2.0	土製	外面ナデ。	東部中層	PL115
266	不明土製品	3.5	0.8	-	2.0	土製	外面ナデ。	東部中層	PL115
267	不明土製品	2.5	0.5	-	0.5	土製	外面丁寧なナデ。	東部下層	PL115

第21号住居跡 (第48・49図)

位置 調査区北部西寄りのE1h9区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第25号住居跡、北に第18号住居跡が位置している。西部が調査区域外へ伸びている。

規模と形状 西部が調査区域外に伸びるため、確認できたのは長軸6.10m、短軸2.20mで、形状は方形または長方形と推測され、主軸はN-13°-Wであり、壁高は48~77cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8~23cmで、調査できた部分の壁下で検出している。

ピット P1は深さ56cmで、中央部から南壁寄りに位置し、性格は不明である。

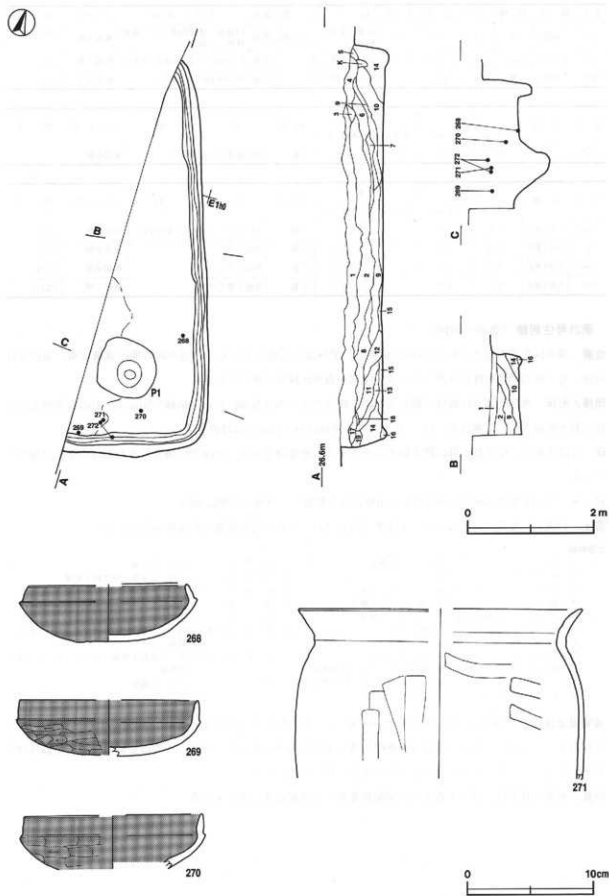
覆土 19層からなる。ロームブロックを多く含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

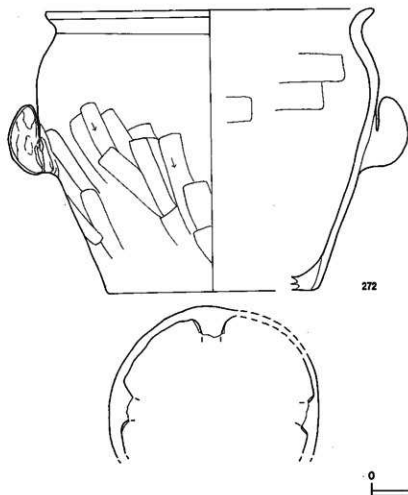
1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	12 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量	13 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、ローム粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	15 褐色	ロームブロック・ローム粒子中量
5 暗褐色	ローム粒子少量、ロームブロック微量	16 褐色	ロームブロック・ローム粒子少量
6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	17 黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
7 暗褐色	ロームブロック中量	18 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
8 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	19 黒褐色	ロームブロック微量
9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量		
10 褐色	ロームブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量		
11 暗褐色	ロームブロック・ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片67点(坏15・甕50・飯2)、須恵器片6点(坏3・甕3)、鉄製品1点(不明)、礫2点が出土している。これらの遺物は南壁際の覆土中層から多く出土している。このほかには、縄文土器片18点が出土している。出土状況から268・270は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第48图 第21号住居跡・出土遺物実測図



第49図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	土師器	坏	[12.4]	4.6	4.3	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラ周りを、ナデ。	南部床面	90% PL79
269	土師器	坏	[14.0]	4.4	—	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面横ナデ。	南部中層	40%
270	土師器	坏	[14.0]	(4.2)	—	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部中層	20%
271	土師器	甕	[22.4]	(13.4)	—	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部内面へラナデ。	南部中層	10%外面深付着。
272	土師器	甕	25.8	22.3	16.5	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。把手部ナデ。底部外面へラ周りを。	南部中層	50% 多孔式。 PL80

第25号住居跡 (第50~53図)

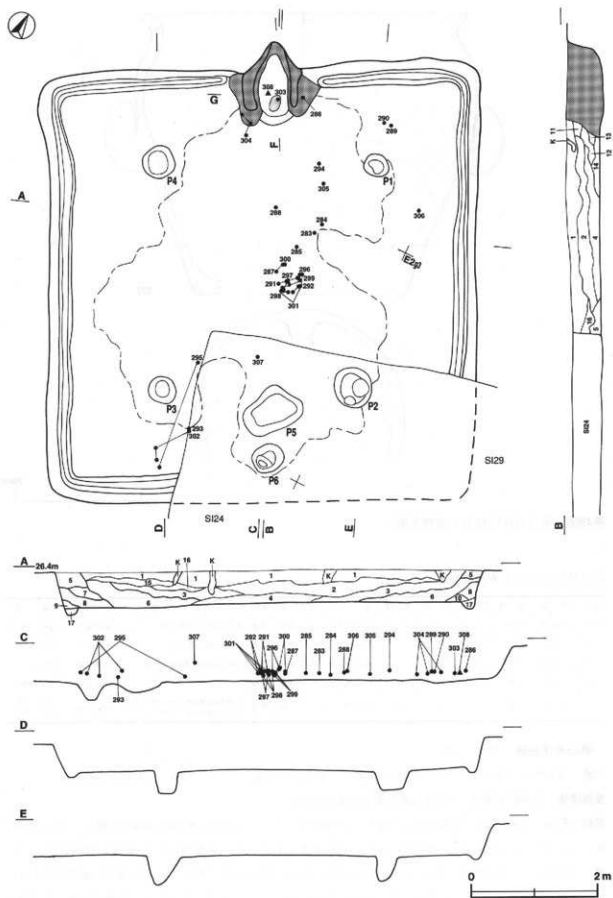
位置 調査区の北部西寄りのE2f2区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構はない。

重複関係 南東壁が第24・29号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.00m、短軸6.84mの方形で、主軸はN-24°-Wであり、壁高は58cmで外傾して立ち上がる。

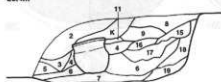
床 ほは平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで、重複部分以外の壁下で検出されている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ46cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅147cm、焚口部から煙道部までの長さ132cmである。火床部は床面から6cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。また、土製支脚が横位、底部の破損した土師器甕が立位でそれぞれ出

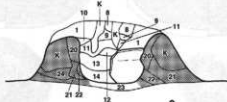


第50图 第25号住居跡実測図(1)

F-26.4m



G



0 1m

第51図 第25号住居跡実測図(2)

土している。

覆土層解説

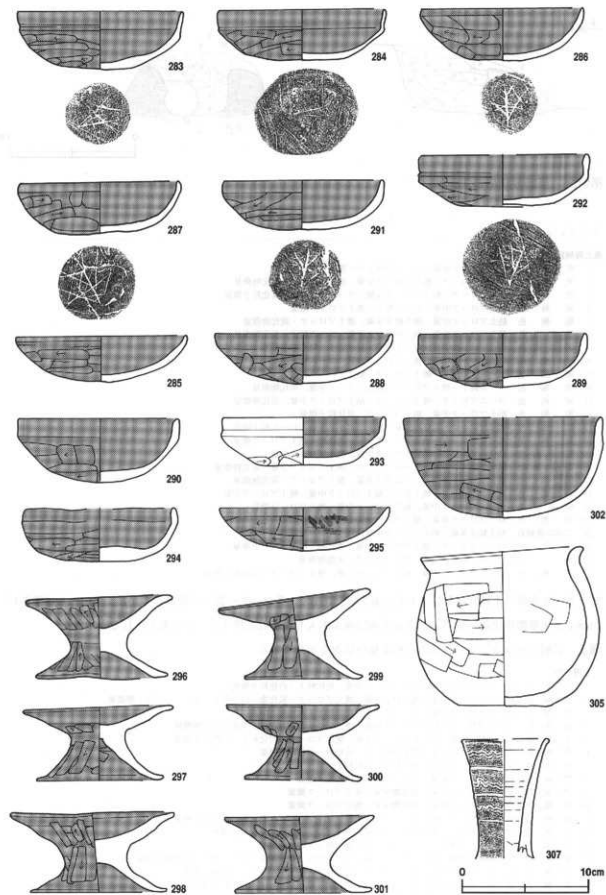
- | | | |
|----|--------|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 | 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 5 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 9 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 10 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 11 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 12 | 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 13 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量・粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 14 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量 |
| 15 | 暗赤褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 16 | 暗赤褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 17 | 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 18 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 19 | 暗赤褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 20 | 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 21 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 22 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量 |
| 23 | 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 24 | 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 6か所。主柱穴はP1～4で、深さ35～47cmで、各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ45・24cmで、南壁際中央部に位置し、南北方向に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。

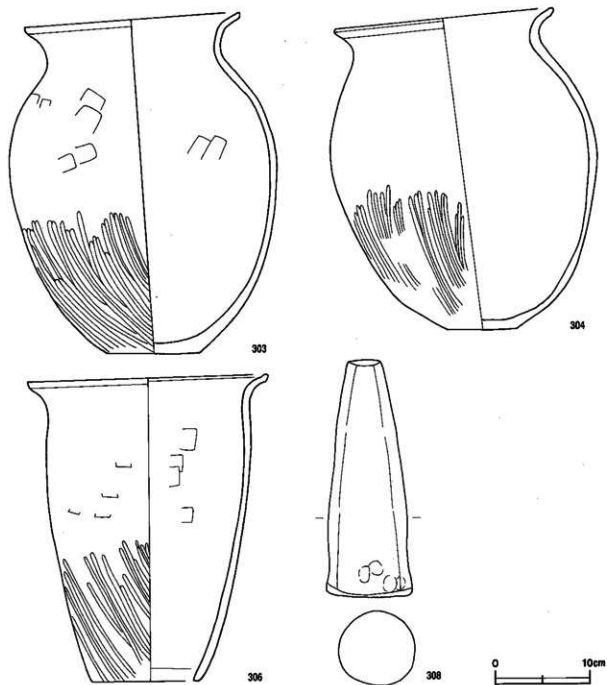
覆土 17層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | | |
|----|-----|---|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子・白色粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・白色粒子・粘土ブロック・燐微量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック・白色粒子少量、炭化物微量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量 |
| 7 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・白色粒子微量 |
| 8 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・白色粒子微量 |
| 9 | 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 10 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 11 | 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量 |
| 12 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 13 | 黒褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 14 | 黒褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 15 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・白色粒子微量 |
| 16 | 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・白色粒子微量 |
| 17 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |



第52图 第25号住居跡出土遺物実測図(1)



第53図 第25号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片791点(坏305・高坏91・甕352・瓶43), 須恵器片6点(坏1・甕3・瓶1・長頸瓶1), 土製品5点(不明), 礫6点が出土している。これらの遺物は中央部及び竈西側の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片172点が出土している。出土状況から283~290・292・293・297~301・303・305・308は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。出入り口施設に伴うピットが南北に縦列に並ぶ住居跡は第51・52・53号住居跡などに見られる。

第25号住居跡出土遺物観察表 (第52・53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
283	土師器	坏	13.1	4.6	-	長石・石英	褐	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部下層	100% PL79
284	土師器	坏	13.2	4.1	-	長石・石英	黒	普通	底部木炭灰を残し、口縁部へつ削り。	中央部下層	98% PL80
285	土師器	坏	13.4	3.5	-	紅土・粘質土	にぶい黄褐色	普通	口縁部下端に輪襷痕を残すナデ。	中央部下層	99% PL80
286	土師器	坏	12.8	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部木炭灰を残すへつ削り。	竈下層	99% PL80
287	土師器	坏	12.6	4.1	-	長石・石英	明赤褐	普通	底部木炭灰を残し、口縁部へつ削り。	中央部下層	95% PL80
288	土師器	坏	14.0	4.0	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部内面へつ削り。外面縦襷状の輪襷痕を残すへつ削り。	中央部下層	95% PL80
289	土師器	坏	13.2	4.2	-	長石・石英	褐灰	普通	底部外面へつ削り。	北部下層	90% PL80
290	土師器	坏	12.6	5.1	-	長石・石英	灰黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	85% PL80
291	土師器	坏	12.5	3.9	4.0	長石・石英	褐灰	普通	口縁部下端に輪襷痕を残すナデ。底部木炭灰を残し、口縁部へつ削り。	中央部下層	75% PL80
292	土師器	坏	[13.2]	4.1	6.4	長石・石英	褐	普通	底部木炭灰を残すへつ削り。	中央部下層	70% PL80
293	土師器	坏	12.8	3.9	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面へつ削り。	南部下層	60% PL80
294	土師器	坏	[11.6]	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	70% PL80
295	土師器	坏	13.3	3.4	-	長石・石英	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	60% PL80
296	土師器	高坏	11.6	6.6	10.4	長石	にぶい橙	普通	脚部内面上部に工具圧痕。	中央部下層	95% PL80
297	土師器	高坏	11.8	5.9	10.0	長石・石英	明黄褐	普通	脚部内面上部に工具圧痕。	中央部下層	95% PL80
298	土師器	高坏	12.9	6.2	10.9	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面上部に工具圧痕。	中央部下層	90% PL80
299	土師器	高坏	12.0	7.1	9.3	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面上部横いへつ削り。	中央部下層	80% PL81
300	土師器	高坏	12.1	6.1	9.3	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面上部横ナデ。	中央部下層	90% PL81
301	土師器	高坏	11.8	6.2	10.8	長石・石英	灰黄褐	普通	脚部内面上部へつ削り。	中央部下層	50%
302	土師器	碗	[15.4]	8.0	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面へつ削り。	南部下層	70% PL81
303	土師器	甕	22.8	38.0	9.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部内面・外面上半部へつ削り。	竈下層	80% 外面残付量。PL81
304	土師器	甕	23.0	33.9	7.2	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面横ナデ。	西北部下層	70% 外面残付量。PL81
305	土師器	小形甕	12.9	12.6	7.4	長石・石英	橙	普通	体部内面へつ削り。	北部下層	95% PL79
306	土師器	甕	25.1	32.2	11.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面・外面上半部へつ削り。	北部中層	90% PL81
307	須恵器	長頸瓶	7.1	(9.4)	-	長石・石英	褐灰黄	良好	両面口ロナデ。	中央部上層	5% PL81

番号	器種	計 画 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ (cm)	最大径 (cm)	最小径 (cm)	重量 (g)				
308	支脚	25.0	8.9	3.6	1560.0	土製	ナデ。下端に指頭痕。	竈下層	98%

第28号住居跡 (第54・55図)

位置 調査区北部西寄りのE 2 h5 区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第37号住居跡、南西に第36号住居跡、北に第32号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 長軸5.20m、短軸3.60mの東西方向に長い長方形で、主軸はN-25°-Wであり、壁高は27~30cmで外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、竈前面の中央部が踏み固められている。

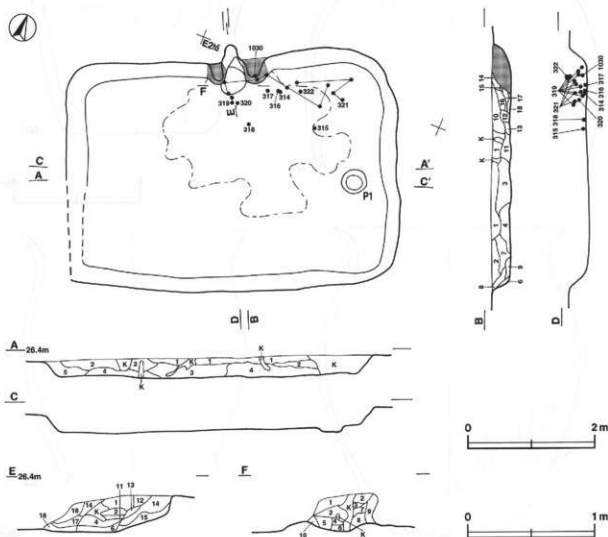
竈 北壁の中央部を壁外へ27cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖幅93cm、突口部から煙道部までの長さ74cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、焼土ブロックの広がりが見られるが、それほど硬化しておらず、煙道部は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は大部分が破壊されているため詳細は不明であるが、わずかにロームを掘り残して基部とし、その上に粘土とロームを混ぜた土で構築されて

いる。竈周辺の重複関係がなく、竈がほぼ完全に破壊されている。また、竈東側から北東コーナーにかけての床面から土師器環が3点置かれたような状態で出土しているが、住居の廃絶時に竈を破壊するような祭祀的な行為が行なわれた可能性も考えられる。また、焚口部から土製支脚が横位で出土している。

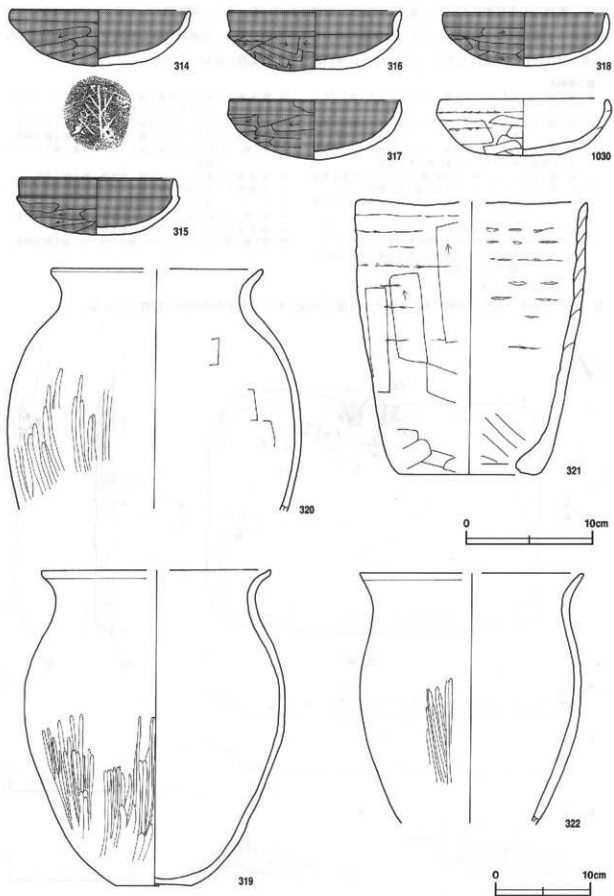
竈土層解説

- | | |
|--|--|
| 1 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 | 11 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック微量 | 12 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量 | 13 黒褐色 粘土粒子中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 15 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック・礫微量 |
| 7 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 16 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 8 暗褐色 粘土粒子多量、粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 17 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量 |
| 9 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量 | 18 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 1か所。主柱穴不明であるが、P1は深さ10cmであり、東壁際中央部に位置している。



第54図 第28号住居跡実測図



第55图 第28号住居跡出土遺物実測図

覆土 18層からなる。ロームブロックを多く含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒 暗 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量
- 7 黒 褐色 ロームブロック・ローム粒子少量
- 8 黒 褐色 ロームブロック少量
- 9 黒 褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量
- 10 黒 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 11 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 12 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 13 暗 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 14 暗 褐色 粘土ブロック中量、粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 15 暗 褐色 粘土ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
- 16 暗 褐色 粘土粒子中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 17 暗 赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
- 18 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片176点(坏64・碗2・甕81・甔29)、須恵器片5点(甕)、薬3点が出土している。これらの遺物は竈前面から北東コーナー部にかけて覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片160点、弥生土器片1点、剥片4点が出土している。出土状況から314~318は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。竈周辺に土師器環や甕が並べたように置かれていることや竈が完全に破壊されていることなどから、竈は廃絶時期に破壊され、その際に何か祭祀的行為が行われた可能性が考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1000	土師器	環	13.3	4.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	底部木炭を残し、周縁部へ張り。	竈下層	95%
314	土師器	環	14.0	4.4	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部中に輪痕。底部木炭を残り、周縁部へ張り。	北部下層	95% PL&I
315	土師器	環	12.3	4.5	-	石英	にぶい橙	普通	底部外面へ張り。	北東部下層	96% PL&I
316	土師器	環	13.6	4.8	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	底部木炭を残り、周縁部へ張り。	北部下層	70% PL&I
317	土師器	環	13.4	4.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	75% PL&I
318	土師器	環	13.0	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	60%
319	土師器	甕	[23.8]	33.0	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面横ナデ。体部外面下半へ張り。	北部中層	60% 外面僅付き。
320	土師器	甕	[16.6]	(19.2)	-	長石・石英・炭素	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。外面下半へ張り。	北部中層	30% 外面僅付き。
321	土師器	甕	[18.2]	21.6	[11.0]	長石	にぶい赤褐色	普通	胴部内面下縁横ナデ。底部指痕。	北東部中層	50% 単孔式。
322	土師器	甕	[23.6]	(26.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面横ナデ。胴部内面へ張り後、ナデ。	北部上層	20%

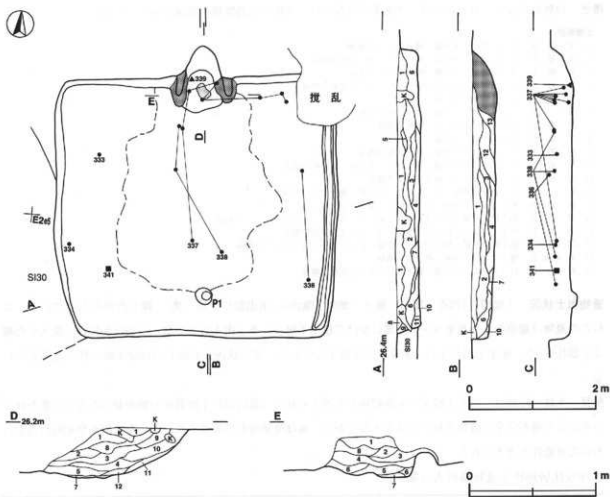
第31号住居跡 (第56・57図)

位置 調査区の北部西寄りのE2 d5区で、台地の平坦部に立地している。

重複関係 西部が第30号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.11mの方形で、主軸はN-5°-Wである。壁高は35cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。



第56図 第31号住居跡実測図

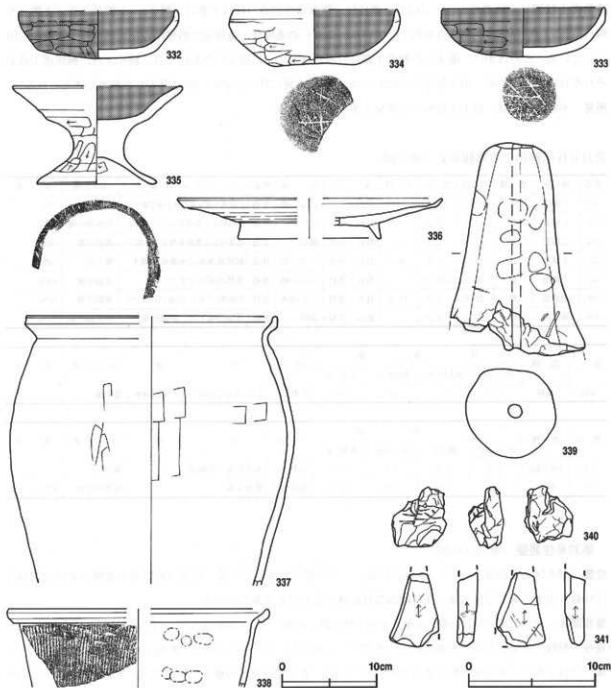
竈 北壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土など構築している。規模は焚火袖部幅106cm 口部から煙道部までの長さ106cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道部は火床面から外傾して立ち上がる。また、火床部から土製支脚が出土している。竈内から土師器焼片が多数出土している

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 2 暗赤褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量、焼土ブロック・白色粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・粘土ブロック・焼土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ロームブロック・白色粒子微量
- 5 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・白色粒子微量
- 6 暗赤褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 7 極暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 8 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
- 12 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 1か所。出入口施設に伴うピットはP1で、深さは10cmで、中央部から南壁中央部寄りに位置している。

覆土 13層からなる。第2・5～7・10層はロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示していることから人為堆積と考えられ、他の土層はレンズ状の堆積状況を示していることから、自然堆積と考えられる。



第57図 第31号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒 暗 色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 黒 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 6 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 13 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 7 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片311点(環135・堯176)、須恵器片27点(環11・堯14・盤2)、土製品2点(支脚・不明)、石器1点(砥石)、礫2点が出土している。これらの遺物は、竈周辺と西壁際の中央部の覆土下層から出土している。このほかに、混入した縄文土器片51点や攪乱によって混入した瓦片1点、剥片1点、杓状洋1点がそれぞれ出土している。出土状況から333・339・341は本跡に伴い、336・338は混入したものと考えられる。所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表(第57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土師器	環	[12.6]	3.9	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部下層に輪痕を残す横ナデ。	覆土中	50%
333	土師器	環	[12.6]	4.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	底部外面木炭痕を残すヘラ割り。	北西部中層	30%
334	土師器	環	[12.8]	4.5	-	長石・石英	濁灰	普通	底部外面木炭痕を残すヘラ割り。	西部中層	50%
335	土師器	高環	[13.2]	7.8	9.3	長石・石英	にぶい橙	普通	裾部後面に木炭痕を残す。	覆土中	60%
337	土師器	堯	[26.2]	(28.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。	北部中層	45%
336	須恵器	盤	[20.8]	3.2	[11.4]	長石・雲母	にぶい黄褐色	良好	底面割れへり盛り、高台跡り付れ、ナデ。	東部中層	20%
338	須恵器	鉢	[27.2]	(8.2)	-	長石・雲母	黄灰	良好	体部内面ナデ。指原圧痕。	中央部中層	5%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)				
339	支脚	17.0	(10.7)	5.2	946.0	土製	芯部に貫通孔(径6.4cm)。外周面割。縦下層		

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
340	不明土製品	4.8	4.2	2.8	30.0	土製	木炭灰及び指原灰。	覆土中	
341	砥石	5.8	3.8	1.6	49.8	凝灰岩	砥面4面。	南西部中層	PL117

第32号住居跡(第58～60図)

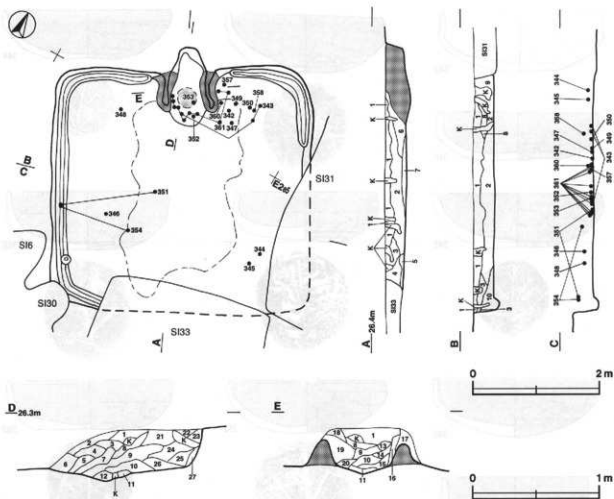
位置 調査区北部西寄りのE 2 e 4 区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第18号住居跡、南東に第37号住居跡、南に第28号住居跡がそれぞれ立地している。

重複関係 東壁が第31号住居跡、南壁が第33号住居跡、南西コーナー部が第6・30号住居跡に掘り込まれている。規模と形状 長軸4.10m、短軸3.85mの方形で、主軸はN-27°-Wであり、壁高は36～40cmでほぼ直立する。床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。重複部分以外の壁下で検出され、本来全周していたものと考えられる。

竈 北壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅124cm、突口部から煙道部までの長さ98cmである。火床部は床面から9cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がる。火床部から土製支脚が横位で出土している。

覆土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・炭化物・粘土ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 8 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック微量



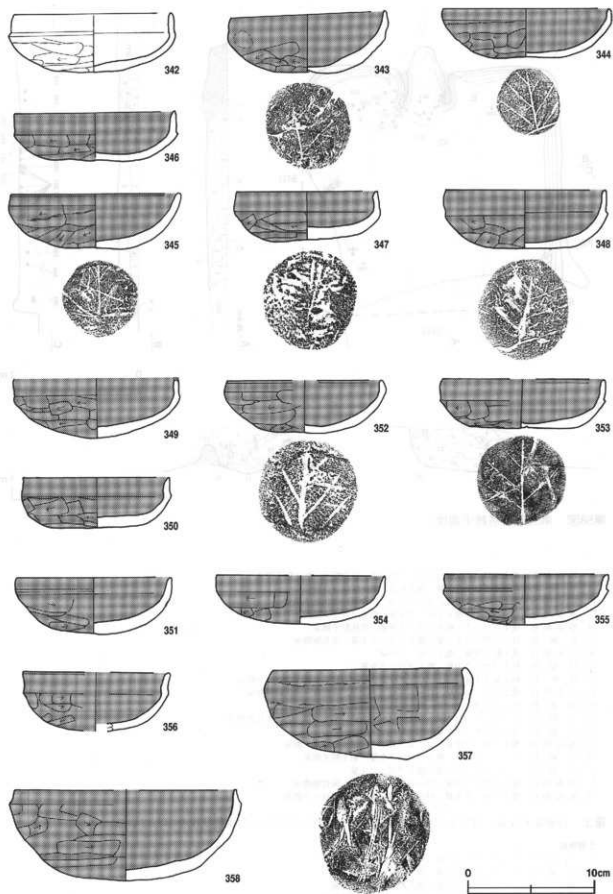
第58図 第32号住居跡実測図

- 10 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 11 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・粘土ブロック微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 13 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
- 14 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 15 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
- 16 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量
- 17 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
- 18 暗褐色 粘土粒子中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
- 20 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 21 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 22 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 23 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック微量
- 24 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 25 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 26 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量
- 27 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック微量

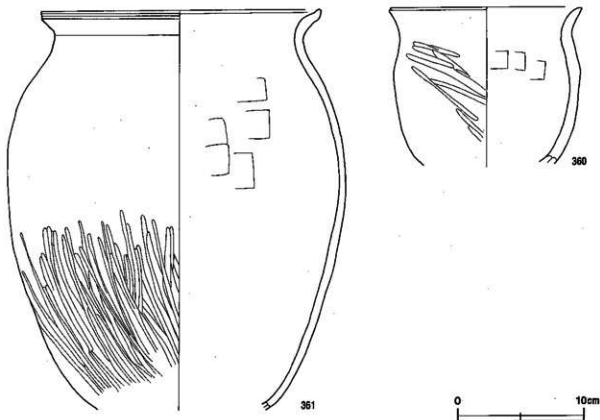
覆土 10層からなる。ロームブロックを多く含むブロック状の人為堆積状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量



第59图 第32号住居跡出土遺物実測図(1)



第60図 第32号住居跡出土遺物実測図(2)

- 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
 8 黒褐色 ロームブロック少量
 9 褐色 ロームブロック中量
 10 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片229点(坏123・甕106)、須恵器片1点(甕)、土製品4点(支脚3・不明1)、礫2点が出土している。これらの遺物は北部から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片61点、石器2点(磨製石斧、剃片)が出土している。出土状況から342・347・349・350・352・353・357・360は本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表(第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
342	土師器	坏	12.5	4.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部下縁に輪痕を残り換ナデ。	北部下層	100%
343	土師器	坏	12.2	4.9	4.0	長石・石英	明赤褐	普通	底部外面木炭痕を残すヘラ削り。外部外面に指痕痕。	北部下層	100% PL82
344	土師器	坏	13.2	3.9	-	長石・石英	褐	普通	底部外面木炭痕を残すヘラ削り。	東部下層	95% PL82
345	土師器	坏	13.2	4.3	4.5	長石・石英	橙	普通	底部外面木炭痕を残すヘラ削り。	東部下層	100% PL82
346	土師器	坏	12.6	3.9	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面換ナデ。	西部下層	100% PL82
347	土師器	坏	11.0	9.0	-	長石・石英	にぶい褐	普通	底部外面木炭痕を残し、肩縁部へラ削り。	北部床面	98% PL82
348	土師器	坏	12.6	4.6	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部外面木炭痕を残し、肩縁部へラ削り。	北部下層	95% PL82
349	土師器	坏	-	(4.7)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面換ナデ。	北部床面	95%
350	土師器	坏	11.5	4.0	-	長石・石英	褐	普通	口縁部両面、体部内面換ナデ。	北部床面	80% PL82

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
351	土師器	坏	12.2	4.5	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	底部外面本蓋を貫し、周縁部へ張り。	西部中層	75% PL82
352	土師器	坏	[12.2]	4.1	3.4	長石・石英	褐色	普通	底部外面本蓋を貫し、周縁部へ張り。	甕前床面	70%
353	土師器	坏	[12.8]	3.9	6.2	長石・石英	褐色	普通	底部外面本蓋を貫し、周縁部へ張り。	北部床面	60% PL82
354	土師器	坏	[13.2]	3.9	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	西部中層	50%
355	土師器	坏	[13.0]	3.9	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	50%
356	土師器	坏	[11.4]	(4.6)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	覆土中	30%
357	土師器	甕	14.8	7.2	-	長石・石英	灰褐色	普通	底部外面本蓋を貫し、周縁部へ張り。	北部床面	60% PL82
358	土師器	甕	[17.5]	7.2	-	長石	にぶい褐色	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	50%
361	土師器	壺	22.1	(31.5)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	体部内面ヘラナデ。体部外面下半へ張り。	北部床面	80% 外面係付着。 PL82
360	土師器	小形壺	15.2	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内面ヘラナデ。	北部下層	40%

第36号住居跡 (第61～63図)

位置 調査区中央部北寄りのE 2 17区に位置し、平坦部に立地している。周辺にある同時期の遺構は北西に第28号住居跡、北東に第37号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と平面形 長軸5.80m、短軸5.44mの方形で、主軸はN-31°-Wであり、壁高は36～40cmでほぼ直立する。

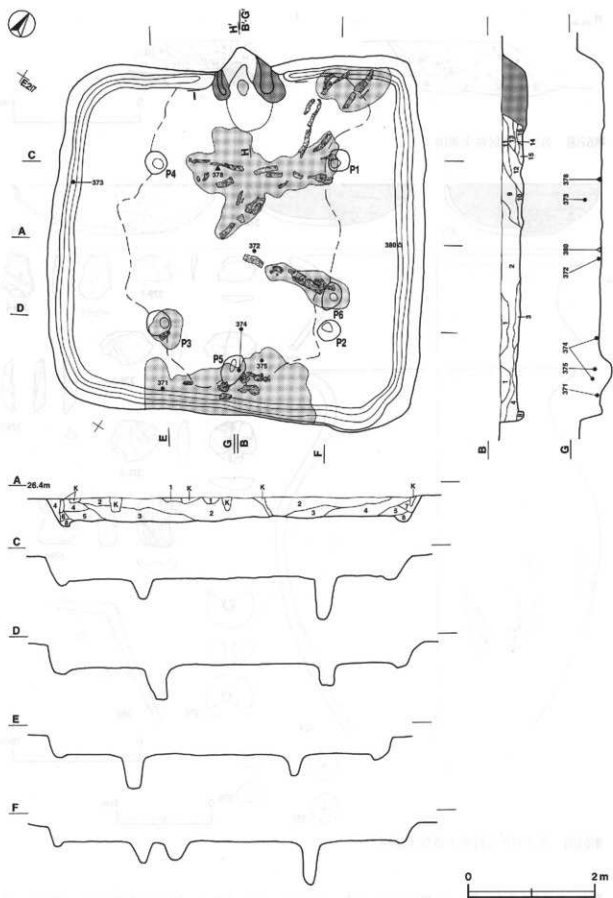
床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで、全周している。炭化材が焼土とともに、北壁から中央部にかけてと南壁際の中央部の床面から多数出土し、焼失家屋と考えられる。

竈 北西壁の中央部を壁外へ42cmほど掘り込み、焼土が混じった粘土などで構築している。規模は両袖部幅108cm、焚口部から煙道部までの長さ131cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量
- 6 にぶい赤褐色 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 8 黒褐色 色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
- 9 暗褐色 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土ブロック微量
- 10 黒褐色 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 11 暗赤褐色 色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 12 黒褐色 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 13 暗赤褐色 色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 14 暗赤褐色 色 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
- 15 暗赤褐色 色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土ブロック微量
- 16 暗赤褐色 色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
- 17 暗赤褐色 色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子・粘土ブロック微量
- 18 黒褐色 色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 19 黒褐色 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 20 暗赤褐色 色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 21 暗赤褐色 色 焼土ブロック少量
- 22 暗褐色 色 ロームブロック・焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量

ピット 6か所。主柱穴はP1～4で、深さは32～67cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ21cmで、中央部から南東壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ29cmで、P1とP2を結ぶ線上にあることから、補助柱穴と考えられる。

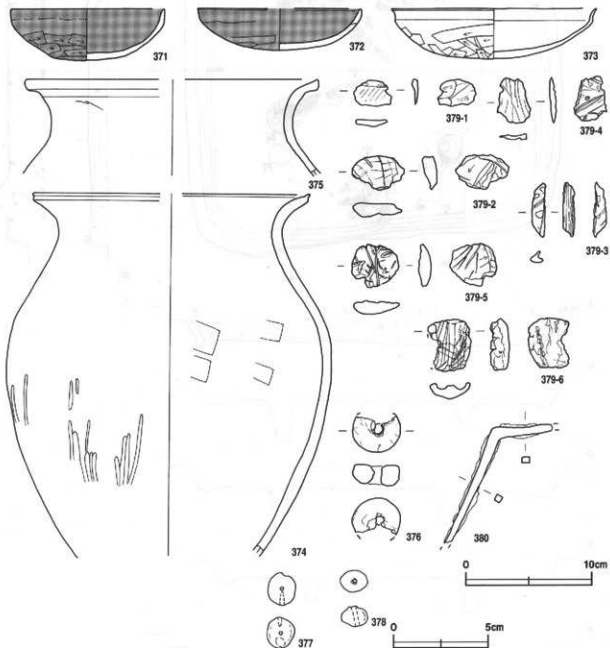


第61图 第36号住居跡実測图(1)

H 26.4m



第62図 第36号住居跡実測図(2)



第63図 第36号住居跡出土遺物実測図

覆土 16層からなる。第3・5層はロームブロックを含み、ブロック状の人為堆積の状況を示し、他はレンズ状の堆積状況を示している。住居の廃絶時に一部埋められ、その後は自然に堆積したと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
 3 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量
 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、白色粒子少量、炭化物・粘土ブロック微量
 5 黒褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
 6 黒褐色 焼土ブロック中量
 7 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量
 8 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
 9 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
 10 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量
 11 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
 12 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
 13 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
 14 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量
 15 暗褐色 ローム粒子・粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
 16 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物粒子・粘土ブロック少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片1854点(坏1060・高坏1・器台3・甕790)、須恵器片13点(坏4・蓋1・瓶1・甕7)、土製品24点(球状土鐘1、土玉1、紡錘車1、不明21)、薬6点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。炭化材は焼土とともに、北壁から中央部にかけて出土し、南壁際の中央部の床面からも多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片208点や攪乱によって混入した灰釉陶器片2点それぞれ出土している。出土状況から372が本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。焼土や炭化材が床面から多数出土していることから焼失家屋と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表(第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
371	土師器	坏	12.1	4.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部下端に輪痕を残す横ナデ。	南部下層	90% PL82
372	土師器	坏	[12.8]	3.3	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部下端に輪痕を残す横ナデ。	中央部下層	65% 内面タール付着。
373	土師器	坏	[16.2]	4.0	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。	西部下層	70%
374	土師器	甕	[21.8]	(28.9)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。	南部下層	3% 内面付着。
375	土師器	甕	[22.8]	(7.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部両面ナデ。	南部下層	10%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
376	紡錘車	3.3	1.6	0.9	12.4	土製	焼成前孔径が狭いナデ。上面に溝状工具痕。	P1覆土中	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
377	土玉	1.7	1.4	0.1	3.9	土製	未貫通の穿孔2か所。棒状工具圧痕。	覆土中	
378	土玉	1.1	1.4	0.3	1.4	土製	焼成前穿孔。外面ナデ。	中央部下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
379①	不明土製品	2.1	3.0	0.6	2.1	土製	両面にヘケ削り痕。	覆土中	PL115
379②	不明土製品	2.7	4.1	1.1	8.5	土製	木炭痕。反面にヘケ削り痕。	覆土中	PL115
379③	不明土製品	4.4	1.1	0.9	2.6	土製	棒状工具圧痕及び繊維圧痕。	覆土中	PL115
379④	不明土製品	3.5	2.7	0.5	3.6	土製	削り痕上に繊維。種子圧痕。	覆土中	PL115
379⑤	不明土製品	3.3	3.7	1.0	9.3	土製	削り痕上に繊維圧痕。	覆土中	PL115
379⑥	不明土製品	4.1	3.4	1.5	14.1	土製	棒状工具圧痕及び繊維圧痕。	覆土中	PL115
380	門金具	(9.4)	(8.5)	0.6	24.6	鉄製	くの字状に形造し、先端は薄くなる。	東部下層	

第37号住居跡 (第64・65図)

位置 調査区北部中央寄りのE 2 F 8区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第36号住居跡、南西に第32号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南西壁中央部を第19号溝が掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.50m、短軸6.47mの方形で、主軸はN-34°-Wであり、壁高25~38cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~10cmで、攪乱を受けている部分を除いて、壁下を巡っている。焼土が中央部から南西壁及び北西壁の床面に広がっており、北西壁中央部の中央部寄りに竈に使用されたと思われる焼土混じりの粘土塊が確認されている。

粘土塊土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土ブロック・微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 粘土粒子多量、粘土ブロック中量、焼土ブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量
- 8 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量
- 9 暗褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・白色粒子微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量、粘土ブロック少量、ロームブロック・白色粒子微量
- 11 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック少量、ローム粒子微量
- 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・白色粒子微量
- 13 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量

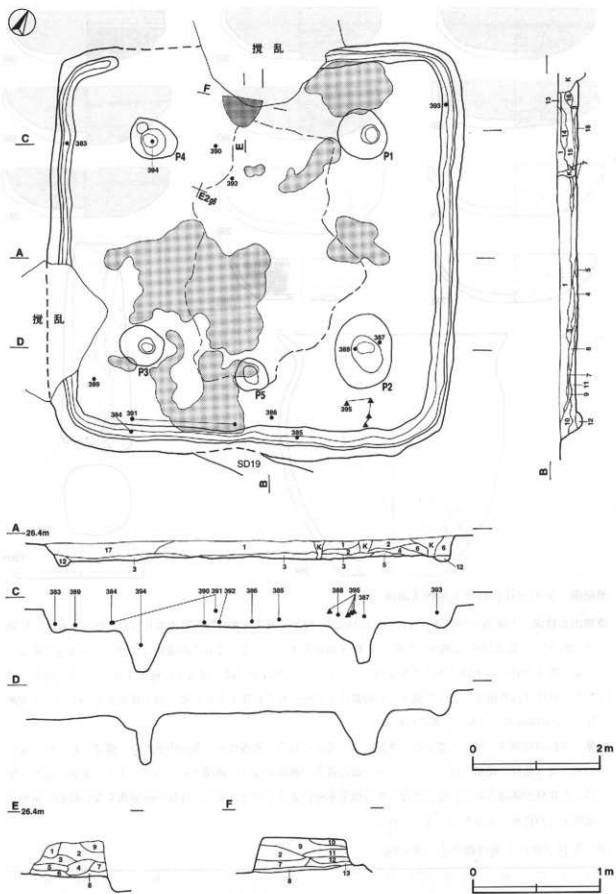
竈 北西壁中央部周辺は攪乱のため、竈は確認できなかったが、柱穴の配置や床面の状況、さらに中央部から北西壁寄りに粘土の集中部分があること、攪乱部分の周辺の覆土に粘土ブロックや焼土が含まれていることなどから、北西壁の中央部に竈が付設されていたと想定できる。

ピット 5か所。主柱穴はP1~4で、深さ60~77cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ24cmで、南東壁中央部寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は他のピットに比べて確認状況の平面形が床面を大きく掘り込んでいることから、抜き取り痕と思われる。

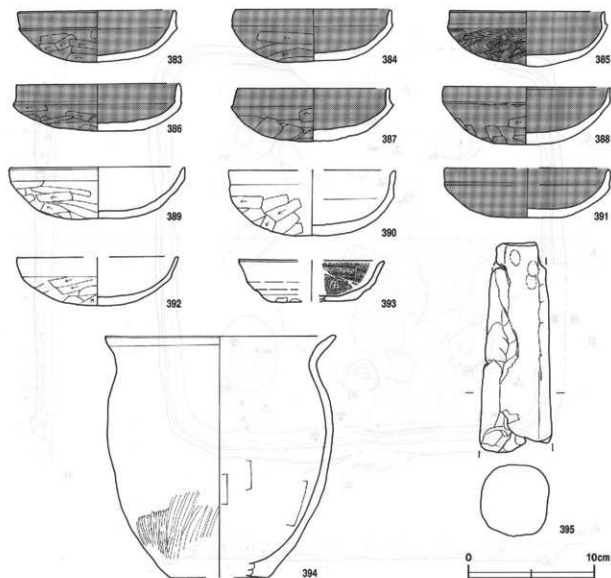
覆土 18層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。第13~15層は粘土や焼土を含んだ暗褐色土で、竈材の流れ込んだ土層と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化物微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 8 黒褐色 焼土ブロック中量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 10 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 12 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 13 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・微量
- 14 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物・粘土ブロック・微量
- 15 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物・微量
- 16 黒褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 17 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 18 黒褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量



第64图 第37号住居跡実測图



第65図 第37号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1844点(坏1187・高坏327・碗2・壺1・甕327), 須恵器片24点(坏2・蓋4・長頸壺2・甕16), 土製品13点(支脚8・不明5), 礫4点が出土している。これらの遺物は北コーナー部及び東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには, 混入した縄文土器片152点, 弥生土器片5点, 剥片4点や攪乱によって混入した陶器片1点がそれぞれ出土している。出土状況から390・392は本跡に伴い, 393は混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から7世紀前半と考えられる。北西壁中央部の中央寄り確認された焼土混じりの粘土塊は竈材に使用されたもので, その竈は後世の攪乱を受けて破壊されている。また, 床面に広がる焼土は, 炭化材が確認されていない点などから焼失家屋によるものではなく, 住居の焼絶間もない時期に南壁及び北壁からの投棄によるものと考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表 (第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
383	土師器	坏	12.4	4.0	-	長石・雲母	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	西部下層	100% PL82
384	土師器	坏	12.2	4.1	-	長石	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南西部下層	100% PL82

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	土師器	坏	12.2	4.3	-	灰石	にぶい黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	80% PL82
386	土師器	坏	12.8	3.7	-	灰・赤・黒	にぶい黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	80%
387	土師器	坏	12.0	4.2	-	灰石・石黄・黒	にぶい黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南東部下層	70% PL82
388	土師器	坏	13.2	4.5	-	灰石・赤色	にぶい橙	普通	口縁部下縁に輪痕を残す横ナデ。	南東部下層	85% PL83
389	土師器	坏	13.6	4.1	-	灰・赤・黒	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	25% 内面付着
390	土師器	坏	[13.1]	5.1	-	灰・赤・黒	橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	40%
391	土師器	坏	[13.1]	3.9	-	石英	にぶい黄	普通	底部外面へナゲり後、ナデ。	南部中層	50%
392	土師器	坏	12.6	3.8	-	石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	45% 内面炭化物付着。
393	土師器	坏	[11.4]	3.2	[7.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	底部回転糸切り。	北東部中層	40% 内面に炭化物付着 [1]
394	土師器	甕	18.0	19.2	[7.8]	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面へナゲナデ。	P 4 中層	70% 二次焼成。PL82

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
395	支脚	(16.6)	5.7	5.6	479.0	土製	ナデ、指頭痕。	南東部中層	

第39号住居跡 (第66・67図)

位置 調査区域中央部のF2f0区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第111号住居跡、南西に第170号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南東コーナー部が第208号住居跡、東壁が第491号土坑を掘り込み、南壁が第41号住居跡、南東壁中央部から北コーナー部を第12号溝に掘り込まれている。

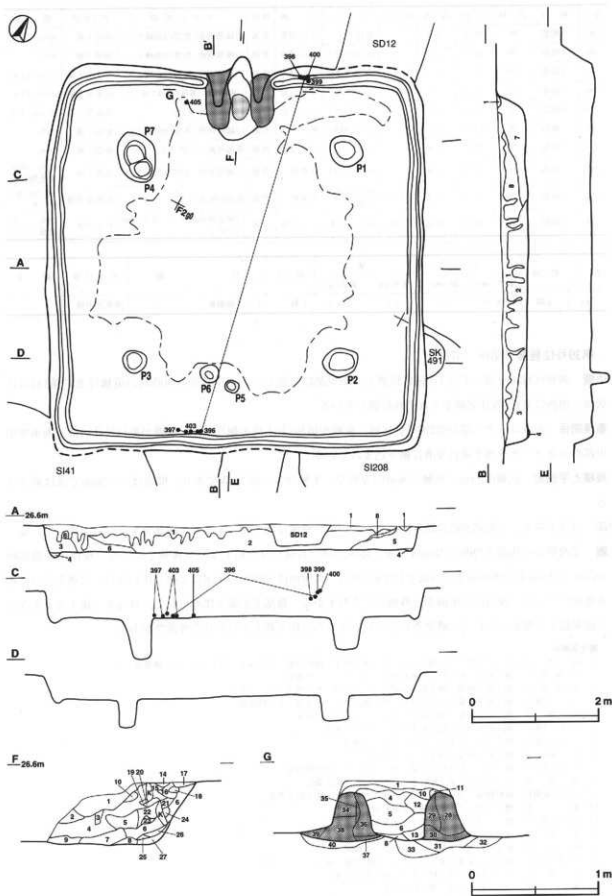
規模と平面形 長軸6.09m、短軸5.96mの方形で、主軸はN-26°-Wであり、壁高は30~58cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで、竈部分を除いて全周している。

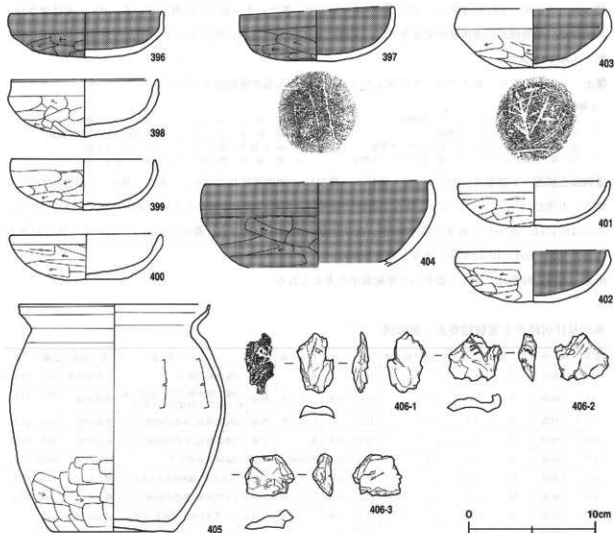
竈 北西壁の中央部を壁外へ31cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅107cm、焚口部から煙道部までの長さ133cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部下が掘り窪められて、ローム・焼土などを含んだ暗褐色土で埋め戻されて、構築されていることから、作り替えが行われた可能性がある。

竈土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子・粘土ブロック・糠炭
- 灰黄褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
- 暗灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- オリーブ褐色 粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量
- オリーブ褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・粘土ブロック少量
- にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
- 赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック微量
- 灰黄褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- にぶい黄褐色 砂粒微量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 灰中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・砂粒少量、粘土ブロック微量
- 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 灰黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
- にぶい黄褐色 粘土粒子多量、粘土ブロック少量



第66图 第39号住居跡实测图



第67図 第39号住居跡出土遺物実測図

- | | | | |
|----|-----|-----|--|
| 21 | 灰 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 22 | 黒 | 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 粘土ブロック微量 |
| 23 | 暗 | 褐色 | 粘土粒子多量 |
| 24 | 赤 | 褐色 | 焼土粒子多量, 焼土ブロック少量 |
| 25 | 暗 | 褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 26 | 暗 | 赤褐色 | 焼土ブロック・焼土粒子少量 |
| 27 | にぶい | 黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 28 | にぶい | 黄褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 29 | 暗 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 30 | 暗 | 赤褐色 | 粘土ブロック・ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 31 | 黒 | 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 32 | 黒 | 褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 33 | 暗 | 褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 34 | 暗 | 褐色 | 焼土粒子・粘土ブロック・砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子少量 |
| 35 | 暗 | 赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック多量, 砂粒微量 |
| 36 | 暗 | 赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量, 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量, 炭化物・炭化粒子微量 |
| 37 | 暗 | 赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック・砂粒少量, 焼土ブロック微量 |
| 38 | にぶい | 黄褐色 | 粘土ブロック多量, 砂粒・白色粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 39 | 黒 | 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 40 | 暗 | 褐色 | ロームブロック多量, 砂粒少量, 焼土ブロック微量 |

ピット 7か所。主柱穴はP1～4で、深さ40～58cmで、各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ18・30cm形で、中央部から南西壁中央部寄りに、東西に並ぶ出入り施設に伴うピットと考えられる。P7はP4を掘り込んでいる。

覆土 8層からなる。粘土ブロックを含んだブロック状の人為堆積状をしている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量	5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック微量	6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量	7 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	8 暗褐色 焼土粒子・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片873点(坏527・高坏5・甕341)、須恵器片15点(坏4・蓋2・甕9)、土製品25点(支脚2・不明23)が出土している。これらの遺物は竈周辺と南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片361点、弥生土器片12点、割片2点、礫8点が出土している。出土状況から396・403・404・405は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前半と考えられる。

第39号住居跡出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
396	土師器	坏	11.9	3.6	-	長石	褐灰	普通	口縁部四面横ナデ。	中央部中層	95% PL83	
397	土師器	坏	12.0	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部四面横ナデ。底部木炭灰を挟し、周縁部へつ割り。	南部下層	90% PL83	
398	土師器	坏	11.6	4.5	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部四面、体部内面横ナデ。	北部中層	70% PL83	
399	土師器	坏	11.3	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部四面、体部内面横ナデ。	北部中層	90% PL83	
400	土師器	坏	11.7	3.7	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部四面横ナデ。	北部中層	60% PL83	
401	土師器	坏	11.8	3.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部下縁に輪積灰を残す横ナデ。	覆土中	60% PL83	
402	土師器	坏	[11.8]	4.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部四面、体部内面横ナデ。	覆土中	30% PL83	
403	土師器	坏	[11.4]	4.7	5.6	長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部木炭灰を挟し、周縁部へつ割り。	南部下層	50%	
404	土師器	甕	[17.8]	(6.6)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部四面、体部内面横ナデ。	覆土中	10%	
405	土師器	甕	14.9	12.9	[9.6]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面上平部ナデ、下部へつ割り。	北東部下層	70% 外面煤付着。PL83	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
406①	不明土製品	4.7	2.9	1.3	6.9	土製	布疋痕。	覆土中	
406②	不明土製品	3.8	4.2	1.4	7.8	土製	1面には木炭灰、その反面には割り痕。	覆土中	
406③	不明土製品	3.3	3.9	1.6	11.2	土製	丁寧なナデを残し、反面はナデ、指痕。	覆土中	

第43号住居跡(第68図)

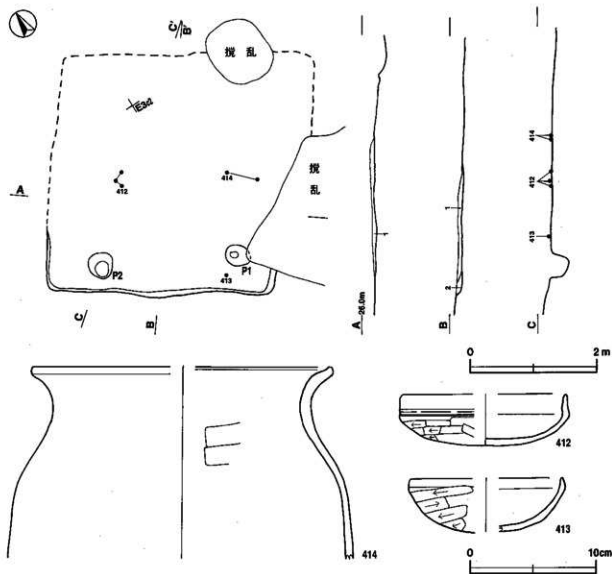
位置 調査区中央部西寄りのE3c1区に位置し、南西から北東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第46号住居跡、北西に第4号住居跡、北東に第3号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 長軸3.98m、短軸3.77mの方形で、主軸はN-36°-Eであり、壁高は10cmで緩やかな傾斜で立ち上がる。北東壁と南東壁は傾斜部や攪乱のため、確認できなかった。

床 ほほ平坦で、全体的に踏み固められている。

ピット 2か所。主柱穴はP1・2で、深さ18・29cmで、南・西の各コーナー部寄りに位置し、北・東部では検出できなかった。

覆土 2層からなる。明確な判断は困難であるが、覆土が薄くロームブロックを含み、しまりは弱い覆土であ



第68図 第43号住居跡・出土遺物実測図

ることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片178点（坏43・甕135）、須恵器片4点（坏）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。このほか、混入した縄文土器片21点や攪乱によって混入した瓦片1点が出土している。出土状況から412～414は本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第43号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
412	土師器	坏	13.1	4.0	-	灰石・赤地鉄子	橙	普通	口縁部両面滑ナデ、底部外面へラ削り。	西部下層	40% PL83
413	土師器	坏	[12.1]	4.1	-	灰石・赤地鉄子	橙	普通	底部外面へラ削り。	南部下層	10%
414	土師器	甕	[23.6]	(15.1)	-	灰石・赤地鉄子	にぶい橙	普通	口縁部両面つまみ上げ、各器内面へラナデ。	東部下層	10%

第46号住居跡 (第69・70図)

位置 調査区北部中央のE 3 e 2 区に位置し、南西から北東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第43号住居跡、南西に第37号住居跡、南東に第47号住居跡がそれぞれ位置している。

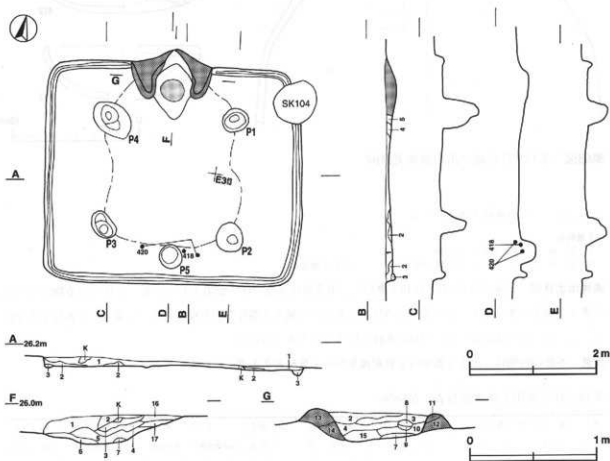
重複関係 北東コーナー部を第104号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.72m、短軸3.54mの長方形で、主軸はN-8°-Wであり、壁高は13~20cmでほぼ直立する。床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ5~10cmで全周している。

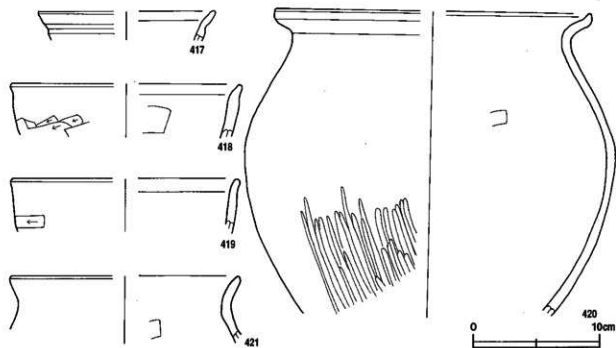
竈 北壁の中央部を壁外へ33cmほど掘り込み、焼土泥じりの粘土などで構築している。袖部が破壊されていて、遺存状態は不良である。確認できた規模は両袖部幅126cm、焚口部から煙道部までの長さ113cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック中量、白色粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・白色粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量、ローム粒子・白色粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、白色粒子微量
- 6 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・粘土ブロック少量、焼土ブロック・白色粒子微量
- 7 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・白色粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・白色粒子少量
- 10 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック・白色粒子少量
- 11 暗褐色 ロームブロック中量、白色粒子少量、焼土ブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量
- 12 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・粘土ブロック・白色粒子少量、焼土ブロック微量
- 13 暗褐色 白色粒子多量、粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、粘土ブロック少量



第69図 第46号住居跡実測図



第70図 第46号住居跡出土遺物実測図

- 15 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、粘土ブロック・白色粒子微量
 16 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・白色粒子少量
 17 暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、粘土ブロック・白色粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さは30～56cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ20cmで、中央部から南寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、焼土ブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量、焼土ブロック微量
 5 灰褐色 砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・礫少量

遺物出土状況 土師器片143点(坏77・碗1・甕65)、須恵器片15点(坏4・蓋1・甕10)、土製品2点(不明)が出土している。これらの遺物は南壁際中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片36点、剥片2点や攪乱によって混入した陶器片1点がそれぞれ出土している。出土状況から417・420は本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
417	土師器	坏	[14.0]	(2.3)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	口縁部両面丁寧ナデ。	覆土中	5%
418	土師器	碗	[18.2]	(4.2)	-	灰石・鉄屑	橙	普通	体部内面ヘラナデ。	南部下層	5%
419	土師器	碗	[18.0]	(4.2)	-	灰石・鉄屑	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	覆土中	5%
420	土師器	甕	[24.8]	(24.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラナデ。	南部下層	5% 須恵器片混入
421	土師器	甕	[18.2]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ、体部内面ヘラナデ。	覆土中	5%

第47号住居跡（第71図）

位置 調査区中央部のE3h4区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第46号住居跡、南東に第49号住居跡、東に第51号住居跡がそれぞれ立地している。

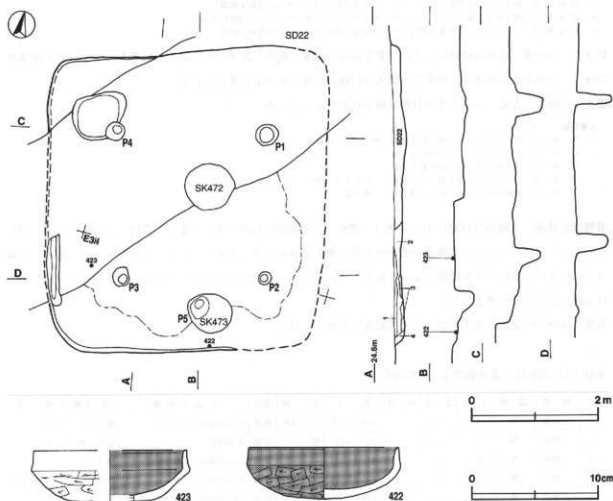
重複関係 中央部が第472号土坑、P5付近が第473号土坑、西壁中央部から北東コーナー部が第22号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 西から東への斜面部に立地しているため、東壁の立ち上がりが不明で、確認できたのは長軸4.66m、短軸4.30mで、形状は方形と推測され、主軸はN-12°-Wであり、壁高は15~25cmでほぼ直立する。床はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ4cmで、西壁の中央部の壁下だけで検出されている。北西コーナー部の床面を9cmほど掘り窪められた緩やかなU字形を呈した窪みがあり、その窪みに灰が捨てられたように多く含んでいることから、灰溜りと考えられる。

竈 確認できなかったが、主柱穴や出入り口施設に伴うピットの位置から、北壁の中央部付近にあったと考えられ、第22号溝に破壊されたと考えられる。

ピット 5か所。主柱穴はP1~4で、深さは41~52cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ30cmで、中央部から南東壁中央部寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなる。南西から北東へ流れ込んだ自然堆積の状況を示している。



第71図 第47号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片75点(坏54・甕21)、土製品1点(支脚片)、礫6点が出土している。これらの遺物は南部の床面から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片7点や攪乱によって混入した陶器片1点が出土している。出土状況から422・423は本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。本跡は南西から北東へ下がる斜面上に立地しているため、東壁の立ち上がりは確認されなかったが、床質や柱穴の位置から推測した。

第47号住居跡出土遺物観察表(第71図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
422	土師器	坏	12.2	4.0	-	灰味・絶胎	黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	100% PL83
423	土師器	坏	[12.0]	4.0	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。 体部上端に輪襷気。	南部下層	20%

第48号住居跡(第72図)

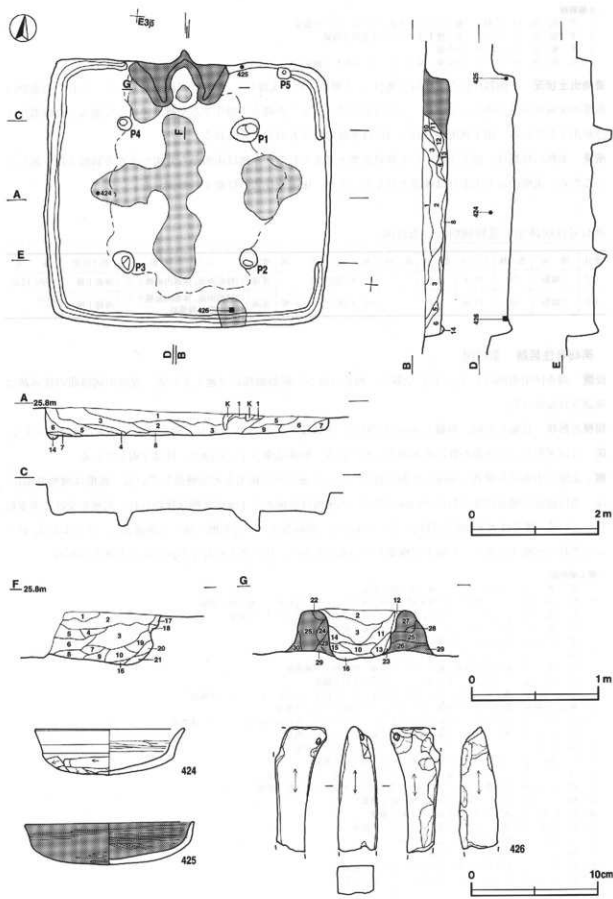
位置 調査区中央部のE3j5区に位置し、西から東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の住居跡は確認されなかった。

規模と形状 長軸4.39m、短軸4.16mの方形で、主軸はN-2°-Wであり、壁高は25~49cmでほぼ直立する。床はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで、ほぼ全周している。

竈 北壁の中央部を壁外へ16cmほど掘り込み、ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅157cm、焚口部から煙道部までの長さ94cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。西袖部はロームを掘り残して基部とし、そのほかは、ロームにそれぞれ焼土が混じった粘土で構築していることから、作り替えが行われたものと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
- 6 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 7 暗褐色 粘土粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・礫微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック微量
- 11 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・粘土ブロック・礫微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子少量、粘土ブロック微量
- 13 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 14 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 15 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 16 暗赤褐色 灰中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 17 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 18 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
- 20 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 21 褐色 ロームブロック中量
- 22 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 23 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量



第72图 第48号住居跡・出土遺物実測図

- 24 赤 褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量
 25 にぶい黄褐色 炭化粒子・粘土粒子・黒色粒子少量、焼土粒子微量
 26 にぶい黄褐色 炭化粒子・粘土粒子・黒色粒子少量、焼土粒子微量
 27 暗 褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 28 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 29 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 30 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さ23～36cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ9cmで、竈東側の壁溝の底面で確認されていることから、壁柱穴と考えられる。

覆土 14層からなる。第4～7層が西から流れ込んだ自然堆積を示し、その後、中央部の第2・4・8層がブロック状の堆積の状況を示していることから、投棄による人為堆積と考えられる。また、第10・11・12・13層は竈から流れ出した土層と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
 3 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量
 5 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 6 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
 7 暗 褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量
 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物・粘土ブロック微量
 9 黒 褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
 10 灰 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
 11 暗 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
 12 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・輝微量
 13 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ロームブロック微量
 14 暗 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片123点(坏69・甕54)、須恵器片10点(坏6・釜3・甕1)、土製品1点(不明)、石製品1点(砥石)、礫2点が出土している。これらの遺物は竈付近と南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかに、混入した縄文土器片45点が出土している。出土状況から425は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。焼土は中央部及び中央部から東壁中央部、南壁中央部、竈前面などの床面に広がっており、焼失家屋と考えられる。

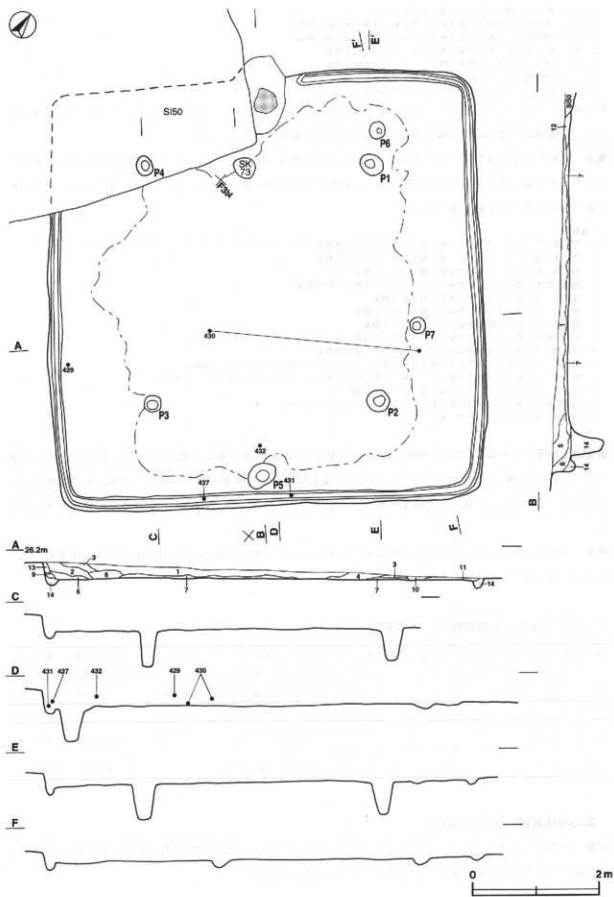
第48号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
424	土師器	坏	11.8	3.6	-	灰石灰赤地子	明赤褐	普通	口縁部外周縁ナド、底部外面へウ磨き。	東部上層	95% PL83
425	土師器	坏	13.4	3.2	-	灰石赤色地子	にぶい赤褐	普通	底部外面一部へウ磨き。	北部中層	98% PL83

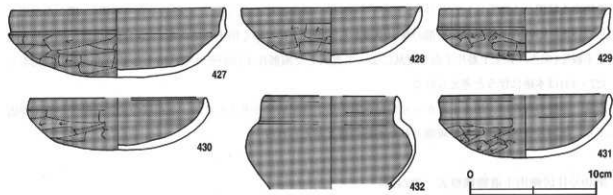
番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
426	砥石	10.7	2.9	2.4	131.4	凝灰岩	紙面4面。	南部下層	PL117

第49号住居跡(第73・74図)

位置 調査区中央部のF3b4区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第47号住居跡、東に第51号住居跡、南東に第59号住居跡がそれぞれ位置している。



第73图 第49号住居跡実測图



第74図 第49号住居跡出土遺物実測図

重複関係 北西部を第50号住居跡, 中央部から北西壁の中央部寄りを第73号土坑にそれぞれ掘り込まれている。
規模と形状 長軸6.84m, 短軸6.80mの方形で, 主軸はN-42°-Wであり, 壁高は32~43cmで外傾して立ち上がる。

床 ほほぼ平坦で, 中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8~14cmで, 竈部分と第50号住居跡に掘り込まれた部分を除いた壁下で検出されている。本来は全周していたものと考えられる。

竈 北西壁の中央部を壁外へ27cmほど掘り込まれている部分に, 粘土と焼土が楕円形状の広がりを確認され, その中央部から床面を11cmほど掘り窪められ, 火熱を受けて赤変硬化している不整楕円形状の火床部と考えられる部分を確認し, 粘土が確認されることから, その部分に竈が付設されていたと考えられるが, 第50号住居跡に掘り込まれて破壊されたと考えられる。

ピット 7か所。主柱穴はP1~4で, 深さは49~59cmであり, 各コーナー寄りに位置している。P4は第50号住居跡の中央部から東コーナー寄りの床面の掘り方から検出されている。P5は深さ57cmで, 中央部から南壁際寄りに位置し, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7の性格は不明である。

覆土 14層からなる。ロームブロックを含まれるが, 各層とも平均的な散らばりが見られ, レンズ状を呈したしまりが弱いことから, 自然堆積の状況を示している。第7層はロームブロックが混じったしまりの強い褐色土であり, 貼り床の埋土と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 9 黒褐色 ロームブロック中量
- 10 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 11 暗褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 13 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 14 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片147点(坏75・壺1・甕71)、須惠器片1点(甕)、土製品1点(不明)、礫5点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片160点、弥生土器片1点や攪乱によって混入した陶器片1点がそれぞれ出土している。出土状況から427・431は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。北西壁中央部に粘土や焼土が広がり、第50号住居跡によって破壊された本跡の竈と考えられる。

第49号住居跡出土遺物観察表(第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
427	土師器	坏	16.9	5.5	-	長石・石英	にぶい黄澄	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部下層	96% PL83
428	土師器	坏	14.3	4.3	-	長石・石英	黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部覆土中	70% PL83
429	土師器	坏	13.4	4.1	-	長石	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南西部下層	70% PL83
430	土師器	坏	[12.8]	4.1	-	長石・石英	黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	中央部下層	50%
431	土師器	坏	[13.4]	4.9	-	長石・石英	普通	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南東部下層	50%
432	土師器	小形甕	[10.5]	(7.3)	-	長石・石英	灰褐	普通	体部両面丁家ナデ。	南東部下層	40%

第51号住居跡(第75・76図)

位置 調査区北部西寄りのE3j8区に位置し、南西から北東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第49号住居跡、東に第52号住居跡、南東に第53号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南コーナー部を第8号溝が掘り込んでいる。

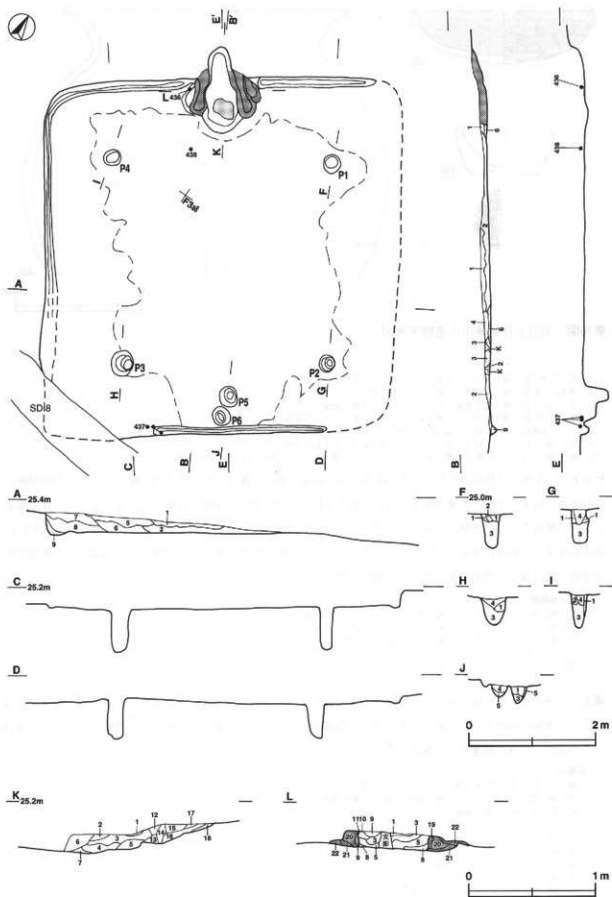
規模と形状 南西から北東への斜面部に位置し、北東壁の立ち上がり不明であるが、確認できたのは長軸5.68m、短軸5.65mで、形状は方形と推測される。主軸はN-35°-Wであり、壁高は15~27cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ3~8cmで、北コーナー部から南西壁の中央部と南東壁の中央部の壁下で検出された。P1~4の各主柱穴の上端には、柱の固定していた可能性のある白色粘土が検出された。

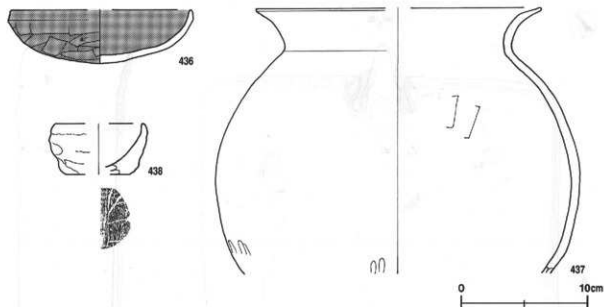
竈 北西壁の中央部を壁外へ54cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土と微礫を混ぜて構築している。規模は両袖部幅125cm、焚口部から煙道部までの長さ135cmである。火床部は床面から6cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。竈は袖部下の掘り込みがなく、火床部も深く掘り窪んでないことや袖部の粘土中に焼土が混じっていることなどから、作り替えられた竈と考えられる。また、火床部中央部から土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
- 5 暗赤灰色 焼土ブロック少量、炭微塵
- 6 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 7 暗赤褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 8 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、炭微塵
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化物・粘土ブロック微量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭微塵
- 13 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 14 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量



第75图 第51号住居跡実測図



第76図 第51号住居跡出土遺物実測図

- 16 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
 17 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
 18 黒褐色 焼土粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子微量
 19 暗赤褐色 焼土ブロック・羅中量、炭化粒子・粘土ブロック微量
 20 に近い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子・羅少量
 21 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
 22 暗褐色 ローム粒子・羅少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量

ピット 6か所。主柱穴はP1～4で、深さは58～66cmであり、各コーナー寄りに位置している。その周囲にはわずかに高まりをもって硬く締まった白色粘土が柱穴を開くように床面に付着していることから、柱を固定するのに使用された白色粘土と考えられる。また、柱穴の抜き取り痕の土層である第1～3層からも同じ白色粘土が含まれており抜き取りの際に、入り込んだものと考えられる。P5・6は深さ40・28cmで、中央部から南壁寄りに位置し、南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
 3 暗褐色 ロームブロック中量、ローム粒子少量、粘土ブロック微量
 4 黒褐色 ロームブロック少量
 5 褐色 ロームブロック中量

覆土 9層からなる。第1層はロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況をし、第2～9層はレンズ状の自然堆積の状況を示していることから、自然堆積と考えられる。第2～9層は自然堆積によって一部埋め戻され後に、窪みに投棄された廃土と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量
 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量
 4 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
 5 黒褐色 ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
 6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
 7 暗褐色 ロームブロック少量
 8 黒褐色 ロームブロック少量
 9 暗褐色 ロームブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片42点(坏24・甕18)、鉄製品1点(不明)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。このほかは、混入した縄文土器片19点が出土している。出土状況から436・438は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。主柱穴の周囲の白色粘土は柱を固定するのに使用されたものと考えられるが、このような例は当遺跡内では唯一である。P5・6は南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットで、周囲にある同時期の第52・53号住居跡にも見られる。

第51号住居跡出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
436	土師器	坏	[14.3]	4.2	-	灰石・石英	灰褐色	普通	口縁部四面横ナデ。	北西部下層	60% PL83
437	土師器	甕	[22.4]	(21.0)	-	灰石・石英・炭末	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘラナデ。	南部下層	30% 別途検出。
438	土師器	手取土器	[7.0]	4.0	[5.2]	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部内面横ナデ。	北西部下層	60% 底部不露出。PL83

第52号住居跡(第77・78図)

位置 調査区北部西寄りのE41区に位置し、台地縁辺部の南西から北東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第51号住居跡、南西に第53号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南西コーナー部から竈西脇にかけて、第8号溝が掘り込んでいる。

規模と形状 第8号溝に掘り込まれ、不明な部分があるが、南西コーナー部を除いて、各コーナー部が確認されている。長軸5.24m、短軸5.20mの方形で、主軸はN-9°-Wであり、壁高は13~31cmでほぼ直立する。床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。床面は粘土面まで掘り込んで作られ、踏み固めて使用されている。壁溝は深さ5~10cmで、竈部分を除いて、全周していたものと考えられる。壁際の床面に焼土と粘土が広がり、特に南壁際で多く確認されている。粘土と焼土が混じり合っている床は、作り替えによって壊された竈材などを利用したものと考えられる。

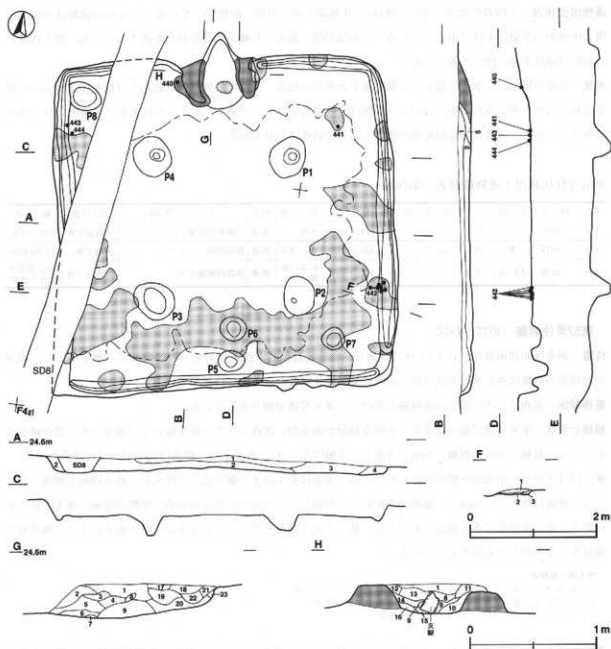
焼土焼土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、焼土粒子中量、粘土ブロック少量
- 2 灰褐色 粘土ブロック・粘土粒子中量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量

竈 北壁の中央部を壁外に46cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅119cm、焚口部から煙道部までの長さ123cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床部中央部から土製支脚が立位で出土し、基部は粘土で固んで固定されている。

竈土層解説

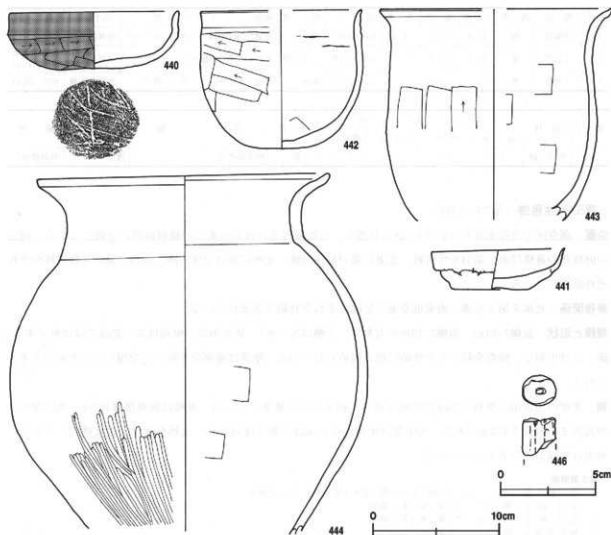
- 1 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土粒子中量、粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 6 黒褐色 焼土ブロック少量
- 7 褐色 粘土粒子多量
- 8 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
- 10 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子・粘土ブロック微量
- 11 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 12 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
- 13 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量



第77図 第52号住居跡実測図

- 14 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 15 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 16 褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 17 黒褐色 焼土ブロック微量
- 18 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 19 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量
- 20 黒褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 21 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 22 暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 23 暗褐色 粘土粒子中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

ピット 8か所。主柱穴はP1～4で、深さ20～38cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ26・15cmで、中央部の南壁寄りに位置し、南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。このような配置の住居跡は第51・53号住居跡と同様である。P7・8の性格は不明である。



第78図 第52号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片358点（坏104・鉢9・甕245）、須恵器片2点（甕）、土製品34点（支脚21・不明13）、が出土している。これらの遺物は北部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。出土状況から440・441は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。P5・6は南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットで、第51・53号住居跡と同様の配置である。

第52号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
440	土師器	坏	13.4	4.5	-	長石・赤色粒子	明黄褐色	普通	底部外面木炭痕跡、肩縁部へう張り。	南部下層	80% PL84
441	土師器	子登土器	10.4	3.3	6.2	長石・石英	明黄褐色	普通	底部外面へう張り後、ナデ。	南部下層	90% PL84

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
442	土師器	樽	[12.6]	11.0	6.4	長石・赤色粘土	褐色	普通	口縁部内面ナデ、底部下半部ヘラナデ。	南東部下層	50%
443	土師器	甕	[18.2]	(16.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り。	北部下層	80% 外面摩滅。FL84
444	土師器	甕	23.0	(29.9)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部外面下半部ヘラ磨き。	南西部下層	40% FL84

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
446	管状土師	(2.0)	1.8	0.4	4.2	土製	焼成前穿孔。	覆土中	外面摩滅。

第53号住居跡 (第79~81図)

位置 調査区中央部東寄りのF 3 b9区に位置し、台地縁辺部の西から東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第54号住居跡、北東に第52号住居跡、北西に第51号住居跡、南西に第59号住居跡がそれぞれ位置している。

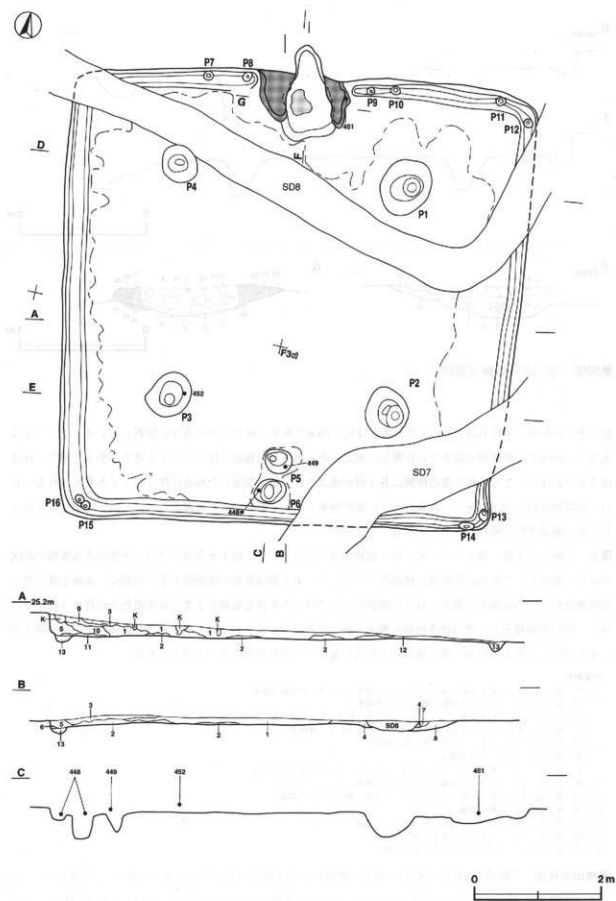
重複関係 北部を第8号溝、南東部を第7号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.14m、短軸7.13mの方形で、主軸はN-8°-Wであり、壁高は7~35cmでほぼ直立する。床はほぼ平坦で、壁際を除いて全体的に踏み固められている。壁溝は竈部分を除いて全周していたものと考えられる。

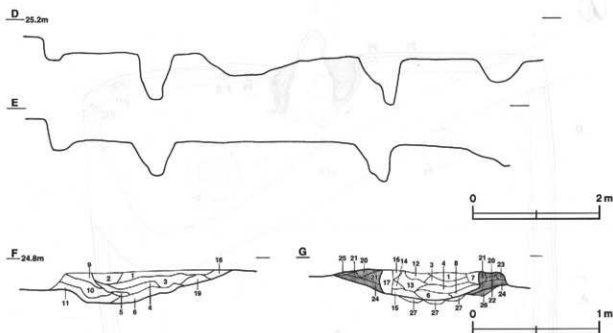
竈 北壁の中央部に壁外へ40cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖幅142cm、笑口部から煙道部までの長さ153cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 極暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
- 暗赤灰色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・灰少量、ロームブロック・炭化物微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子中量
- 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量
- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子微量、粘土ブロック微量
- 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 灰褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- にぶい赤褐色 焼土粒子多量、粘土ブロック少量
- 灰褐色 粘土粒子多量、粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 極暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- にぶい黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- にぶい黄褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- にぶい黄褐色 炭化粒子・粘土粒子少量
- 暗赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量(掘り方)
- 暗赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量(掘り方)



第79图 第53号住居跡实测图(1)



第80図 第53号住居跡実測図(2)

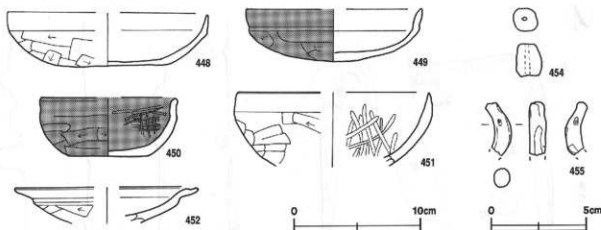
ピット 16か所。主柱穴はP1～4で、深さは52～75cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ27・36cmで、中央部の南寄りに位置し、南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7～10は深さ9～21cmで、2穴1組で竈の両側に各1組が確認され、竈に関連した施設に伴うピットと考えられる。P11～16は深さ11～22cmであり、北東コーナー部や南東コーナー部の壁際の底面から、コーナーを挟むように2対1組で確認され、壁柱穴と考えられる。

覆土 13層からなる。第2・3・8・11・12層はロームブロックや焼土を含み、ブロック状の人為堆積の状況を示し、他はレンズ状の自然堆積の状況を示している。第2層は住居の廃絶間もない時期に、床面全体に焼土が投棄され、その後して第8・11・12層がロームブロックを含む暗褐色土または黒褐色土が投棄され、その後、一時自然堆積をし、その後南西部の覆土上層の位置にロームブロックと粘土を含む黒褐色土である第3層が廃土されたと考えられる。第7層は粘土を含む竈からの流れ出したものと考えられる。

土層解説

- | | | |
|----|-----|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・粘土粒子・礫微量 |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 9 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 10 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 11 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 12 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 13 | 暗褐色 | ロームブロック・ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片801点(坏517・碗3・甕281)、須恵器片13点(坏2・釜3・甕8)、土製品3点(管玉1・支脚2)、鉄滓1点などが出土している。これらの遺物は中央部から南壁にかけての覆土中層から下層にかけて多く出土している。また、補修孔のある土師器甕体部片1点が出土している。このほかは、混入した



第81図 第53号住居跡出土遺物実測図

縄文土器片97点、弥生土器片1点、剥片19点や攪乱によって混入した灰軸陶器片1点がそれぞれ出土している。出土状況から448・449・451は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。焼土が床面全体に検出され、焼失家屋と考えられる。また、当遺跡で本跡のように各コーナー部に2穴1組の壁柱穴が確認されている住居跡はなく、上層構造に差異があったものと考えられるが、形状については不明である。

第53号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
448	土器	坏	[15.4]	4.4	—	灰石粘土	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	30% PL84
449	土器	坏	[13.8]	4.1	—	灰石粘土	明赤陶	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	50% PL84
450	土器	碗	[10.6]	4.7	6.4	灰石粘土	褐灰	普通	底部外面一方向のへら削り。	覆土中	40%
451	土器	碗	[15.2]	(5.8)	—	灰石粘土	橙	普通	口縁部両面横ナデ、外面へら削り見ナデ。	北部下層	20%
452	土器	高坏	[14.4]	(2.8)	—	灰石粘土	にがい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南西部下層	20%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	径(cm)	口径(cm)	重量(g)				
454	不明土製品	1.8	1.3	0.3	3.0	土製	外面ナデ。上下に貫通の穿孔。	覆土中	

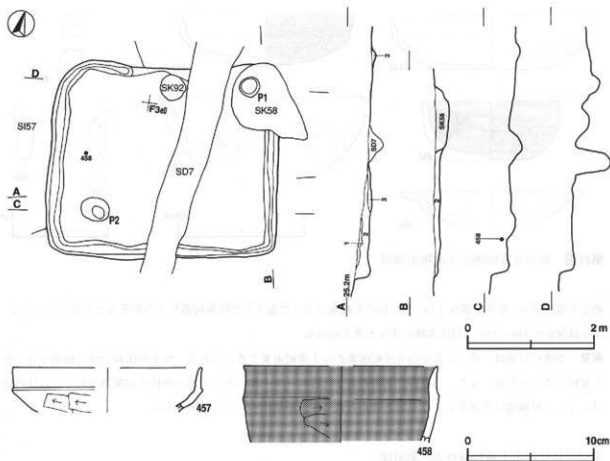
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
455	不明土製品	(2.8)	1.4	1.0	(2.7)	土製	穿孔1か所、外面ナデ。	覆土中	PL115

第54号住居跡（第82図）

位置 調査区中央部東寄りのF3e0区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第53号住居跡、西に第59号住居跡、南西に第58号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西コーナー部が第57号住居跡を掘り込み、中央部を第7号溝、P2付近を第58号土坑、中央部から北壁中央部寄りを第92号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.10mの長方形で、主軸はN-2°-Wであり、壁高は13~30cmでほぼ直立する。



第82図 第54号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。壁溝は深さ4～6cmで、東壁を除いた壁下に検出されているが、本来、全周していたものと考えられる。

竈 竈内出土の土器や周囲にある住居跡の規模や形状から、本跡は竈を有する時期と考えられ、北壁に付設され、焼土や粘土が確認されているが、第7号溝に掘り込まれ破壊されたと考えられる。

ピット 2か所。主柱穴はP1・2で、深さは75・52cmであり、各コーナー寄りに位置している。

覆土 3層からなる。西部から流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片25点(坏20・壺5)、鏝1点が出土している。これらの遺物は全体的に出土している。

このほかには、縄文土器片6点が出土している。出土状況から458は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師器	坏	[15.1]	(3.5)	-	灰白色粘土	明赤褐色	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	30%
458	土師器	壺	[15.4]	(6.0)	-	灰白色粘土	にがい黄褐色	普通	口縁部両面横ナデ。	西部下層	5%

第57号住居跡 (第83・84図)

位置 調査区の中央部東寄りのF3d8区で、西から東へ下がる斜面部に立地している。

重複関係 北西コーナー部を第6号溝、東コーナー部を第54号住居跡、南コーナー部を第56号住居跡、中央部を第59・127号土坑、中央部から南西壁寄り部分を第126号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.10m、短軸7.00mの方形で、主軸はN-28°-Wであり、壁高は2~34cmでほぼ直立する。床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められ、壁溝は深さ5~10cmで、南東壁から北西壁にかけての壁下で検出されているが、本来、全周していたものと考えられる。北西壁の東側に貯蔵穴があり、深さ32cmで、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

竈 北西壁の中央部を壁外に28cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅96cm、焚口部から煙道部までの長さ142cmである。火床部は床面から7cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。袖部の内壁も火床部同様に火熱を受けて赤変硬化している。また、火床部中央部から土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、粘土粒子少量、炭化物微量
- 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 6 赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 8 赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・黒色粒子微量
- 10 明赤褐色 焼土ブロック多量

ピット 10か所。主柱穴はP1~4で、深さは48~64cmであり、各コーナー寄りに位置している。出入り口施設に伴うピットは竈から中央部南東壁寄りに位置していると考えられるが、確認できなかった。P6・7は深さ26・32cmで、主柱穴を結ぶ線上に位置した補助柱穴と考えられる。P10は竈脇に位置していることから、竈に関連した施設に伴うピットの可能性がある。P5・8・9は性格不明。P1・4の第1層は柱痕の土層で、第2層は硬く締まった暗褐色土の埋土である。

P1土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

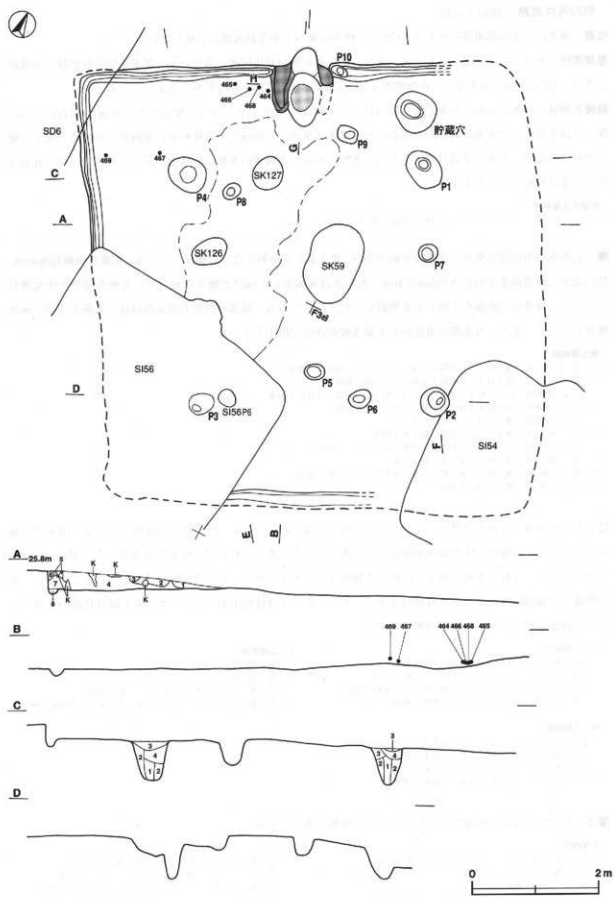
P4土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

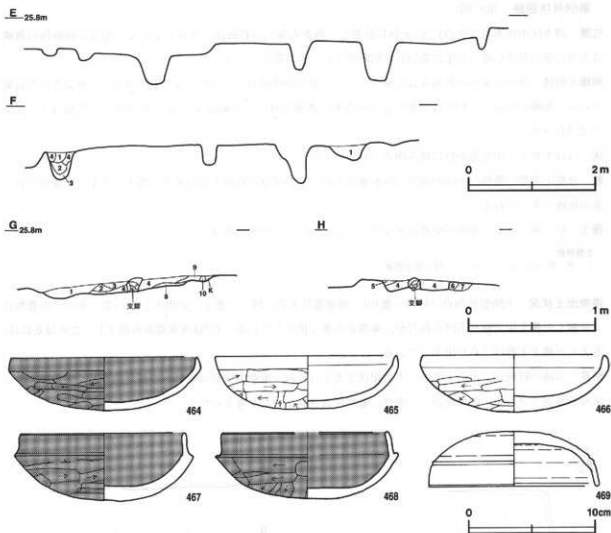
覆土 8層からなる。西部から流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |



第83图 第57号住居跡实测图



第84図 第57号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片209点(坏122・甕87), 須恵器片2点(坏・蓋), 土製品7点(支脚1・不明6)が出土している。これらの遺物は竈付近と東・西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片11点, 弥生土器片1点, 割片7点が出土している。出土状況から464から466・468は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表(第84図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
464	土師器	坏	14.8	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面, 体部内面上半部横ナデ。	北西部下層	98% 内面円形異種, PL84
465	土師器	坏	14.4	4.3	-	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	90% PL84
466	土師器	坏	14.4	4.4	-	赤石・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	北西部下層	90% PL84
467	土師器	坏	13.0	5.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	85% PL84
468	土師器	坏	[13.0]	5.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	北西部下層	80% PL84
469	須恵器	蓋	13.5	4.3	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ切り足, ヘラ割り。	北西部下層	95% PL84

第58号住居跡 (第85図)

位置 調査区中央部東寄りのF3f8区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第59号住居跡、北東に第54号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 西から東への斜面部に立地するため、東部の壁面の立ち上がりは不明であるが、確認された長軸2.87m、短軸2.38mで、形状は南北に長い長方形と推測される。主軸はN-90°-Eであり、壁高は4~8cmではほぼ直立する。

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 東壁中央部に壁外へ36cmの掘り込みが確認され、その部分の底面からわずかに焼土の広がりも確認され、竈の痕跡と考えられる。

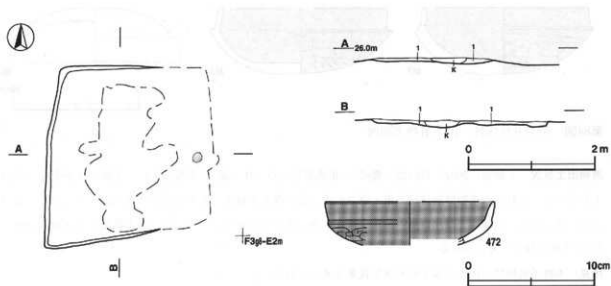
覆土 単一層である。中央部が攪乱を受けていることから、不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片28点(坏18・甕10)、須恵器片6点(坏5・甕1)が出土している。すべての遺物は4分割した覆土中で取り上げられたが、東部から多く出土している。472は南東部から出土し、このほかには、混入した縄文土器片3点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀代と考えられる。東壁中央部の壁外への掘り込みと、焚口部及び火床部を推測させる焼土の状況から、東壁に竈が付設されていたと考えられる。



第85図 第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表 (第85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	土色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
472	土師器	坏	[13.4]	(3.4)	-	灰石・石英・雲母	黒褐色	普通	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	覆土中	10%

第59号住居跡（第86～88図）

位置 調査区中央部東寄りのF3d6区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第58号住居跡、東に第57号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南東部が第6号溝、中央部が第1号土坑、南西壁が第2・3号土坑に掘り込まれている。

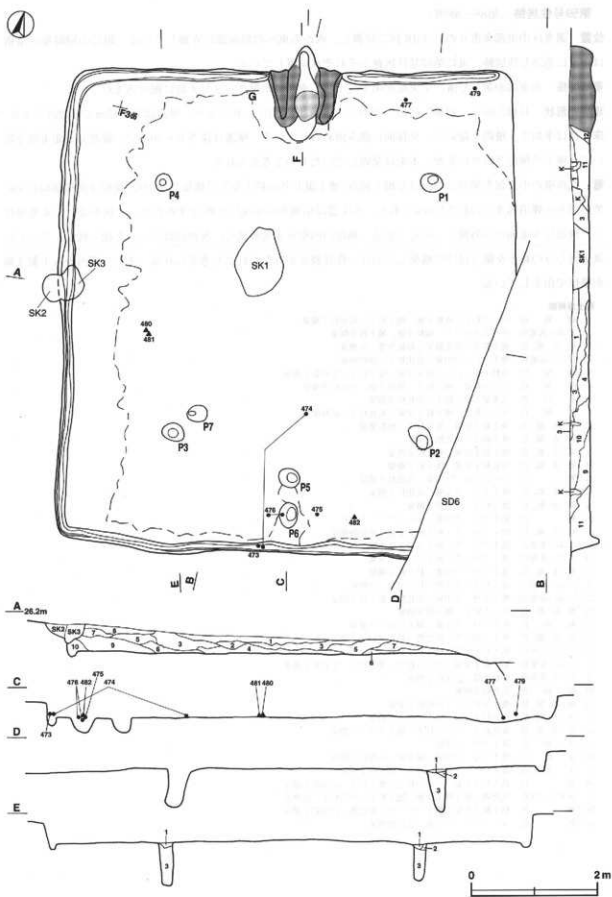
規模と形状 長軸7.60m、短軸7.12mの方形で、主軸はN-10°-Wであり、壁高は36～47cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて、全体的に踏み固められている。壁溝は深さ6～10cmで、竈部分と北東壁を除いて、壁下で検出されているが、本来は全周していたものと考えられる。

竈 北西壁の中央部を壁外に38cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅115cm、焚口部から煙道部までの長さ150cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部の内壁も赤変硬化し、西袖部はロームを掘り残し、その上に焼土混じりの粘土を貼り付けて構築しており、作り替えが行なわれたと考えられる。また、竈内から土製支脚が横位で出土している。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・砂粒少量、焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量、灰燼量
- 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂粒微量
- 5 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 7 灰白色 灰多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・砂粒微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 12 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 13 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量
- 17 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
- 18 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
- 19 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 20 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
- 21 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
- 22 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・粘土粒子微量
- 23 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 24 暗褐色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 25 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
- 26 にぶい黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量
- 27 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 28 にぶい黄褐色 砂粒少量、炭化粒子微量
- 29 暗褐色 炭化粒子微量
- 30 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 31 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 32 暗赤褐色 炭化粒子・ローム粒子・焼土ブロック微量
- 33 赤褐色 焼土ブロック多量
- 34 赤褐色 焼土ブロック中量、燻少量、炭化粒子微量
- 35 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 36 褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 37 灰ナリ褐色 炭化物・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・灰燼量
- 38 褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
- 39 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

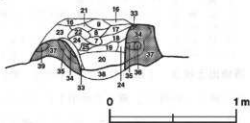


第86图 第59号住居跡実測图(1)

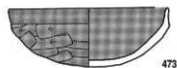
F 26.0m



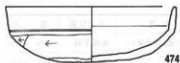
G



第87図 第59号住居跡実測図(2)



473



474



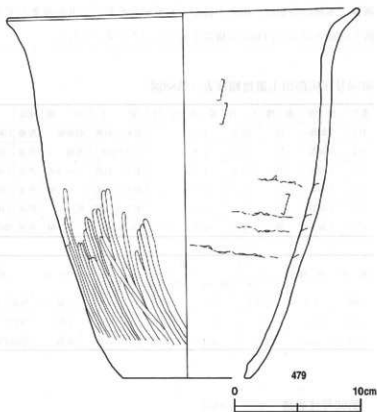
475



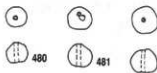
476



477



479



480

481

482

0 5cm

第88図 第59号住居跡・出土遺物実測図

ピット 7か所。主柱穴はP1～4で、深さ57～71cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ29cmで、中央部から南東壁寄りに位置し、南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。第51・52・53号住居跡も同様に2箇所のピットから構成された出入り口施設と考えられる。P7は性格不明である。

覆土 12層からなる。レンズ状を呈しているが、各層でロームブロックが多く含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・燻灰量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・白色粒子微量

6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
8	褐色	ロームブロック中量
9	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
10	暗褐色	ロームブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片475点（坏222・甕240・甔10・碗3）、須恵器片2点（坏）、土製品6点（支脚1・球状土錘2・不明3）、礫4点が出土している。これらの遺物は中央部から南部にかけての覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片179点、弥生土器片8点、石器8点（敲石1・剥片7）が出土している。出土状況から473・476・477・479は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。P5・6は第51・52・53号住居跡と同様の出入り口施設の構造を有していたと考えられる。

第59号住居跡出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
473	土師器	坏	12.6	4.7	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面、体部内面上半露景ナデ。	南部下層	98% PL84
474	土師器	坏	13.7	4.4	-	長石・石英	明褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	60% PL85
475	土師器	坏	[13.4]	4.7	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	50% PL85
476	土師器	坏	[13.2]	(4.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	20%
477	土師器	坏	[13.0]	(4.2)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北東部下層	10%
479	土師器	甔	27.8	28.6	10.1	長石・石英	にぶい黄	普通	体部内面輪轆痕を残すヘラナデ。	北東部下層	80% PL84

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
480	土玉	1.1	1.1	0.2	1.6	土製	外面黒色処理カ。	西部床面	
481	土玉	1.3	1.2	0.2	2.0	土製	外面ナデ。	西部床面	
482	土玉	1.4	1.3	0.2	2.7	土製	外面ナデ。	南東部下層	

第60号住居跡（第89・90図）

位置 調査区中央部のF3c3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第59号住居跡、西に第111号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南部が第61号住居跡を掘り込んでいます。

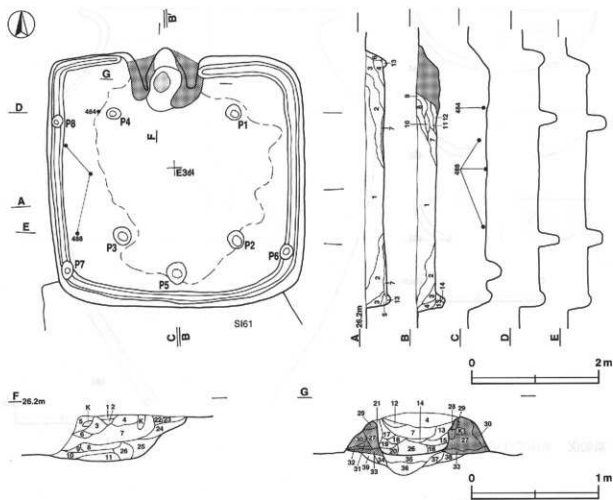
規模と形状 長軸4.00m、短軸3.95mの方形で、主軸はN-2°-Wであり、壁高は34~36cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6~8cmで、竈部分を除いた壁下で検出されているが、全周していたものと考えられる。

竈 北壁の中央部を壁外へ12cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅125cm、焚口部から煙道部までの長さ102cmである。火床部は床面から6cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道は火床面から外傾して立ち上がっている。東袖部はロームを掘り残し、その上に焼土混じりの粘土を貼り付けており、内壁も火熱を受けて赤変硬化している。竈内から土製支脚が横位で出土している。

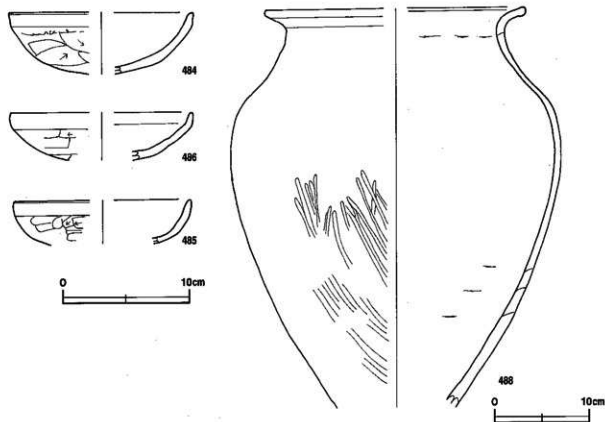
竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 砂粒中量、粘土粒子少量



第89図 第60号住居跡実測図

- | | | |
|----|--------|--------------------------------|
| 4 | にぶい黄褐色 | 砂粒中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | 炭化粒子・砂粒微量 |
| 6 | 暗褐色 | 砂粒ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 7 | 灰白色 | 灰多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒微量 |
| 10 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 12 | 暗赤褐色 | 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 13 | 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 14 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 15 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 16 | 褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 17 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化物・粘土ブロック微量 |
| 18 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 19 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 20 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 粘土粒子微量 |
| 21 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 22 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量 |
| 23 | 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 24 | 暗褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 25 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 26 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 27 | にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 28 | にぶい黄褐色 | 砂粒少量, 炭化粒子微量 |



第90図 第60号住居跡出土遺物実測図

- 29 暗 褐 色 炭化粒子微量
- 30 暗 赤 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 31 暗 赤 褐 色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 32 暗 赤 褐 色 炭化粒子・ローム粒子・焼土ブロック微量
- 33 赤 褐 色 焼土ブロック多量
- 34 赤 褐 色 焼土粒子中量、焼土ブロック・塵少量、炭化粒子微量
- 35 赤 褐 色 焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 36 褐 色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 37 灰汁リーブ色 炭化物・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・灰微量
- 38 褐 色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
- 39 褐 色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化物微量

ピット 8か所。主柱穴はP1～4で、深さ57～71cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ52cmであり、両壁の中央部寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～8は深さ12～29cmであり、壁溝の底面から確認されているので壁柱穴と考えられる。

覆土 14層からなる。レンズ状の堆積を示しているが、各層でロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子中量、ロームブロック微量
- 7 褐 色 ローム粒子多量、ロームブロック中量
- 8 黒 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・塵微量
- 9 暗 褐 色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 10 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量

- 11 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量
 12 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
 13 暗赤褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック微量
 14 褐色 ローム粒子多量、ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片285点(環188・蓋1・高坏1・甕95), 須恵器片9点(環3・蓋5・甕1), 礫11点が出土している。これらの遺物は南部と竈前面の覆土下層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片75点、弥生土器片4点が出土している。出土状況から484は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第60号住居跡出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
484	土師器	環	[14.4]	(4.8)	-	灰石・石英	にぶい褐	普通	体部外面輪板痕を残すヘラ削り。	北西部下層	40%
485	土師器	環	[18.8]	(3.4)	-	石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	10%
486	土師器	環	[14.0]	(3.8)	-	灰石・石英	赤橙	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	10%
488	土師器	甕	[27.4]	(41.9)	-	灰石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面下半部ヘラ削り。	西部下層	20%

第61号住居跡(第91~93図)

位置 調査区中央部のF3d3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に隣接する第61号住居跡、南東に第64号住居跡、南西に第193号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北コーナー部が第60号住居跡、東部が第1号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

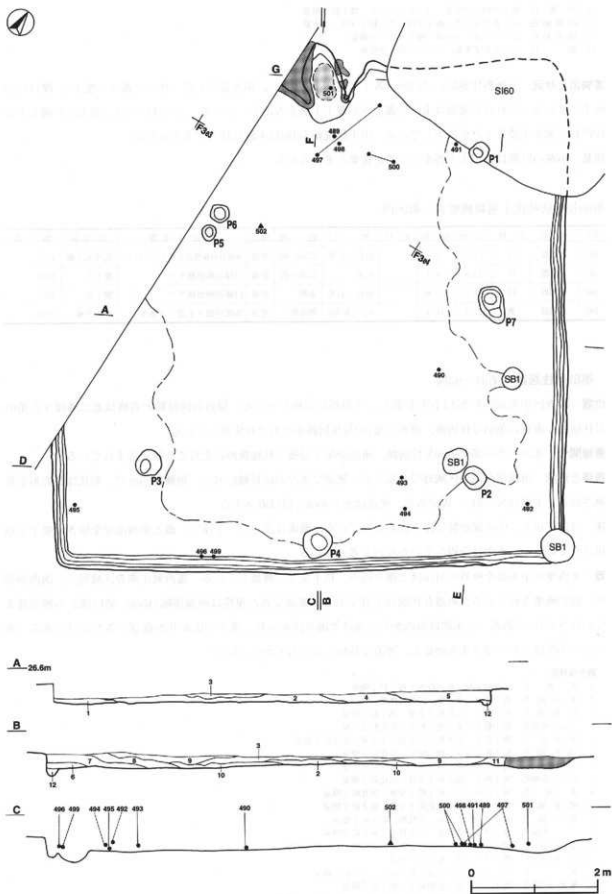
規模と形状 南西部が調査区域外であるため、確認できたのは長軸8.01m、短軸7.95mで、形状は長方形と推測される。主軸はN-31°-Wであり、壁高は26~30cmでほぼ直立する。

床 ほは平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ3~7cmで、竈と重複部分を除き、壁下で検出されているが、本来は全周していたものと考えられる。

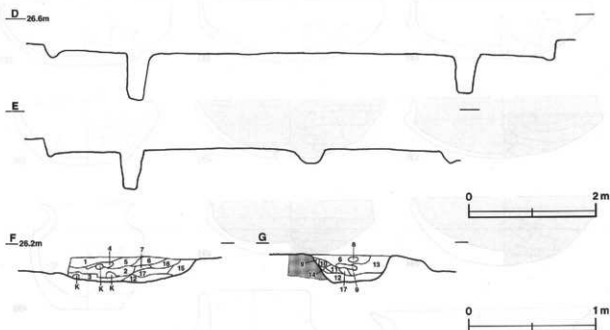
竈 北西壁の中央部を壁外へ31cmほど掘り込み、粘土などで構築している。竈西側が調査区域外で、南西袖部の一部が破壊されているため遺存状況は不良である。確認できた規模は両袖部幅145cm、焚口部から煙道部までの長さ131cmである。火床部は床面から7cmほど掘り窪められ、焼土の広がりが確認できただけである。南西部の内壁は火熱を受け赤変硬化し、煙道は外傾して立ち上がっている。

焼土層解説

- 暗褐色 炭化物少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
- にぶい黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・黒色粒子少量、炭化粒子微量
- 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
- にぶい赤褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、炭化物・粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量
- 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量



第91图 第61号住居跡実測図(1)



第92図 第61号住居跡実測図(2)

ピット 7か所。主柱穴はP1～3で、深さは24～61cmであり、各コーナー寄りに位置している。P4は深さ21cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5・6は西部の主柱穴と考えられたが、他の主柱穴と異なる様相を示しているため、P7同様に性格は不明である。

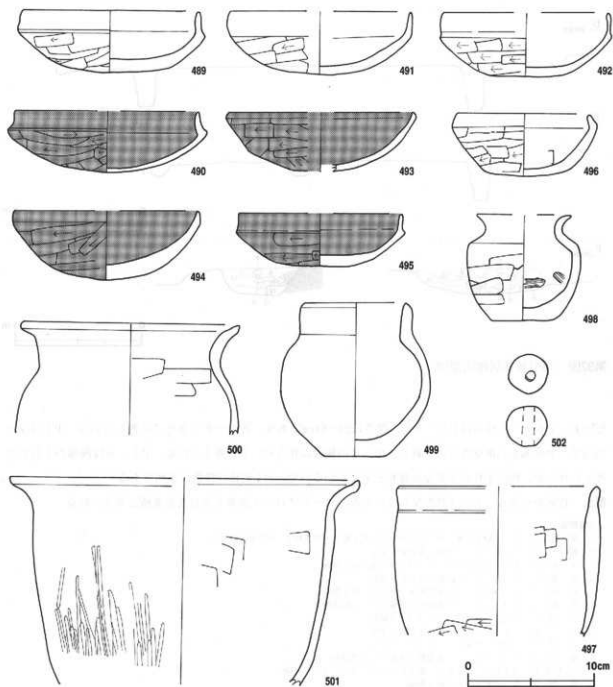
覆土 12層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックが多く含む人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|----|------|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 8 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 9 | 暗褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 10 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、炭化物微量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 12 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片581点(坏283・甕298)、鉄製品1点(鎌)、土製品4点(土錘1・不明3)、礫11点が出土している。これらの遺物は竈周辺と中央部の南寄りの覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片190点、弥生土器片5点、石器2点(鎌・磨石)が出土している。出土状況から497・500は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第93図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表 (第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	画	構成	手法の特徴	出土位置	備考
489	土師器	坏	13.8	4.9	-	長石	灰黄緑	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	北西部下層	90% PL85	
490	土師器	坏	[14.6]	4.9	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部両面横ナデ。	東部床面	50%	
491	土師器	坏	[15.4]	5.1	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口縁部両面, 体部内面上部横ナデ。	北部床面	30%	
492	土師器	坏	[13.0]	5.1	-	長石	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部中層	60% PL86	
493	土師器	坏	[15.1]	4.7	-	長石	にぶい黄緑	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部下層	50%	
494	土師器	坏	[14.6]	5.4	-	長石	橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	南東部下層	40%	
495	土師器	坏	[13.0]	4.2	-	長石	にぶい黄緑	普通	口縁部両面横ナデ。	南部床面	60%	
496	土師器	坏	10.2	5.1	-	長石・雲母	灰黄緑	普通	口縁部両面, 体部内面上部横ナデ。	南部下層	70% PL86	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
497	土師器	鉢	[15.6]	(11.8)	-	筋灰・粘土	明赤褐	普通	口縁部前面横ナデ、底部内面ヘラナデ。	北西部下層	30%
499	土師器	小形壺	8.1	12.2	5.0	長石・石英	黄灰	普通	口縁部前面横ナデ、底部外面ヘラナデ。	南部下層	70% PL85
498	土師器	小形壺	[7.5]	8.4	5.0	長石・石英	にぶ赤黒	普通	口縁部外面丁寧な横ナデ。	北西部床面	70% PL85
500	土師器	壺	17.1	(8.8)	-	長石・石英	明褐色	普通	口縁部前面横ナデ、底部内面ヘラナデ。	北部下層	20%
501	土師器	鉢	[27.7]	(16.6)	-	筋灰・粘土	にぶ黄橙	普通	口縁部前面横ナデ、底部内面ヘラナデ。	壺下層	40% PL85

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
502	球状土鉢	3.2	3.2	1.0	27.4	土製	無文	中央部下層	100%

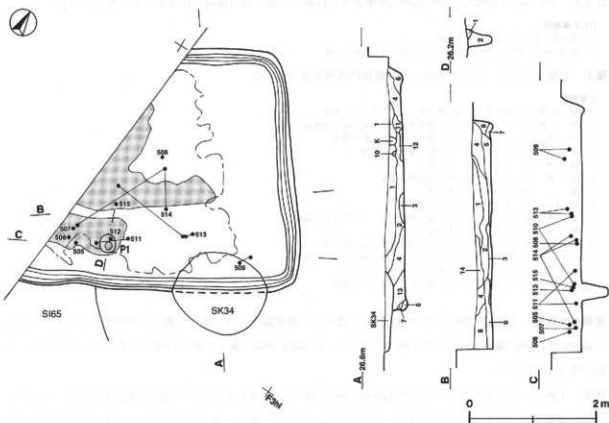
第62号住居跡 (第94・95図)

位置 調査区中央部のF 3 g 3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第59号住居跡、西に第111号住居跡が位置している。

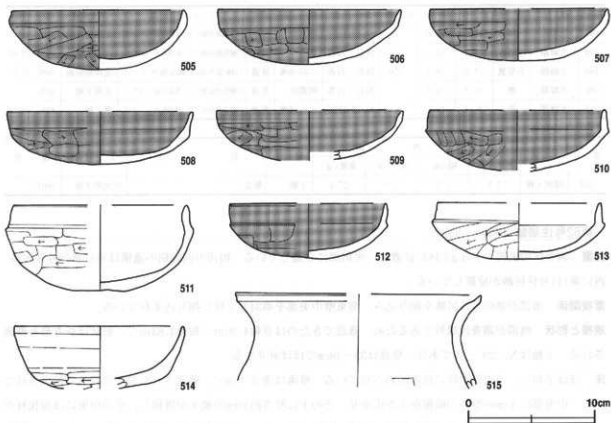
重複関係 南部が第65号住居跡を掘り込み、南東壁中央部を第34号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外であるため、確認できたのは長軸4.30m、短軸3.83mで、形状は長方形と推測される。主軸はN-29°-Wであり、壁高は33~48cmではほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4cmで、確認された部分の壁下で検出されている。中央部に1cmの厚さの暗褐色土が広がり、その上に厚さ約10cmの焼土が堆積し、その中央には炭化材が多数出土しているが、床面はさほど焼けた痕跡が確認されていないが、しかし、焼土や炭化材の状況から焼失家屋と考えられる。



第94図 第62号住居跡実測図



第95図 第62号住居跡出土遺物実測図

ピット P1 は深さ42cmで、中央部から南東寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 14層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量
- 11 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 に近い赤褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 13 暗褐色 ロームブロック微量
- 14 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片382点(坏209・碗1・甕172)、須恵器片3点(坏2・甕1)が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。515は中央部の覆土下層から焼土ともに出土している。本跡に伴う土器はない。

所見 本跡は、中央部に焼土や炭化材が多量に確認されたが、焼土下に厚さ1cmの暗褐色土があることから、住居が廃棄されて間もない時期に焼失したものと考えられる。また、焼土中から出土した土器は7世紀中葉であり、時期は7世紀中葉以前と考えられる。

第62号住居跡出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
506	土師器	坏	13.6	4.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南東部中層	100% PL85
506	土師器	坏	13.4	4.3	-	長石・石英	にぶい橘	普通	口縁部両面、体部内面上部横ナデ。	中央部下層	75%
507	土師器	坏	[14.0]	4.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部下層	55%
508	土師器	坏	[14.4]	4.7	-	長石	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部中層	60%
509	土師器	坏	[14.7]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部中層	40% PL85
510	土師器	坏	[13.8]	(4.7)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面上部横ナデ。	南部中層	45% PL85
511	土師器	輪	[13.6]	6.7	4.0	長石	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ磨り。	南部下層	45% PL85
512	土師器	坏	[12.2]	4.3	-	長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後、ナデ。	南部中層	30%
513	土師器	坏	[13.0]	4.4	-	長石	にぶい黄橙	普通	底部外面ヘラ削り。	南東部中層	60%
514	須恵器	坏	13.0	5.0	-	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り。	中央部中層	70% PL85
515	土師器	甕	[20.0]	(7.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	5%

第64号住居跡 (第96~98図)

位置 調査区中央部のF3f5区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第69号住居跡、南東に第74号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北壁が第63号住居跡に掘り込まれている。

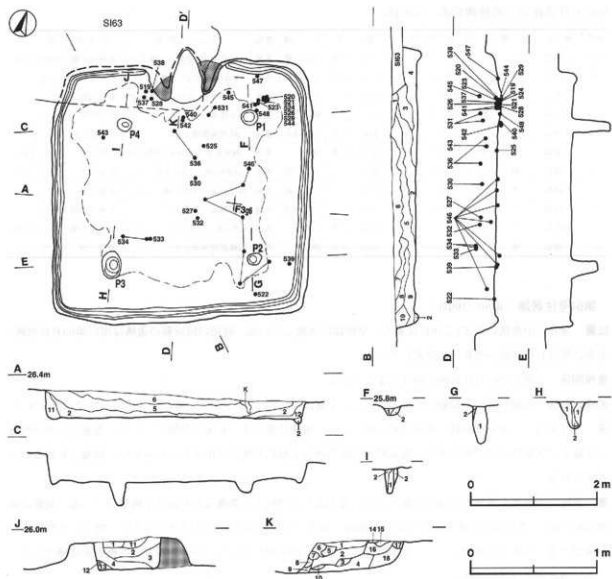
規模と形状 長軸4.06m、短軸4.05mの方形で、主軸はN-6°-Wであり、壁高は30~48cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~6cmで全周している。南東コーナー付近の床面から灰褐色の粘土塊の中から鬼高期の土師器坏の完形品が逆位で出土しているので、投棄されたものと考えられる。

竈 北壁の中央部を壁外へ57cmほど掘り込み、焼土混じりの粘土と微塵などを混ぜて構築している。規模は両袖部幅140cm、焚口部から煙道部までの長さ88cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、焼土の広がりがだけが確認でき、火床部の状況については不明である。煙道は外傾して立ち上がり、袖部は内壁が赤変硬化しているが、遺存状態は良好でない。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 5 にぶい赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 8 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 10 黒褐色 炭化材多量、焼土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 12 にぶい黄褐色 粘土粒子中量
- 13 褐色 ロームブロック中量
- 14 暗赤褐色 焼土ブロック多量
- 15 暗赤褐色 焼土ブロック微量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 16 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
- 17 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 18 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量



第96図 第64号住居跡実測図

ピット 4か所。主柱穴はP1～4で、深さは18～64cmであり、各コーナー寄りに位置している。各ピットの第1層は柱痕、第2層はしまりが強いことから、埋土と考えられる。

P1 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・焼土粒子微量

P2 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

P3 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

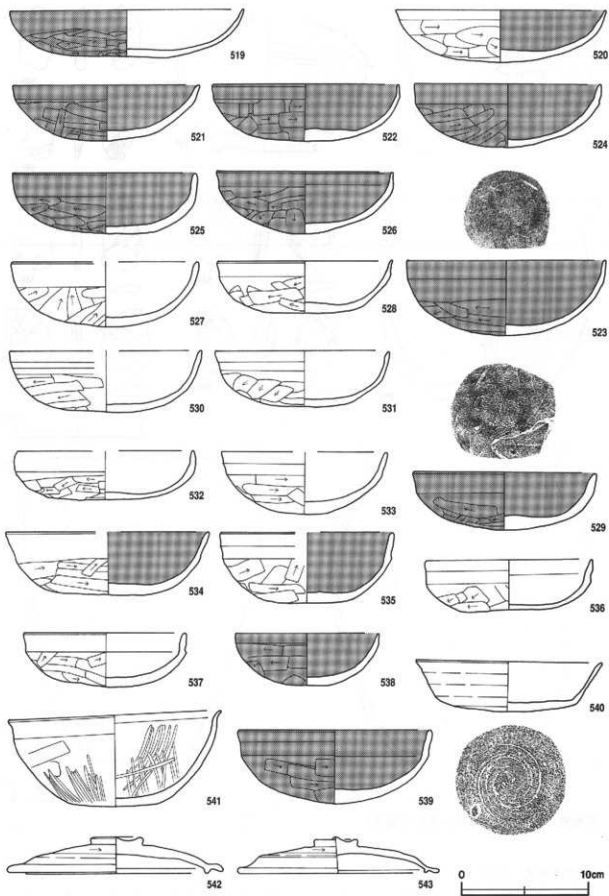
P4 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

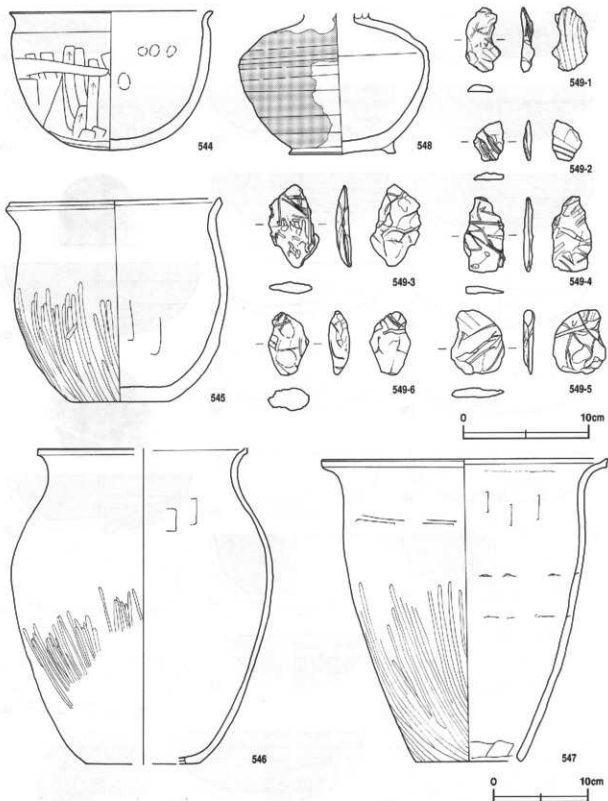
覆土 12層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量 | 9 褐色 ローム粒子少量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 ローム粒子微量 |



第97图 第64号住居跡出土遺物実測図(1)



第98図 第64号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片617点(坏445・碗4・鉢1・甕167), 須恵器片15点(坏2・蓋11・長頸壺1・甕1), 土製品43点(支脚5・不明38)が出土している。これらの遺物は竈前面と北東コーナー部から中央部の覆土下層から多く出土している。523・529は明赤褐色の大型の坏で、内面に布目痕を有するものである。南東コーナー

付近の床面から投棄されたと考えられる灰褐色の粘土塊の中から鬼高期の土師器坏の完形品が逆位で出土している。このほかには、混入した縄文土器片32点、剥片1点が出土している。確認面及び第1層から土師器片が多く出土している。出土状況から519・537・538・553は本跡に伴うと考えられる土器である。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。覆土上層から土師器片が多数出ているが、竈周辺から北東コーナー部にかけての床面からは完形品が多く出土している。南東コーナー部に粘土塊が確認されているが、遺物が多く含まれているため、甕材の投棄と考えられ、また床面から粘土塊が確認されたことについては、住居廃絶時に甕を破壊した結果と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表(第97・98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
519	土師器	環	18.6	3.8	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ状工具痕。	北西部下層	90% PL85
520	土師器	環	16.6	4.2	-	長石・石英	橙	普通	体部外面輪痕を残すへら削り。	北東部下層	95% PL85
521	土師器	環	14.8	4.5	-	長石・石英	橙	普通	体部外面上に輪痕を残すへら削り。	北東部下層	95% PL85
522	土師器	環	14.8	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部下層	100% PL85
523	土師器	環	15.8	6.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北東部下層	90% PL85
524	土師器	環	14.7	5.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北東部下層	98% PL88
525	土師器	環	14.6	4.8	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	中央部床面	90% PL86
526	土師器	環	14.0	4.9	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面上部横ナデ。	北東部下層	90% PL86
527	土師器	環	[14.8]	5.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	中央部中層	60%
528	土師器	環	13.8	4.1	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	90% PL86
529	土師器	環	14.4	4.6	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北東部下層	90% PL86
530	土師器	環	[15.2]	4.9	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	50% PL86
531	土師器	環	13.8	4.3	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部中層	95% PL86
532	土師器	環	[14.0]	4.0	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ、底部外面へら削り。	中央部中層	70% PL86
533	土師器	環	[13.2]	5.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ、底部外面へら削り。	南西部中層	60% PL86
534	土師器	環	[16.1]	5.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南西部中層	50% PL86
535	土師器	環	[13.6]	5.5	-	長石	にぶい赤黄	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	覆土中	60% PL86
536	土師器	環	13.2	4.1	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ、底部外面へら削り。	中央部中層	60% PL86
537	土師器	環	12.8	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ、底部中央工具痕。	北西部下層	100% PL86
538	土師器	環	11.3	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	70% PL86
539	土師器	環	15.2	5.8	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面上部横ナデ。	南東部床面	70% PL88
540	須恵器	環	14.8	4.0	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	底部回転へら削り。	北部下層	95% 外福炭化 影響を、PL86
541	土師器	碗	16.9	7.6	7.2	長石・石英	橙	普通	底部へら削り後、へら磨き。	北東部下層	98% PL86
542	須恵器	蓋	17.1	2.9	-	長石・雲母	褐灰	普通	天井部回転へら削り。	北部床面	80% 二層PL86
543	須恵器	蓋	15.8	2.8	-	長石・雲母	淡黄	普通	天井部回転へら削り。	北西部中層	90% PL86
544	土師器	鉢	16.1	11.1	-	長石	にぶい橙	普通	底部外面へら削り。体部内面横ナデ。体部内面に指痕。	北東部下層	98% PL87
545	土師器	小形甕	16.4	16.1	7.6	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ、体部内面へら削り。	北部上層	100% PL87
546	土師器	甕	[22.0]	[33.2]	[12.0]	長石・雲母	明赤黄	普通	体部内面へら削り。	西部下層	30%
547	土師器	甕	30.2	31.9	11.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へら削り。体部中に輪痕。穿孔式。	北東部下層	90% PL87
548	須恵器	長頸甕	-	(11.1)	8.4	長石	灰褐色	良好	底部裏台粘付け後ナデ。自然焼。	北東部床面	80% PL87

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
549①	不明土製品	5.0	2.8	1.1	6.5	土製	木屐痕上に溝状工具痕。裏面にへら削り痕。	覆土中	PL115
549②	不明土製品	3.2	2.4	0.7	3.0	土製	木屐痕上に溝状工具痕。裏面にへら削り痕。	覆土中	PL115
549③	不明土製品	6.5	4.0	1.2	15.8	土製	縦線状痕。	覆土中	PL115

番 号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
549㉔	不明土製品	6.0	3.2	0.8	8.4	土製	織物圧痕及び種子圧痕。	覆土中	PL115
549㉕	不明土製品	5.1	4.2	0.8	14.8	土製	織物圧痕。	覆土中	PL115
549㉖	不明土製品	5.0	3.2	1.6	17.0	土製	織物圧痕及び指痕。	覆土中	PL115

第65号住居跡 (第99図)

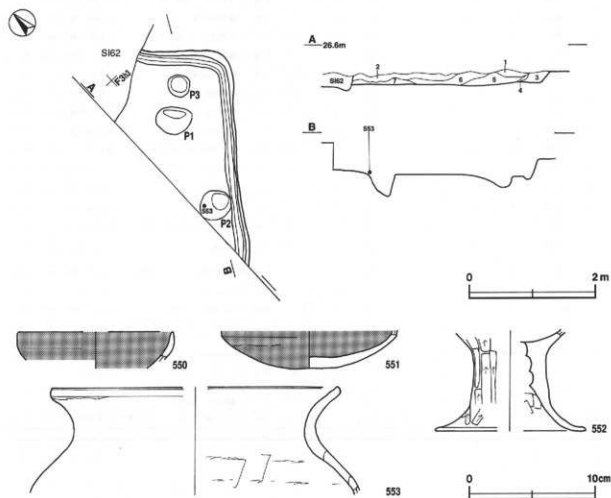
位置 調査区中央部のF3h3区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第69号住居跡が位置している。

重複関係 北部を第62号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外であるため、確認できたのは長軸3.22m、短軸1.61mである。形状は長方形と推測され、長軸はN-40°-Eであり、壁高は30cmでほぼ直立する。

床 は平坦で、全体的に踏み固められている。壁溝は深さ5cmで、確認された部分の壁下で検出されている。

ピット 3か所。主柱穴はP1で、深さは28cmであり、東コーナー部寄りに位置している。P2は深さ33cmで、南東壁際の中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3の性格は不明である。



第99図 第65号住居跡・出土遺物実測図

覆土 7層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 黒褐色 炭化物微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片30点(坏13・甕17)、土製品1点(不明)、礫2点が出土している。これらの遺物は東コーナー部の覆土下層から多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片14点、弥生土器片1点が出土している。出土状況から553は本跡に伴うと考えられる。

所見 一部のみの調査で、明確な様相は不明であるが、時期は出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

第65号住居跡出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
550	土師器	坏	[12.2]	(2.9)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部内面ヘラナデ、横ナデ	覆土中	10%
551	土師器	坏	-	(3.0)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	体部内面ナデ、外面ヘラナデ、横ナデ	覆土中	10%
552	土師器	高坏	-	(8.0)	[11.8]	長石・石英	灰褐色	普通	裾部両面横ナデ	覆土中	30%
553	土師器	甕	[22.5]	(8.2)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部両面横ナデ、体部内面ヘラナデ	南部中層	10%

第69号住居跡(第100・101図)

位置 調査区中央部のF3h5区に位置し、西から東への微斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第64号住居跡、北東に第74号住居跡、南に第84号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南西部が第67号住居跡、北東部が第68号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

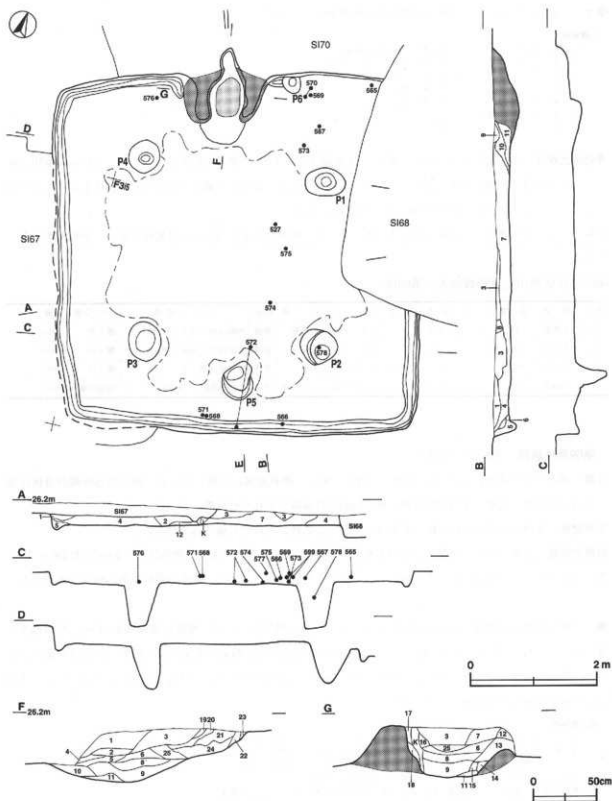
規模と形状 長軸5.68m、短軸5.54mの方形で、主軸はN-15°-Wであり、壁高は14~40cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8cmで、竈東の北壁以外の壁下で検出されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ48cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅133cm、焚口部から煙道部までの長さ152cmである。竈には作り替えの痕跡が顕著で、旧竈の火床部は床面から12cmほど掘り窪められ、その上に第8~11層を埋めて、床面と同じ高さに火床部を作り直して使用していたと考えられる。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

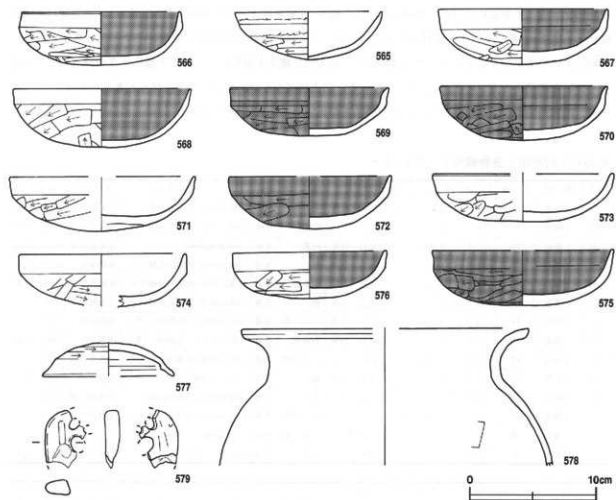
土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・白色粒子少量
- 3 灰褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック・白色粒子少量
- 4 暗赤褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・白色粒子少量
- 5 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・白色粒子少量、ロームブロック微量
- 6 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、ロームブロック・白色粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土ブロック少量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・白色粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子・ロームブロック・粘土ブロック少量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 13 暗褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 14 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 15 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、白色粒子微量



第100図 第69号住居跡実測図

- 16 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 17 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 18 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 20 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量



第101図 第69号住居跡出土遺物実測図

- 21 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 22 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 23 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 24 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
- 25 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土微量

ピット 6か所。主柱穴はP1～4で、深さは70～78cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ51cmで、中央部から南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ13cmで、竈東脇に位置し、壁溝の底面で確認されていることから、壁柱穴の一つと考えられる。

覆土 12層からなる。ブロック状の人為堆積状況を示しており、第7層は貼り床の埋土である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 赤褐色 焼土ブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック中量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 11 褐色 ロームブロック少量
- 12 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1274点(坏865・甕370・甌39)、須恵器片29点(坏10・甕13・蓋6)、土製品15点(支脚10・不明5)、鉄滓1点、炭化材が出土している。これらの遺物は中央部と南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片47点、弥生土器片4点や攪乱によって混入した灰軸陶器片1点(不明)が出土している。出土状況から573・576は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられ、火床部を作り直して使用していた状況が把握された。

第69号住居跡出土遺物観察表(第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
565	土師器	坏	11.8	4.8	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	北東部下層	100% PL86
566	土師器	坏	12.6	4.2	-	長石	赤褐	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	北東部下層	100% PL86
567	土師器	坏	13.4	4.4	-	長石・石英	灰黄	普通	口縁部外面横ナデ。	北東部中層	95% PL88
568	土師器	坏	14.2	4.7	-	長石・石英	黄	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	南部中層	80% PL87
569	土師器	坏	12.6	3.8	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	北東部中層	85% PL87
570	土師器	坏	13.4	4.3	-	長石・石英	黄	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	北東部中層	70%
571	土師器	坏	[14.5]	4.4	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外面横ナデ、底部外面へう張り。	南部中層	50%
572	土師器	坏	[12.8]	4.2	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ、底部外面へう張り。	南部下層	60% PL87
573	土師器	坏	[14.2]	3.8	-	長石	にぶい黄	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	北東部下層	80%
574	土師器	坏	13.2	(4.2)	-	長石・石英	黄灰	普通	口縁部外面横ナデ。	南部下層	70% PL87
575	土師器	坏	[14.2]	4.2	-	長石・石英	灰黄	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	中央部下層	50%
576	土師器	坏	12.2	3.7	-	長石	にぶい黄	普通	口縁部外面、体部内面横ナデ。	北西部下層	60%
578	土師器	甕	[22.6]	(10.8)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外面横ナデ、体部内面横ナデ。	P 2 上層	5%
577	須恵器	甕	[10.4]	(2.7)	-	長石	灰黄	普通	天井部へう張り。	中央部中層	50% PL87

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
579	不明土製品	(4.5)	(3.2)	1.1	(12.7)	土製	焼成前穿孔3か所。	覆土中	PL115

第70号住居跡(第102図)

位置 調査区北西部西寄りのF3h5区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第75号住居跡、東に第65号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南西部が第69号住居跡、南東部が第68号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 南部が第68・69号住居跡に掘り込まれているため、北部だけが残存しており、長軸5.93m、短軸は2.58mだけが計測でき、形状は不明である。主軸はN-67°-Eであり、壁高は24~26cmで外傾して立ち上る。

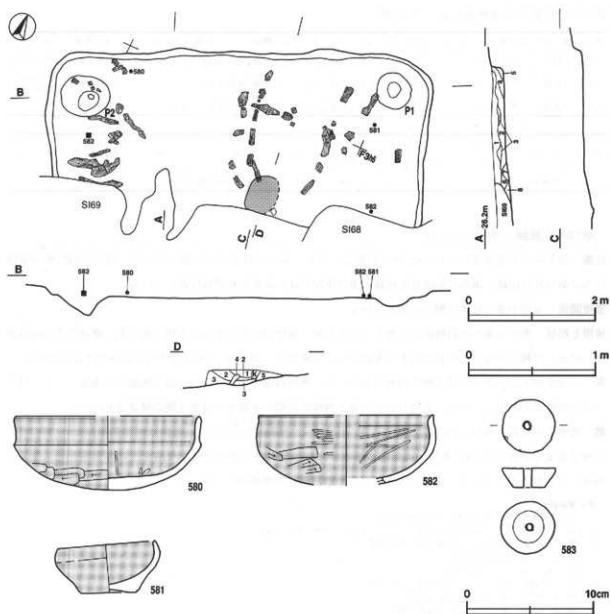
床 ほほ平坦で、さほど踏み固められていない。炭化材や焼土が中央部から北東コーナーにかけてと北西コーナー付近の床面から多量に出土しているため、焼失家屋と考えられる。

ピット 2か所。P1・2は深さ18・34cmで、北・西各コーナー寄りに位置しており、性格は不明である。

炉 中央部からやや東壁寄りに付設されており、長径60cm、短径48cmの楕円形で、炉床は床面をわずかに掘り窪めた地床炉であり、炉床の一部が火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層観察

1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	4 黄 色	ロームブロック少量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量	5 黒褐色	ロームブロック微量
3 暗赤褐色	焼土ブロック微量		



第102図 第70号住居跡・出土実測図

覆土 8層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、黒色粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック・黒色粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、灰微量
- 7 赤褐色 焼土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・炭化物・灰微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片64点(坏43・碗2・甕19)、須恵器片8点(坏1・甕7)、石製品1点(紡錘車)、炭化材が出土している。これらの遺物は西部の覆土下層から多く出土している。出土状況から581は本跡に伴うと考えられる土器である。

所見 本跡の時期は、出土土器から5世紀後葉から6世紀前葉と考えられる。また、本跡は床面から多量の炭化材と焼土が確認され、覆土中にも灰が確認されていることから、焼失家屋と考えられる。

第70号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
580	土師器	坏	[14.7]	5.8	-	長石・雲母	赤	普通	底部内面暗文状のヘラ磨き。	西部下層	70% PL87
581	土師器	坏	8.0	4.0	4.2	長石・雲母	赤	普通	底部外面ナデ。	東部下層	96% 外周炭化物付着。PL87
582	土師器	輪	[13.8]	(5.5)		長石・石英	明赤褐	普通	底部外面へう削り。	東部下層	20%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
583	紡錘車	4.2	1.5	0.6	38.7	滑石	無文。表面研磨工具痕。	西部下層	PL117

第74号住居跡 (第103・104図)

位置 調査区中央部東寄りのF 3 g 9区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第64号住居跡、南西に第69号住居跡、南に第78号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部が第7号溝に掘り込まれている。

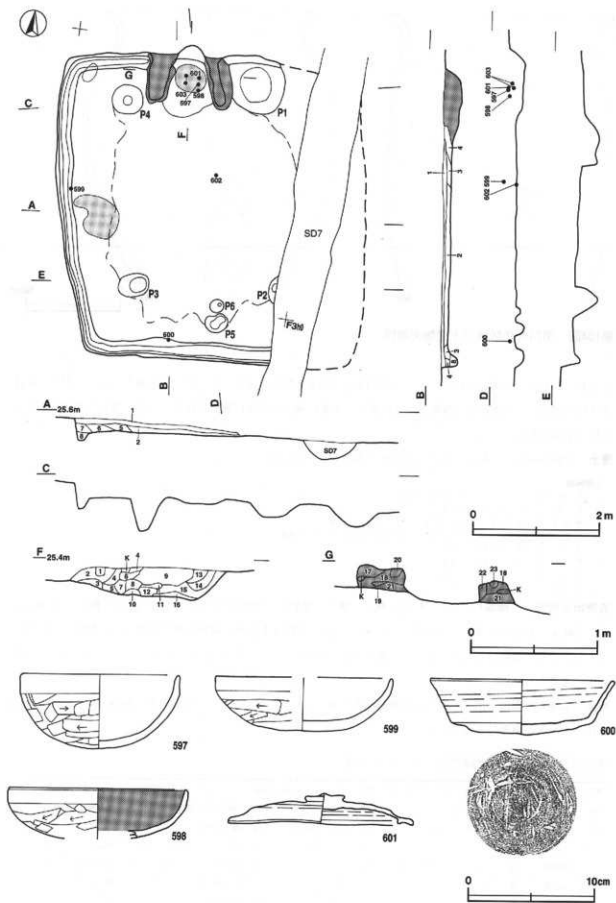
規模と形状 西から東への斜面部に立地しているため、東壁の立ち上がりは不明であるが、確認できたのは長軸4.86m、短軸4.80mで、形状は方形と推測され、主軸はN-14°-Wであり、壁高は40cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ10~14cmで、竈の西脇から南東コーナー部にかけての壁下で検出している。北西コーナー部と西壁中央際の床面からは焼土塊が確認されている。

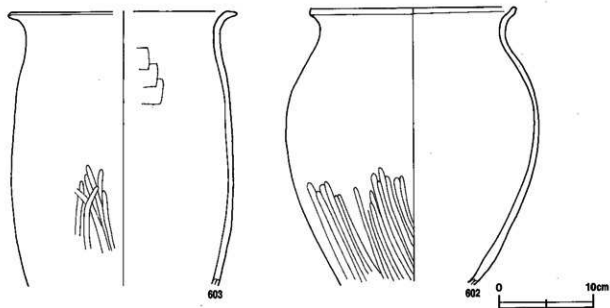
竈 北壁の中央部を壁外に15cmほど掘り込み、粘土などで構築されている。規模は両袖部幅138cm、笑口部から煙道部までの長さ114cmである。火床部は床面から10cmほど掘り窪められ、火熱を受け赤変硬化し、煙道は外傾して立ち上がっている。また、火床部から土師器破片が多数出土している。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量
- 10 褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 12 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 13 にぶい赤褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 15 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 褐色 ロームブロック少量
- 17 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
- 18 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 19 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量
- 20 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 21 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 22 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 23 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量



第103图 第74号住居跡・出土遺物実測図



第104図 第74号住居跡出土遺物実測図

ピット 6か所。主柱穴はP2～4で、深さは25～52cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ19・16cmで、中央部から南壁寄りに位置し、南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1の性格は不明である。

覆土 8層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片574点(坏323・碗1・鉢1・甕249)、須恵器片27点(坏24・甕2・甕1)、土製品11点(支脚1・不明10)、礫2点が出土している。これら遺物は南西部と竈脇の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片18点が出土している。出土状況から597・598・601が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。第51～53・60号住居跡と同様に、出入り口施設に伴うピットが南北に並んでいる。

第74号住居跡出土遺物観察表(第103・104図)

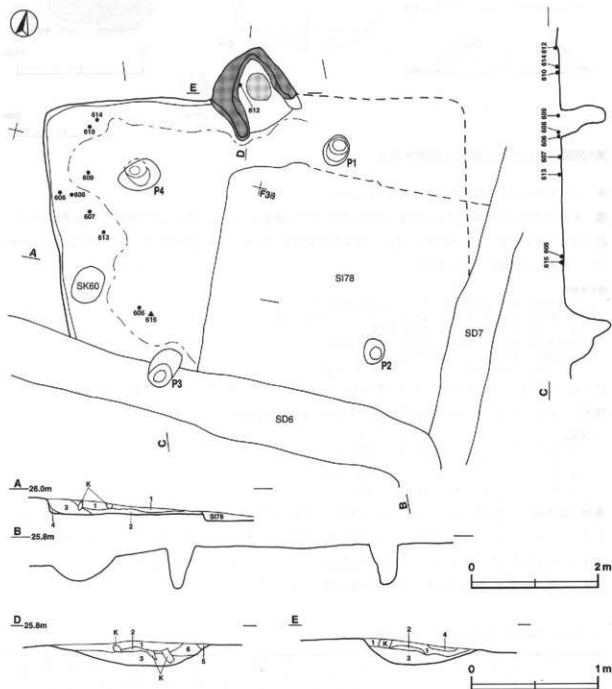
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
597	土師器	坏	12.5	5.8	-	長石・石英	にひい黄緑	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	竈上層	90% PL88
598	土師器	坏	14.2	3.9	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	竈上層	80%
599	土師器	坏	[14.0]	3.3	-	長石・石英	明赤褐	普通	底部外面木炭灰を残すヘラ削り。	西部上層	55% PL87
600	須恵器	坏	14.6	4.3	8.6	長石・雲母	灰黄	普通	底部両面ヘラ削り。捺状工具圧痕。	南部中層	70% PL88
601	須恵器	甕	14.6	2.4	-	長石・雲母	灰白	不良	天井部両面ヘラ削り。	竈上層	95%
602	土師器	甕	23.6	(30.2)	-	長石・雲母	にひい黄緑	普通	体部内面ヘラナデ。	中央部下層	70% PL88
603	土師器	瓶	[23.4]	(29.0)	-	長石・雲母	にひい褐	普通	体部内面ヘラナデ。	竈中層	30%

第75号住居跡 (第105・106図)

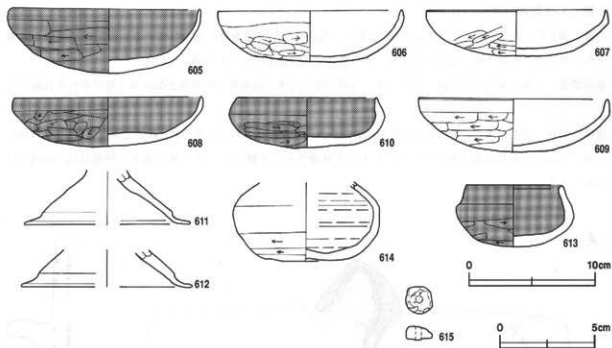
位置 調査区中央部東寄りのF3h8区に位置し、西から東への斜面地に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第70号住居跡、東に第77号住居跡、南に第76号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 東部が第78号住居跡と第7号溝、南部が第6号溝、西壁際の中央部が第60号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 南部が第6号溝、東部が第7号溝にそれぞれ掘り込まれているため、確認できたのは長軸6.73m、短軸4.12mで、形状は長方形を呈していたものと推測され、主軸はN-18°-Wであり、壁高は15~20cmでほぼ直立する。



第105図 第75号住居跡実測図



第106図 第75号住居跡出土遺物実測図

床 ほほ平坦で、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に74cmほど掘り込み、粘土などで構築している。確認できた規模は両袖部幅138cm、焚口部から煙道部までの長さ130cmである。火床部は床面から8cmほど掘り窪められて、火熱を受けて赤変硬化し、煙道部は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 暗赤褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

ピット 4か所。主柱穴はP1～4で、深さは64～73cmであり、各コーナー寄りに位置している。

覆土 4層からなる。西から東への流れ込んだ自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片92点(坏74・壺1・甕17)、須恵器片2点(坏・壺)、土製品1点(土玉)、礫1点が出土している。これらの遺物は北西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片12点が出土している。出土状況から612は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第75号住居跡出土遺物観察表 (第106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
605	土師器	坏	15.0	5.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面へ丸磨り。	南西部床面	90% 内面摩滅。PL88
606	土師器	坏	14.6	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部から底縁部ハケ目状の丸磨り。	西部床面	95% PL88

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
607	土師器	環	14.2	3.1	-	灰石・赤色粘土	にぶい橙	普通	体部から底部外周へハケ目状のヘラ削り。	西部床面	95% PL87
608	土師器	環	14.8	3.9	-	灰石・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面へラ削り。	西部床面	80%
609	土師器	環	15.0	4.2	-	灰石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面へラ削り。	北西部床面	70% PL88
610	土師器	環	11.0	3.9	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面へラ削り。	北西部床面	90% PL87
611	土師器	高環	-	(4.3)	[13.0]	灰石・赤色粘土	にぶい濁	普通	脚部内面上部部へラ削り。	覆土中	20%
612	土師器	高環	-	(2.9)	[13.6]	灰石・赤色粘土	灰濁	普通	脚部内外面横ナデ。	覆土中	20%
613	土師器	椀	7.6	4.9	-	長石・石英	にぶい赤濁	普通	口縁部両面横ナデ。	西部床面	100% PL88
614	須恵器	壺	-	(6.3)	6.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り。	北西部床面	60% PL88

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
615	土玉	1.4	1.4	0.4	1.2	土製	外面ナデ。	南部床面	

第76号住居跡 (第107・108図)

位置 調査区中央部東寄りのF3 j8区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第75号住居跡、東に第77号住居跡、北西に第70号住居跡がそれぞれ位置している。

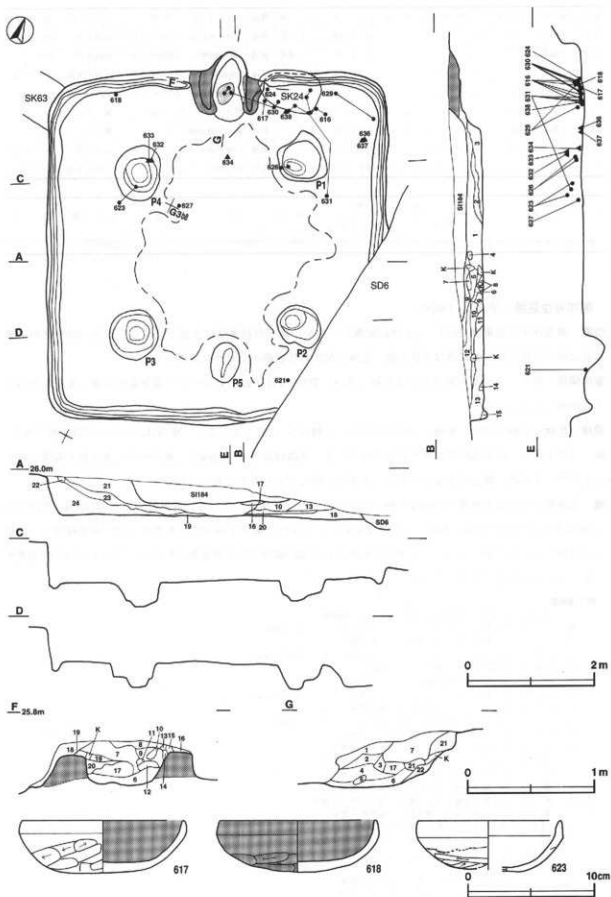
重複関係 西コーナー部が第63号土坑を掘り込み、第184号住居跡、東コーナー部を第6号溝、北壁を第24号土坑が掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.52m、短軸5.40mの方形で、主軸はN-26°-Wであり、壁高は26~70cmでほぼ直立する。床はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ9~12cmで、東コーナー部が第6号溝に掘り込まれているため、確認できなかったが、本来は全周していたものと考えられる。

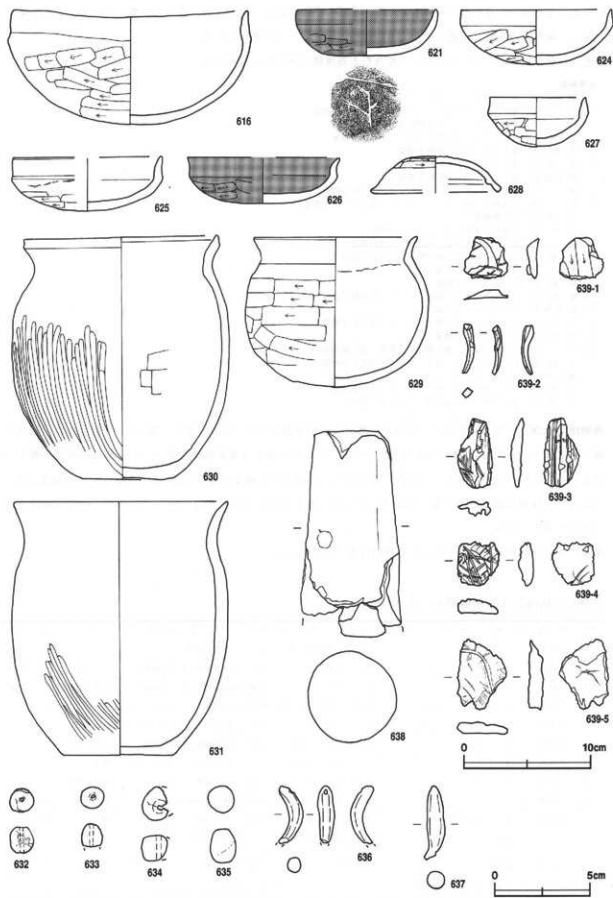
竪 北西壁の中央部を壁外へ33cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅108cm、焚口部から煙道部までの長さ110cmである。火床部は床面から2cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化し、煙道部は外傾して立ち上がっている。火床部中央部から上部が破損した土製支脚が出土し、その上には土師器甕が土圧でつぶれた状態で出土している。

甕土層解説

- 1 にぶい黄褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・微少量
- 2 褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・黒色粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 6 黒褐色 炭化物中量、灰少量、焼土ブロック微量
- 7 暗褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 11 灰褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
- 12 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 13 灰褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量
- 16 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 17 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 18 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 20 にぶい黄褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 21 褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 22 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量



第107图 第76号住居跡・出土遺物実測図(1)



第108图 第76号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 5か所。支柱柱はP1～4で、深さは33～42cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ34cmで、南壁際中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 24層からなる。ロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量・ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 5 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 7 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 9 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 10 暗褐色 炭化物微量
- 11 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 12 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化材・炭化物微量
- 13 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 褐色 ロームブロック少量
- 15 暗褐色 ロームブロック微量
- 16 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 17 極暗褐色 ロームブロック少量
- 18 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 19 黒褐色 ロームブロック微量
- 20 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・炭化材・炭化物微量
- 21 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 22 極暗褐色 ロームブロック少量
- 23 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 24 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片2500点(坏1852・甕648)、須恵器片71点(坏35・壺1・甕35)、土製品16点(管状土錘1・支脚4・不明11)、礫5点が出土している。これらの遺物は竈東脇から北コーナー部と中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片55点、弥生土器片1点や攪混によって混入した灰釉陶器片2点(甕)が出土している。出土状況から616・617・622・624・629～631・638は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀後半と考えられる。

第76号住居跡出土遺物観察表(第107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
616	土師器	坏	18.6	9.0	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	60% PL88
617	土師器	坏	12.8	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	100% PL88
618	土師器	坏	12.4	4.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北西部下層	80% PL88
621	土師器	坏	10.9	3.7	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	底部木葉痕を残し、肩縁部ヘラ削り。	南東部下層	60%
623	土師器	坏	11.3	4.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ、体部中に輪痕。	西部中層	75%
624	土師器	坏	11.8	4.3	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	60% PL88
625	土師器	坏	[11.8]	4.3	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ、底部外面ヘラ削り。	覆土中	45%
626	土師器	坏	[12.0]	3.7	-	長石・石英	赤	普通	口縁部両面横ナデ、底部外面ヘラ削り。	北部下層	35%
627	土師器	坏	7.5	3.8	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	西部下層	100% PL88
628	灰産器	壺	[10.2]	2.8	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り。	覆土中	40%
629	土師器	小形壺	12.8	12.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部中層	10% 内面ナデ、外縁部付着。PL89
630	土師器	小形壺	15.2	19.3	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ナデ。	北部中層	90% 外縁部付着。PL89
631	土師器	小形壺	[16.9]	20.0	[8.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	40%

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
632	土玉	1.3	1.4	0.2	1.8	土製	外面ナデ。	西部中層	
633	土玉	1.1	(1.2)	0.1	(1.56)	土製	外面ナデ。	西部中層	
634	土玉	(1.8)	(1.4)	0.2	(2.18)	土製	外面粗いナデ。	北部下層	
635	土玉	1.5	1.8	—	3.42	土製	外面ナデ。穿孔無し。	覆土中	PL115
638	支脚	16.4	7.8	7.2	870.0	土製	外面ナデ。中位に指痕あり。	北部下層	
636	不明土製品	(3.0)	(1.3)	0.8	(2.02)	土製	外面ナデ。	北部下層	PL115
639①	不明土製品	3.3	3.5	1.0	8.2	土製	両面ともヘラ削り痕。棒状の粘土塊付着。	覆土中	
639②	不明土製品	3.9	0.9	0.9	1.6	土製	棒状で断面は5角形を呈し、各面に削り痕。	覆土中	
639③	不明土製品	5.4	2.7	1.1	11.1	土製	棒状工具痕6条、指痕あり。	覆土中	
639④	不明土製品	3.5	3.3	1.2	12.7	土製	片面に細細圧痕多数。	覆土中	
639⑤	不明土製品	5.5	4.0	1.3	18.4	土製	削り痕及びナデ。	覆土中	

第77号住居跡 (第109～112図)

位置 調査区中央部東寄りのF4 il区に位置し、台地縁辺部で西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第75号住居跡、南西に第76号住居跡、北西に第74号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状 長軸4.37m、短軸4.20mの方形で、主軸はN-9°-Wであり、壁高は20～64cmでほぼ直立する。床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4～10cmで、北壁を除いた壁下で検出されている。

竈 北壁の中央部を壁外へ13cmほど掘り込み、粘土などで構築している。規模は両袖部幅89cm、焚口部から煙道部までの長さ87cmである。火床部は床面から2cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。竈内の覆土中層から土師器片が逆位で出土している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック中量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1～4で、深さは16～22cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ18cmで、南壁際中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

- 1 黄褐色 粘土ブロック中量

P2土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子微量
2 黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

P3土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 灰白色 粘土ブロック中量、炭化物微量
3 にぶい黄褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量

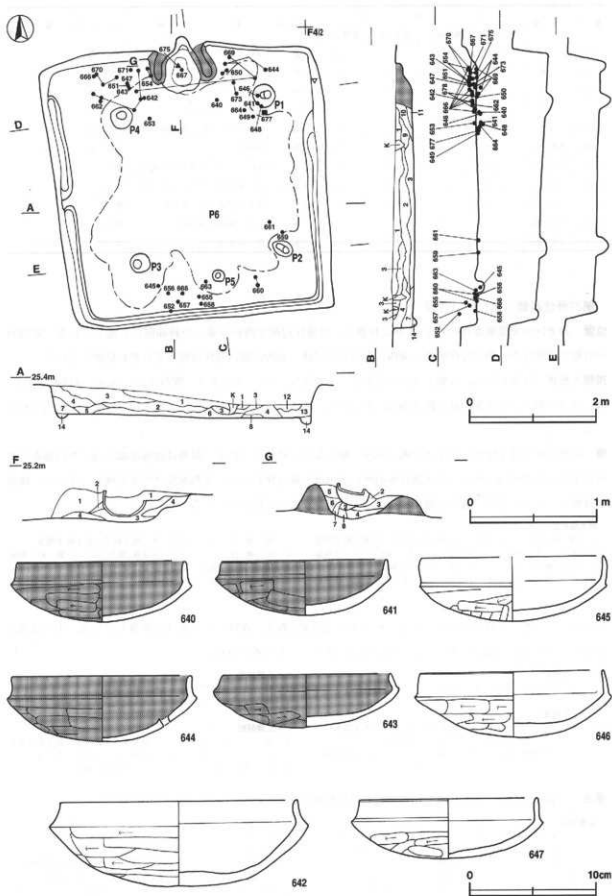
P4土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰白色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

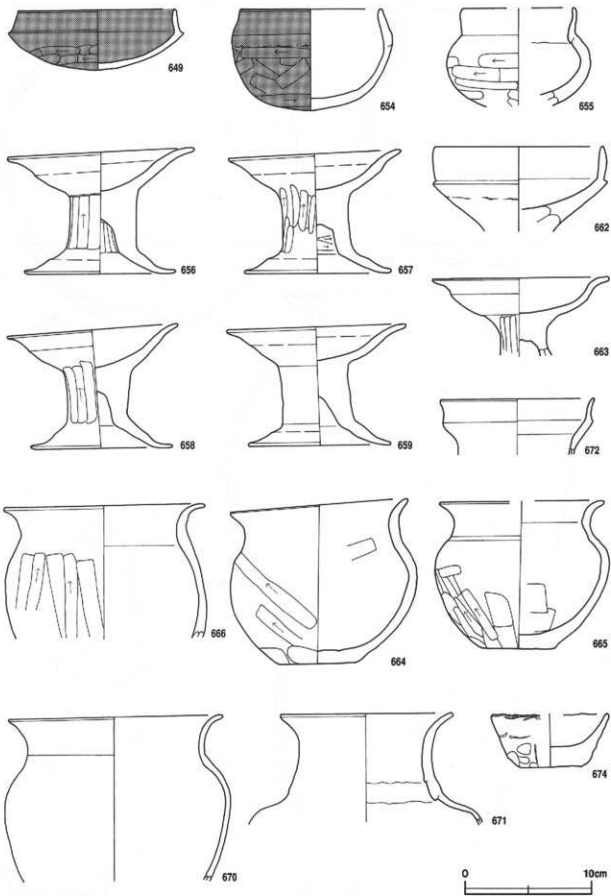
覆土 14層からなる。西から流れ込んでいる自然堆積の状況を示している。

土層解説

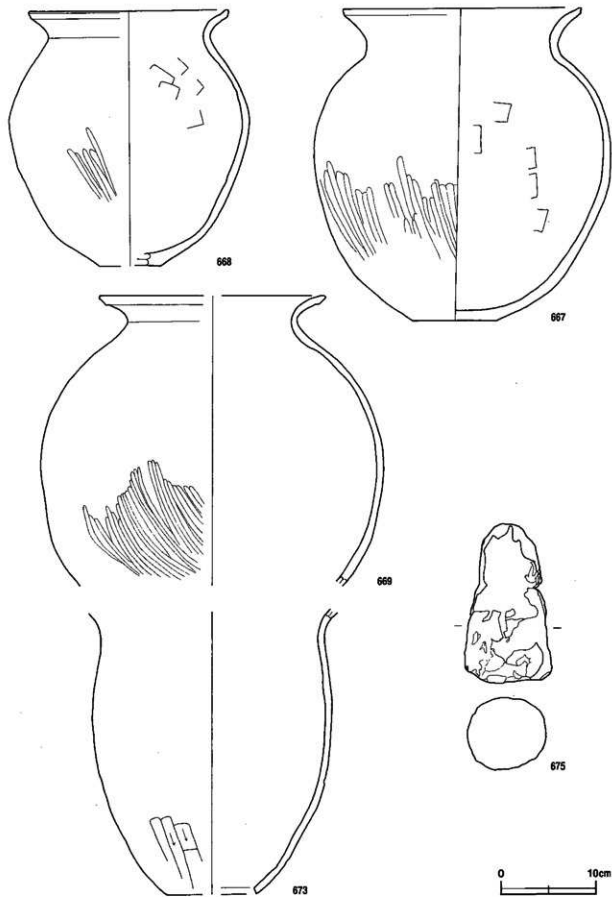
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 12 黒暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |



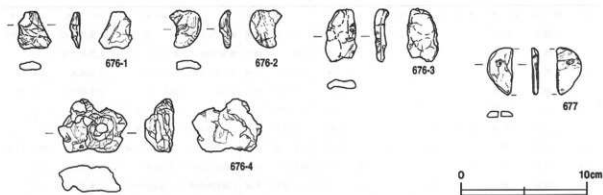
第109图 第77号住居跡・出土遺物実測図(1)



第110图 第77号住居跡出土遺物実測図(2)



第111图 第77号住居跡出土遺物実測図(3)



第112図 第77号住居跡出土遺物実測図(4)

遺物出土状況 土師器片1168点(坏522・輪5・壺1・甕639・手捏土器1)、須恵器片8点(坏1・短頸壺2・不明5)、土製品11点(支脚2・不明9)、礫5点が出土している。これらの遺物は竈の両脇と南壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。土師器坏が竈東脇の床面から正位で重なって出土し、また、その南側では土師器甕がつぶれた状態で床面に広がり、竈西脇から北西コーナー部の壁に沿って土師器甕の口縁部片が並んで出土し、さらに、その南側では土師器坏が床面に正位で重なって出土している。また、土師器高坏が南壁際中央部のP5付近の覆土下層から出土している。このほかには、混入した縄文土器片42点、石器2点(鎌、磨石)や攪乱によって混入した陶器片1点が出土している。出土状況から640・642・644・646・647・664・669～671・673は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。土師器坏は竈の両脇の床面から正位で重なり合っており、土師器甕の口縁部片が竈西脇に北壁に沿って、東脇からつぶれた状態でそれぞれ床面から出土しており、当時の生活の様子が窺い知ることができ、炭化材や焼土の集中部分は確認できなかったが、火災などの突然の原因で放棄されたと考えられる。また、土師器高坏が南壁際中央部のP5付近の覆土下層から出土しているが、堆積状況から投棄されたものと考えられる。主柱穴内の粘土が混入しているので、第51号住居跡と同様に柱を固定するのに使用された可能性がある。

第77号住居跡出土遺物観察表(第109・110・111・112図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
640	土師器	坏	13.2	4.8	-	灰石・砂粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	100% PL88
641	土師器	坏	13.0	4.4	-	灰石・砂粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ、底部外側へラ張り。	北東部下層	100% PL87
642	土師器	坏	18.8	6.7	-	灰石・砂粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北西部下層	95% PL89
643	土師器	坏	13.4	4.2	-	灰石・砂粒子	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	95% PL89
644	土師器	坏	14.2	5.2	-	灰石・砂粒子	にぶい黄橙	普通	外側へラ張りナデ、底部に底壁穴あり。	北東部下層	90%
645	土師器	坏	[14.4]	5.0	-	灰石・砂粒子	黒褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南部床面	70%
646	土師器	坏	14.5	5.2	-	灰石・砂粒子	にぶい黄橙	普通	底部外面へラ張り後、ナデ。	北東部下層	80%
647	土師器	坏	14.1	4.7	-	灰石・砂粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面へラ張り後、ナデ。	北西部下層	80% PL89
649	土師器	坏	[12.4]	4.2	-	灰石・砂粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ張り後、ナデ。	北東部床面	80% PL87
654	土師器	輪	10.9	8.0	-	灰石・砂粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部下層	85% PL89
655	土師器	輪	[8.8]	(7.7)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部中層	40%
656	土師器	高坏	14.9	9.9	12.0	灰石・砂粒子	橙	普通	脚柱内面縦位のへラ張り。	南部床面	85% 3級残片
657	土師器	高坏	13.6	9.7	11.4	灰石・砂粒子	にぶい橙	普通	脚柱内面へラ張り後、ナデ。	南部中層	85% 3級残片
658	土師器	高坏	13.5	9.8	11.2	灰石・砂粒子	にぶい橙	普通	脚柱内面縦位のへラ張り。	南部下層	85% 2級残片

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
659	土師器	高坏	14.1	9.5	11.3	灰石・赤色胎子	にぶい橙	普通	脚柱内面底面のヘラ削り。	南東部床面	8% 二次焼成
662	土師器	高坏	13.4	(6.7)	-	灰石・赤色胎子	灰褐色	普通	体部外面ヘラ削り後、ナデ。	北西部下層	50%
663	土師器	高坏	13.7	(6.1)	-	灰石・赤色胎子	明黄褐色	普通	脚柱内面横底のヘラ削り。	南部床面	55%
664	土師器	小形甕	14.0	12.9	6.0	灰石・赤色胎子	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘナナテ、底部断面1方向のヘラ削り。	北東部床面	95% PL89
665	土師器	小形甕	13.0	11.6	5.7	灰石・赤色胎子	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘラナテ。底部外面ナテ。	覆土中	70%
666	土師器	小形甕	15.8	(10.6)	-	灰石・赤色胎子	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面横ナテ。体部内面ナテ。	北西部下層	40%
667	土師器	甕	[25.0]	33.0	8.9	灰石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナテ。底部外面ヘラ削り。	壺下層	60% PL89
668	土師器	甕	[20.8]	27.0	[6.4]	長石・雲母	明赤褐色	普通	口縁部両面横ナテ。体部内面ヘラナテ。	南部床面	40%
669	土師器	甕	[23.8]	(30.7)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部両面横ナテ。体部内面ナテ。	北東部下層	30%
670	土師器	甕	16.8	(13.0)	-	灰石・赤色胎子	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り後、ナデ。	北西部下層	30%
671	土師器	甕	13.4	(8.9)	-	灰石・赤色胎子	橙	普通	口縁部両面横ナテ。体部内面横底。	北部下層	30%
672	土師器	甕	12.0	(4.4)	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縁部。胴部両面ナテ。	覆土中	20%
673	土師器	甕	-	(30.0)	[9.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナテ。外面下半部ヘラ削り。	北東部下層	90% PL89
674	土師器	手懸土器	[9.0]	4.2	5.0	灰石・赤色胎子	浅黄褐色	普通	底部外面ナテ。	覆土中	40%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
675	支脚	16.8	9.3	7.7	852.0	土製	指頭状。	壺下層	
676①	不明土製品	2.9	2.7	0.8	3.52	土製	ナテ。指頭状のほか、棒状工具印痕。	覆土中	PL115
676②	不明土製品	3.0	2.5	0.9	3.72	土製	ヘラ状工具痕。指頭状。	覆土中	PL115
676③	不明土製品	(4.2)	2.4	1.1	7.0	土製	両面に指頭状。棒状工具印痕。	覆土中	PL115
676④	不明土製品	4.2	5.5	2.3	33.8	土製	1~4個の互差し、上面が粗面状で彫られている。	覆土中	PL115
677	双孔円板	(3.7)	(2.0)	0.5	5.3	滑石	穿孔は近接して2か所、未貫通1か所。	北東部床面	PL117

第78号住居跡(第113図)

位置 調査区の中央部東寄りのF319区に位置し、西から東への斜面部に立地している。周辺の同時期の建物は北西に第50号住居跡、南西に第93号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北西部が第75号住居跡を掘り込み、南部が第6号溝、東部が第7号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.90m、短軸3.65mの方形で、主軸はN-0°であり、壁高は20cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ6cmで、西壁と南壁の一部の壁下で検出されている。

竈 火床部と竈材と思われる焼土や粘土を北壁の中央部から検出したが、破壊されているため全容は不明である。その痕跡からみると、北壁の中央部を壁外へ8cmほど掘り込み、粘土ブロックなどで構築されたと考えられる。焼土や粘土の広がりから、規模は両袖部幅120cm、焚口部から煙道部までの長さ96cmと推定される。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受け赤変しているが硬化していない。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量
2 暗赤褐色 焼土ブロック少量

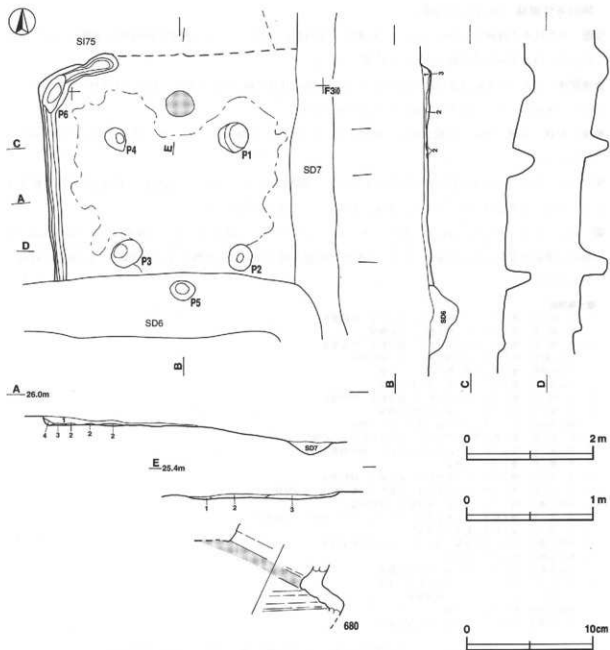
3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量

ピット 6か所。主柱穴はP1~4で、深さは36~45cmであり、各コーナー寄りに位置している。P5は深さ25cmで、中央部南壁寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は北西コーナー部の壁溝の底面から確認され、壁柱穴と考えられる。

覆土 4層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 褐色 ローム粒子中量、ロームブロック少量



第113図 第78号住居跡・出土遺物実測図

- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片34点(坏24・寛10)、須恵器片2点(坏)が出土している。これら遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片5点や灰軸陶器片2点(瓶)が出土している。680は出土状況から本跡に伴わず、出土土器は細片で図示できるものはない。

所見 本跡は、7世紀前半の第75号住居跡を掘り込んでいることから、時期は7世紀前半以後と考えられる。

第78号住居跡出土遺物観察表(第113図)

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
680	灰軸陶器	平板	-	(4.0)	-	-	長石	オリーブ灰白	良好	良好	体部内面クロコナテ。	覆土中	5%

第81号住居跡 (第114・115図)

位置 調査区中央部南寄りのG 3 b6 区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は、南に第85号住居跡、西に第86号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南西部が第83号住居跡を掘り込み、西部を第82号住居跡、南壁中央部を第88号住居跡、南東コーナー付近から南西コーナー部を第14号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.24m、短軸4.84mの南北に長い長方形で、主軸はN-13°-Eであり、壁高は36~38cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ5~13cmで、竈部分と第88号住居跡に掘り込まれた南壁の中央部は不明であるが、本来は全周していたものと考えられる。

竈 北壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込み、粘土ブロックなどで構築している。規模は両袖部幅143cm、焚き口部から煙道部までの長さ118cmである。火床部も床面と同じ高さで、火熱を受け赤変硬化し、煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

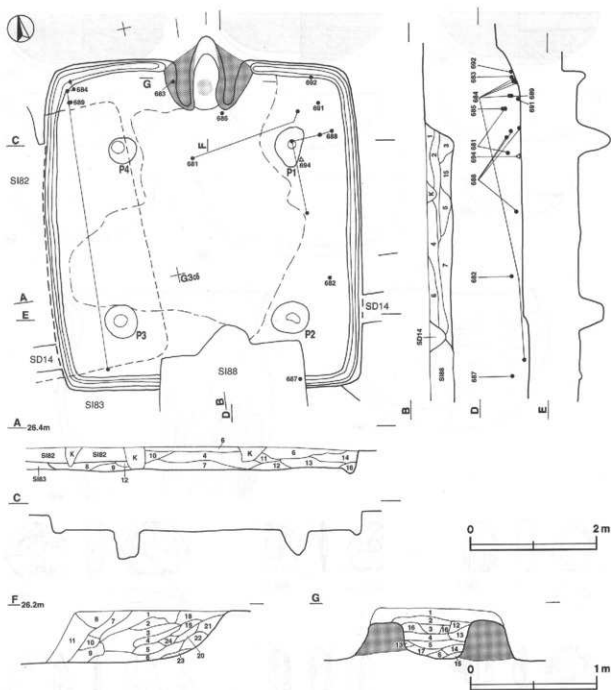
- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック・砂粒微量
- 5 極暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック少量
- 6 極暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 8 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 極暗赤褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 10 灰褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 11 黒褐色 焼土ブロック・炭化材・粘土粒子・砂粒微量
- 12 黒褐色 焼土ブロック微量
- 13 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 14 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 15 極暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子・砂粒微量
- 16 黒褐色 粘土粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 17 黒褐色 粘土粒子・粘土粒子微量
- 18 極暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 19 極暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 20 極暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 21 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 22 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量
- 23 極暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 24 極暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1~4で、深さは43~52cmであり、各コーナー寄りに位置している。

覆土 16層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

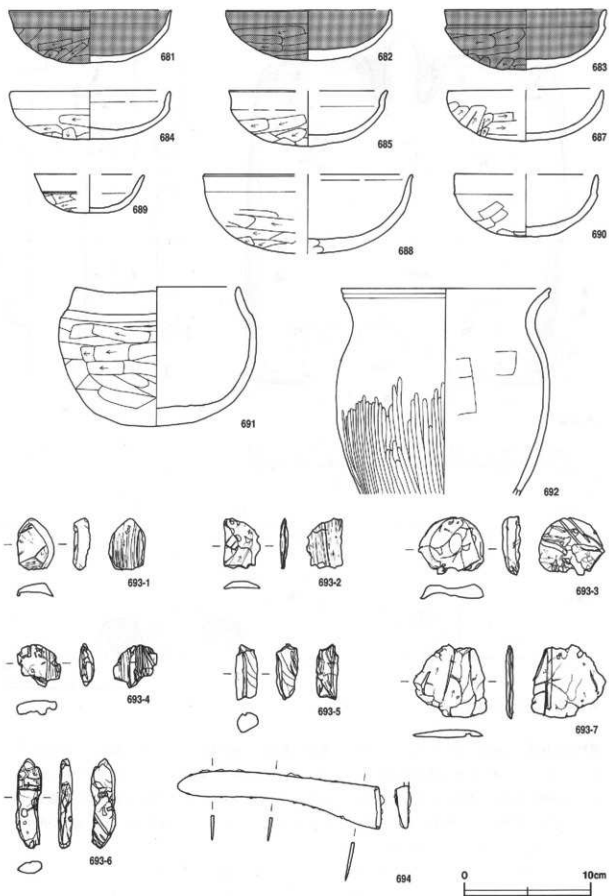
- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 6 新暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 12 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 13 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 14 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 15 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 16 黒褐色 ロームブロック微量



第114図 第81号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片1345点(坏716・高坏2・碗15・甕612), 須恵器片24点(坏23・甌1), 土製品61点(不明), 鉄製品2点(鎌・不明), 礎8点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが、特に北西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには、混入した縄文土器片43点, 弥生土器片7点, 石器・石製品2点(磨製石斧1・剝片1)や、攪乱によって混入した灰釉陶器片1点(壺)が出土している。出土状況から683・689・691・692は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。この地区では4軒が重複しているが、第81・83号住居跡は古墳時代後期, 第82・88号住居跡は9世紀代と大きく2期に分けられる。前述の第67～70号住居跡の4軒が重複している地区との間隔は8mで、傾斜面肩部の平坦部に構築された住居跡である。



第115图 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
681	土師器	坏	12.9	4.2	—	灰石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部中層	95% PL90
682	土師器	坏	13.0	4.0	—	灰石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	南部中層	95% PL90
683	土師器	坏	12.8	4.7	—	灰石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部下層	60% PL90
684	土師器	坏	12.6	3.9	—	長石・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部両面横ナデ。	西部下層	60%
685	土師器	坏	[12.5]	4.5	—	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面、体部内面横ナデ。	北部中層	65% PL90
687	土師器	坏	[12.4]	4.1	—	灰石・赤色粒子	明黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	西部中層	30%
688	土師器	坏	[16.6]	6.4	—	灰石・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部両面横ナデ。	北部中層	50%
689	土師器	坏	[8.7]	3.1	—	灰石・赤色粒子	黄	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	20%
690	土師器	坏	[11.4]	4.9	—	長石・石英・赤色粒子	黄	普通	体部外面へウ削り後、ナデ、底部外面ハケ状のへウ削り。	覆土中	20%
691	土師器	碗	13.1	10.9	—	灰石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内面、体部内面横ナデ。	北部床面	100% PL89
692	土師器	小形壺	16.6	(16.3)	—	灰石・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部内面へウナデ。	北部下層	70%

番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
693①	不明土製品	4.0	3.0	1.3	6.8	土製	ナデ、及びへウ削り痕、背面はへウ削り痕。	覆土中	PL115
693②	不明土製品	4.9	3.0	0.6	4.0	土製	木炭痕、へウ削り痕跡。	覆土中	PL115
693③	不明土製品	4.5	5.2	0.9	21.4	土製	ナデ及び削り痕、背面はへウ削り痕跡に木炭痕。	覆土中	PL115
693④	不明土製品	3.4	3.5	1.2	6.2	土製	ナデに削り加工痕、背面は削り加工痕に木炭痕。	覆土中	PL115
693⑤	不明土製品	4.3	1.8	1.6	9.3	土製	削り痕の粒をまとめている。ナデ及び削り加工痕。	覆土中	PL115
693⑥	不明土製品	7.0	2.1	1.0	12.4	土製	扁平で上下に平坦面、棒状工具痕。	覆土中	PL115
693⑦	不明土製品	5.8	5.8	0.5	14.0	土製	へウ削り痕跡及び削り痕、背面は削り痕跡。	覆土中	PL115
694	鏝	16.3	3.0	0.2	47.1	鉄	柄付部全面折り曲げ。	北部床面	PL118

第83号住居跡 (第116・117図)

位置 調査区中央部南寄りのG3c5区に位置し、平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第62号住居跡、西に第137号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 北コーナー付近を第81号住居跡、北西壁を第82号住居跡、南コーナー部を第84号住居跡、東コーナー部を第88号住居跡、P4付近を第45号土坑、北東壁中央部から西コーナー部にかけて第14号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.69m、短軸5.50mの方形で、主軸はN-26°-Wであり、壁高は28~36cmでほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4~8cmで、竈部分を除いて全周している。

竈 第82号住居跡の床下で確認され、北西壁の中央部を壁外へ44cmほど掘り込み、粘土などで構築している。

北東軸は第81号住居跡に掘り込まれて遺存状況は不良であるが、確認できた規模は両袖幅98cm、焚口部から煙道部までの長さ95cmである。火床面は床面から4cmほど掘り窪められ、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

覆土層解説

- 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- にぶい赤褐色 焼土ブロック中層、炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- にぶい赤褐色 焼土粒子中層、炭化粒子少量、ローム粒子微量